

飯塚市食育推進計画策定のための アンケート調査結果報告

平成 22 年 11 月 19 日

飯 塚 市

目 次

I. 調査の概要	1
II. アンケート調査結果	3
1. 食に関するアンケート調査結果（小学生）	5
2. 食に関するアンケート調査結果（中学生）	23
3. 食に関するアンケート調査結果（高校生）	43
4. 「飯塚市食育推進計画」策定に向けたアンケート調査結果（成人） ..	65
III. 総括	91

I. 調査の概要

1) 調査の目的

食育基本法に基づき、市民の心身の健康増進と豊かな人間形成を理念とした飯塚市食育推進計画の策定のために、市民の食に関する現状と意識を把握するためにアンケート調査を実施する。

2) 調査対象

- | | | |
|-------|--------------------------|--------|
| ① 小学生 | 4校（伊岐須小、平恒小、庄内小、穎田小）の5年生 | 294人 |
| ② 中学生 | 3校（飯塚一中、穂波東中、筑穂中）の2年生 | 351人 |
| ③ 高校生 | 市内公立高校の2年生 | 309人 |
| ④ 成人 | 飯塚市に住民票を有する満20歳以上の男女 | 3,000人 |

3) 調査方法

小学生、中学生、高校生は、直接配布、直接回収
成人は、郵送配布、郵送回収

4) サンプル数（配布数・回収数）

対象者	配布数	回収数	回収率
① 小学生	294	287	97.6
② 中学生	351	338	96.3
③ 高校生	309	302	97.7
④ 成人	3,000	1,259	42.0
計	3,954	2,186	55.3

5) 実施時期

平成22年10月5日～10月20日

※調査結果利用上の注意

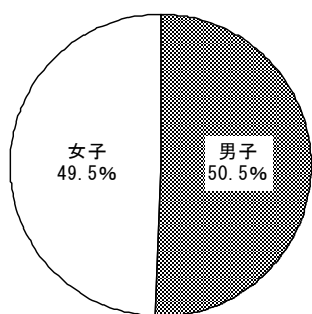
- ① 図表中のNは、回答者全員、nは限定された回答者の数（母数）であり、回答率（%）の分母となっている。
- ② 2つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は原則として100%を超える。

Ⅱ. アンケート調査結果

1. 食に関するアンケート調査結果（小学生）

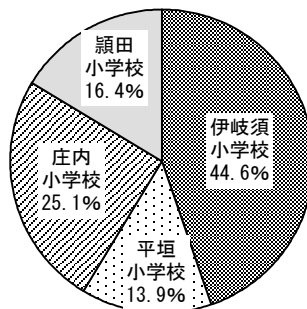
問1 あなたの性別はどちらですか
(どちらかに○)

・男女同程度である。



N = 287

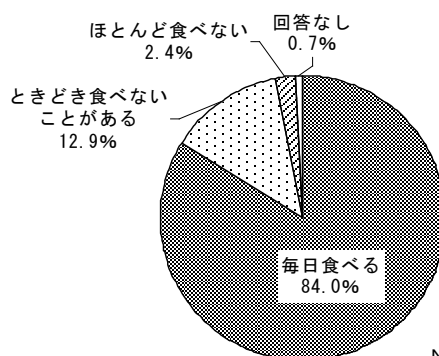
問2 あなたが通学している学校はどこですか
(学校名を書いてください)



【 全体 】

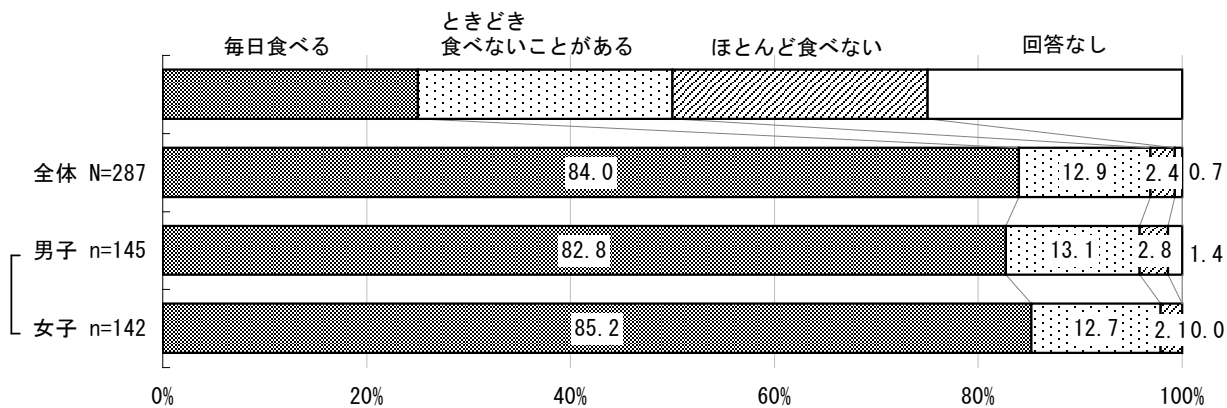
問3 あなたは、朝ごはんを食べていますか
(1つに○)

・「毎日食べる」人が84.0%で最も割合が高い。
「ときどき食べないことがある」児童も12.9%いる。



N = 287

【 全体・性別 】

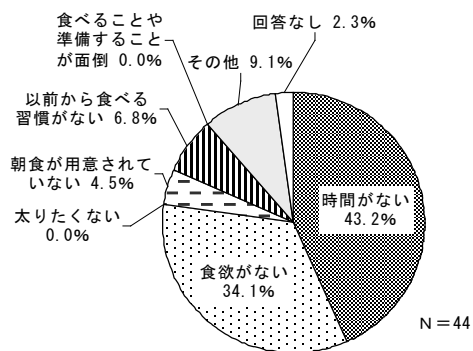


《問3で、「2. ときどき食べないことがある」「3. ほとんど食べない」と答えた人におたずねします》

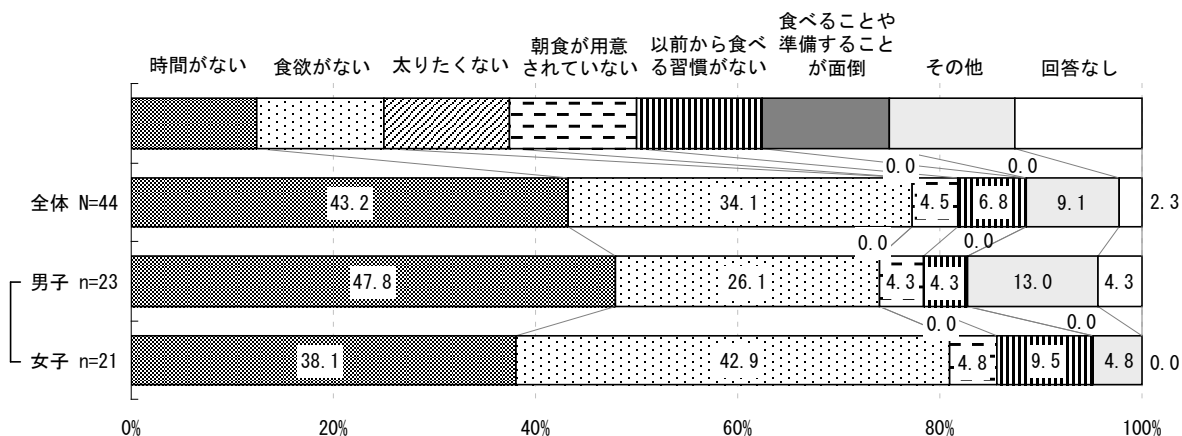
問3-1 朝ごはんを食べない一番大きな理由は何ですか（1つに○）

- ・「時間がない」が43.2%で最も割合が高く、次いで「食欲がない」が34.1%である。
- ・「時間がない」は男子で最も割合が高く、「食欲がない」は女子で最も割合が高い。

【 全 体 】



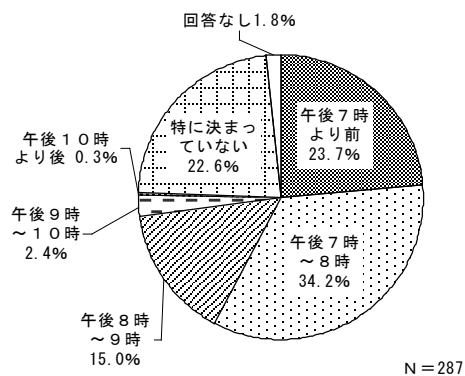
【 全 体・性 別 】



問4 あなたは、夕食を何時ごろ食べますか（1つに○）

- ・「午後7時～8時」が34.2%で最も割合が高く、次いで「午後7時より前」、「午後8～9時」となっている。
- ・「特に決まっていない」は22.6%いる。

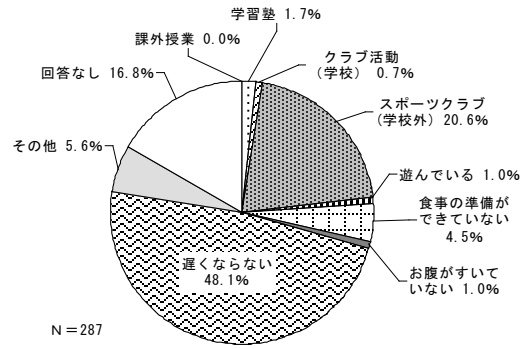
【 全 体 】



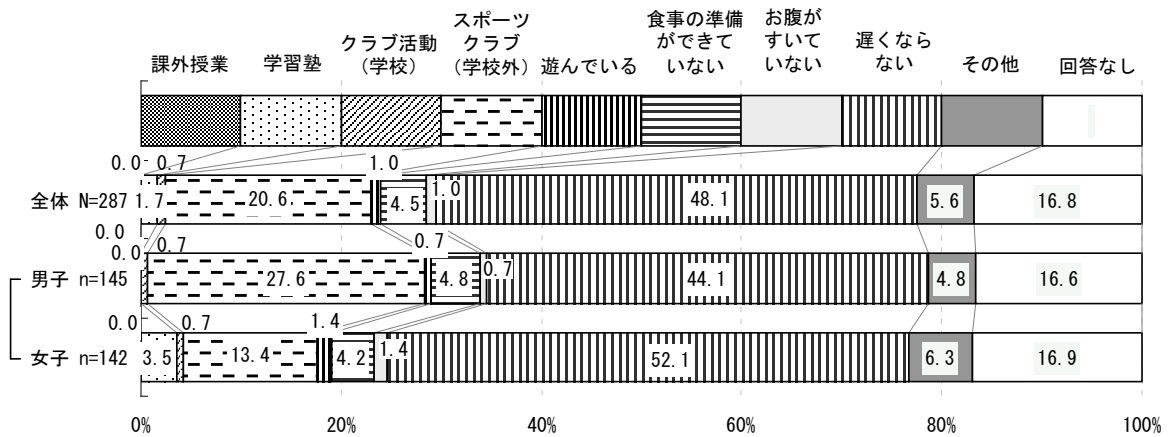
【 全 体 】

問5 あなたの夕食時間が8時以降になる一番大きな理由はなんですか
(1つに〇)

・「遅くならない」が48.1%で最も割合が高く、次いで「スポーツクラブ(学校外)」となっている。
・男子が女子に比べ、「スポーツクラブ(学校外)」の割合が高い。



【 全 体・性 別 】

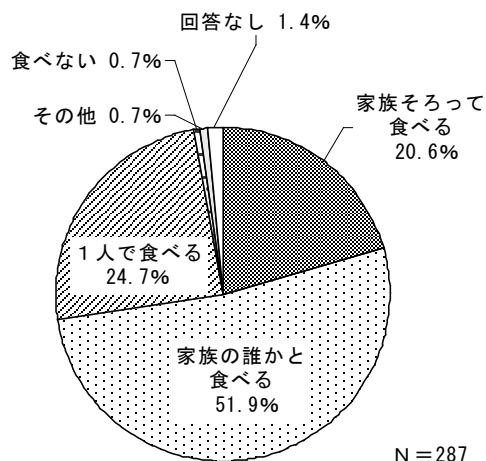


問6 あなたは、ふだんだれと食事をすることが多いですか

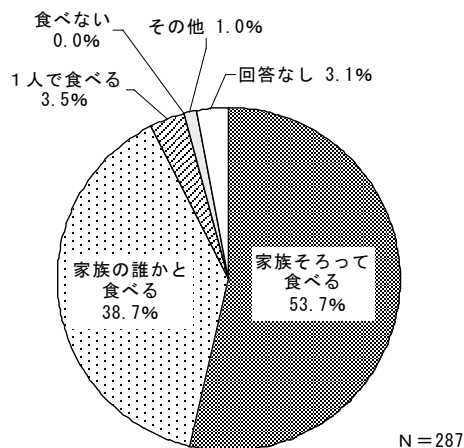
◆ 朝食 (1つに○) ◆ 夕食 (1つに○)

- ・朝食は「家族の誰かと食べる」が 51.9%で、次いで「1人で食べる」、「家族そろって食べる」となっている。朝食を1人で食べる児童が、4人に1人となっている。
- ・夕食は「家族そろって食べる」が 53.7%、次いで「家族の誰かと食べる」が 38.7%となっている。

【 朝 食 : 全 体 】



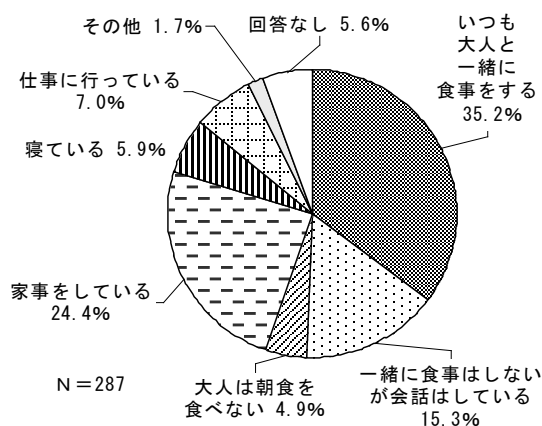
【 夕 食 : 全 体 】



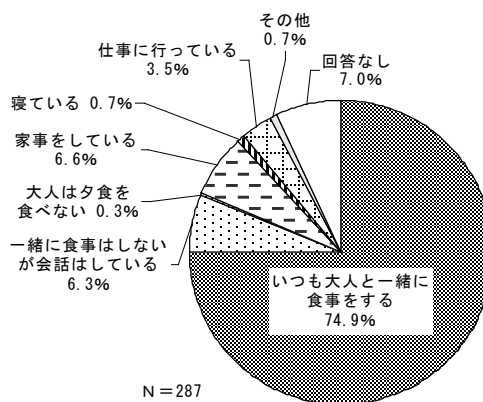
問7 あなたは、ふだん子どもだけで食事をすることがありますか、そのとき大人はどうしていますか ◆ 朝食 (1つに○) ◆ 夕食 (1つに○)

- ・朝食は「いつも大人と一緒に食事をする」が 35.2%で、次いで「家事をしている」、「一緒に食事はしないが会話している」となっている。
- ・夕食は「いつも大人と一緒に食事をする」が 74.9%で最も割合が高い。

【 朝 食 : 全 体 】

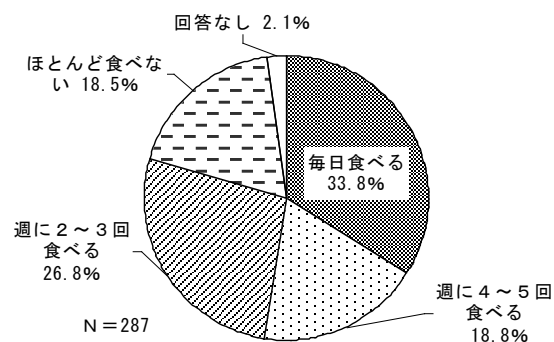


【 夕 食 : 全 体 】



問8 あなたは、ふだん昼食から夕食までの間におやつを食べたり飲んだりしますか（1つに○）

・「毎日食べる」が33.8%で最も割合が高いが、子どもにより週の回数は分散している。

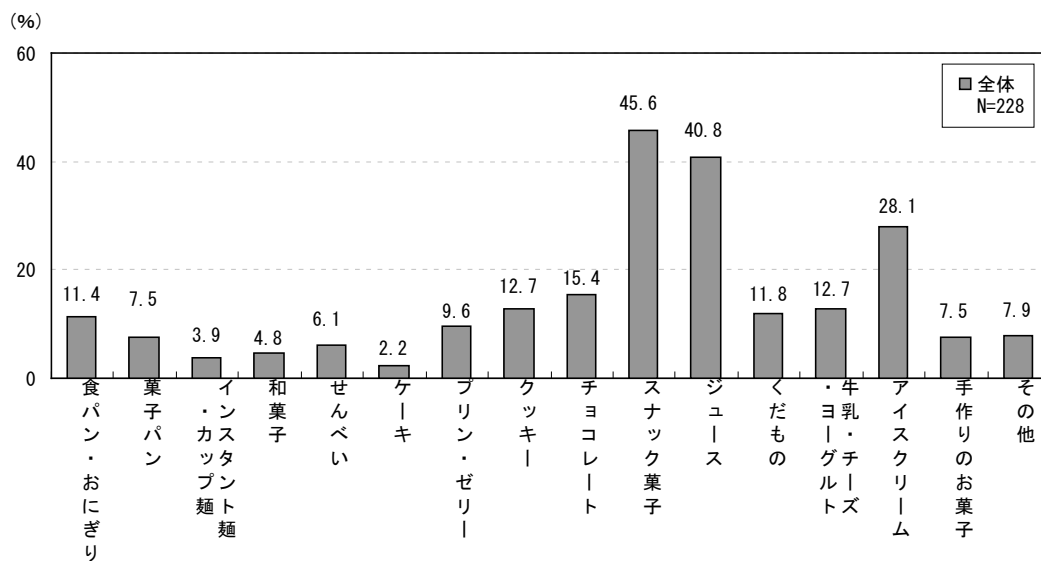


《問8で、「1. 毎日食べる」「2. 週に4~5回食べる」「3. 週に2~3回食べる」と答えた人におたずねします》

問8-1 あなたが、昼食から夕食までによく食べたり飲んだりするものはなんですか（○は3つまで）

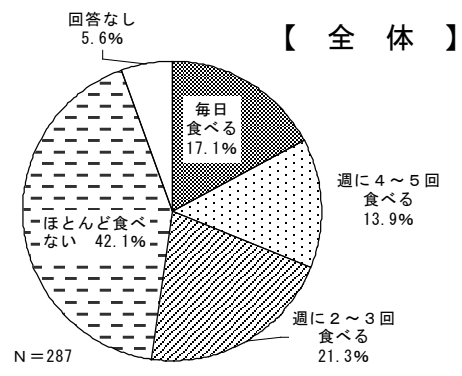
・最も割合の高いものから、「スナック菓子」、「ジュース」、「アイスクリーム」となっている。

【 全 体 】

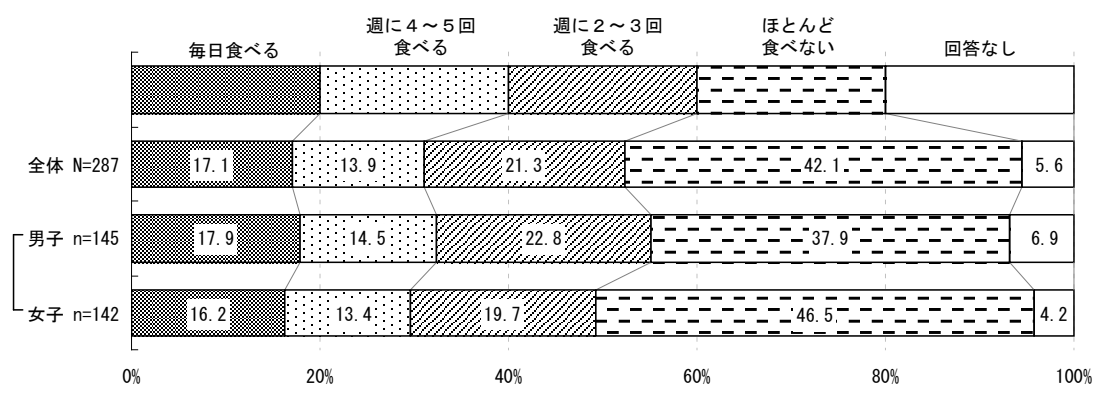


問9 あなたは、ふだん夕食を食べて寝るまでの間に何か食べていますか（ジュースなどの飲み物もふくみます）
（1つに○）

・「ほとんど食べない」が42.1%で最も割合が高いが、回答は分散している。
・「ほとんど食べない」については女子が男子に比べ割合が高い。



【 全 体・性 別 】

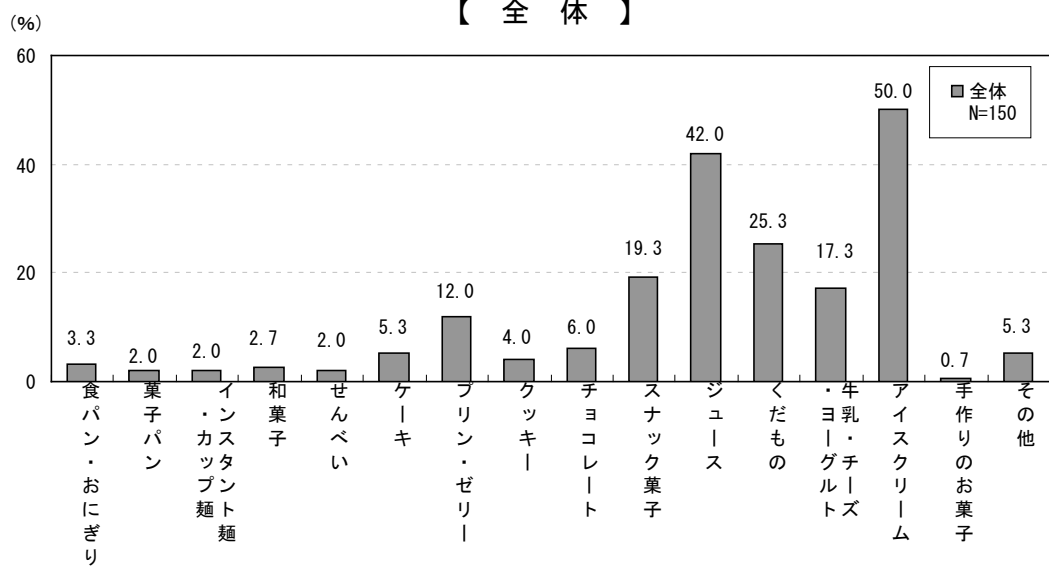


《問9で、「1. 毎日食べる」「2. 週に4~5回食べる」「3. 週に2~3回食べる」と答えた人におたずねします》

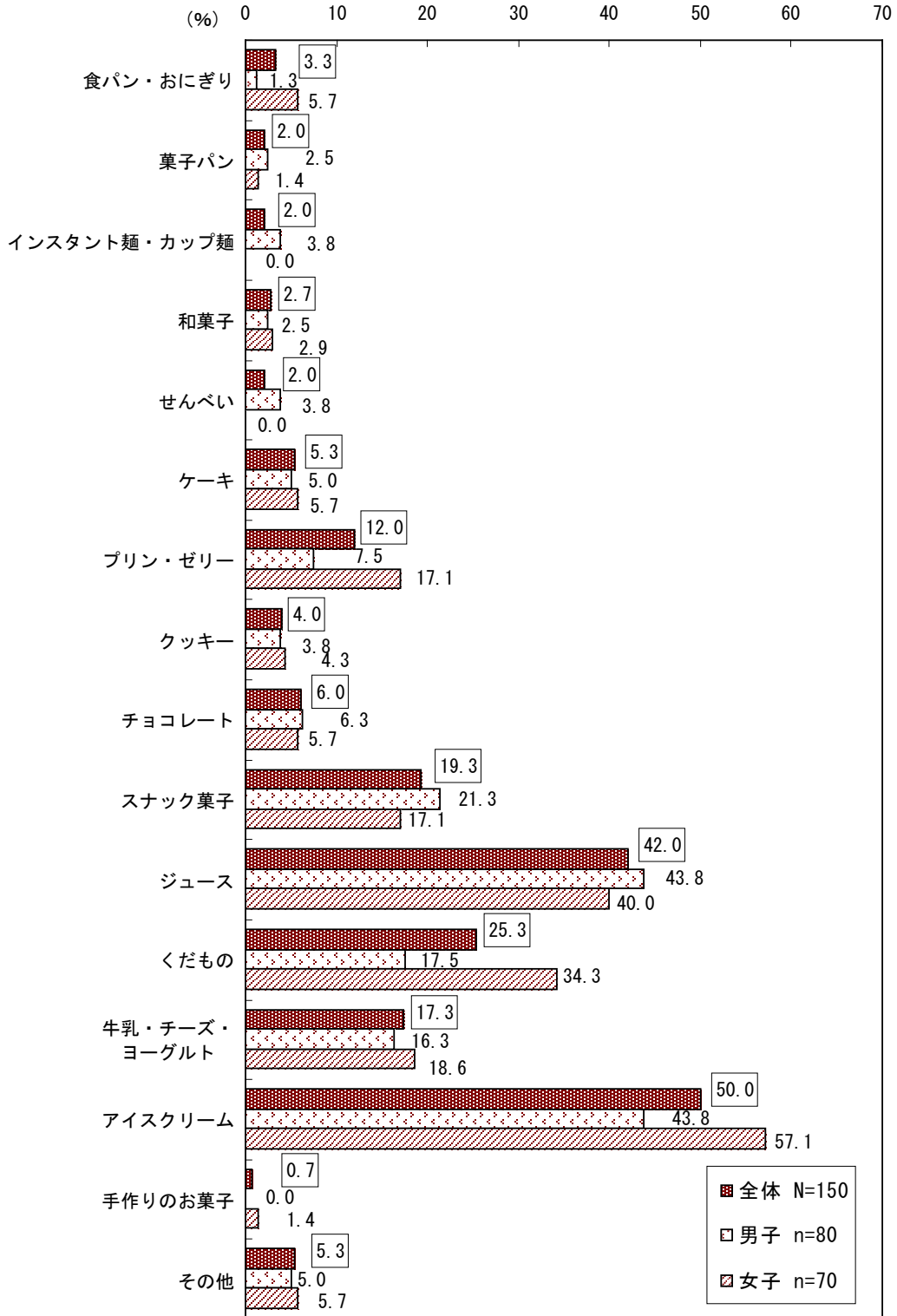
問9-1 あなたが、夕食後よく食べたり飲んだりするものは何ですか（○は3つまで）

・「アイスクリーム」、「ジュース」、「くだもの」、「スナック菓子」の順に多い。
・「アイスクリーム」、「くだもの」、「プリン・ゼリー」については特に女子が男子より割合が高い。

【 全 体 】



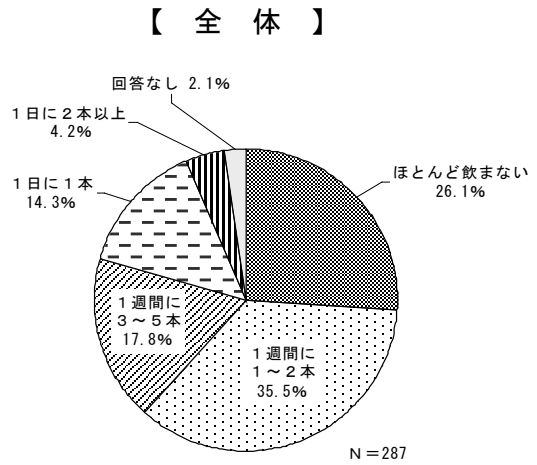
【 全 体・性 別 】



問10 あなたは、ジュース類（スポーツ飲料をふくむ）をどれくらい飲みますか（1つに○）

* 1本は500ミリリットルとします

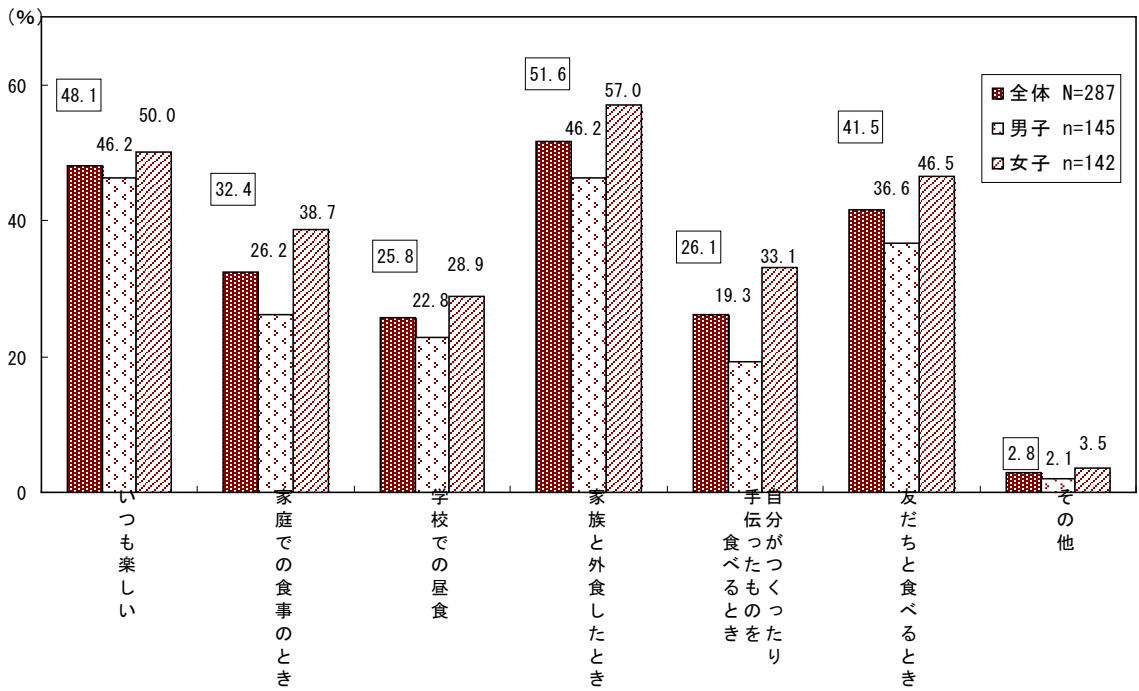
・「1週間に1～2本」が35.5%で最も割合が高く、次いで「ほとんど飲まない」、「1週間に3～5本」の順となっている。



問11 あなたは、どんな食事のときが楽しいですか（○はいくつでも）

・最も割合の高い順に「家族と外食したとき」、「いつも楽しい」、「友だちと食べるとき」となっている。

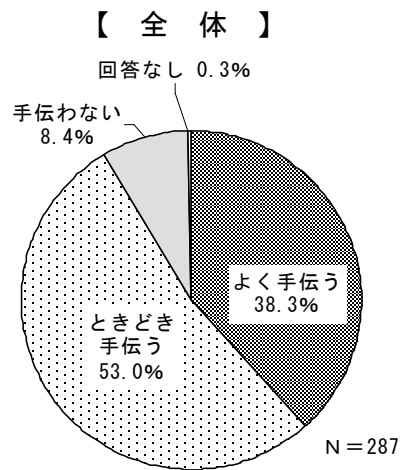
・女子が男子より楽しいと感じる割合が高い傾向にある。



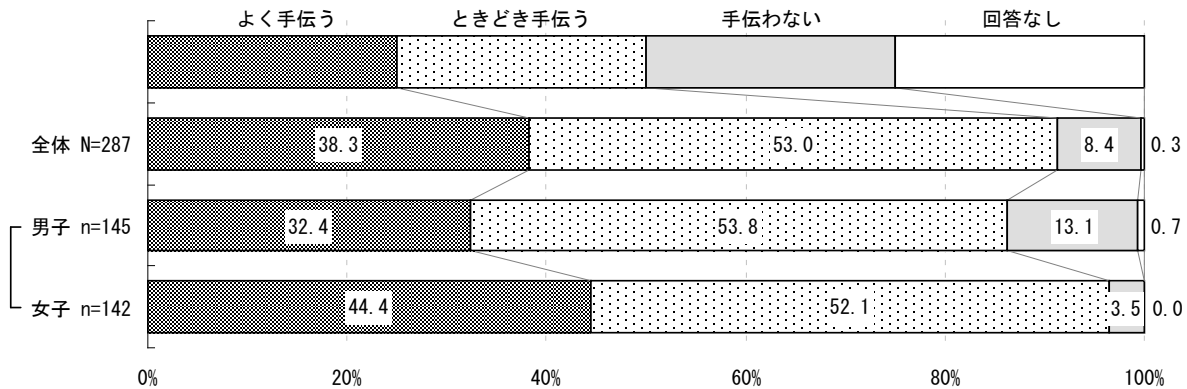
問12 あなたは、「食器をならべる」「一緒に料理する」など、食事の準備や食事づくりを手伝っていますか（1つに○）

・「ときどき手伝う」が53.0%で最も割合が高く、次いで「よく手伝う」が38.3%となっている。

・「よく手伝う」について、女子が男子より割合が高い。



【 全 体・性 別 】

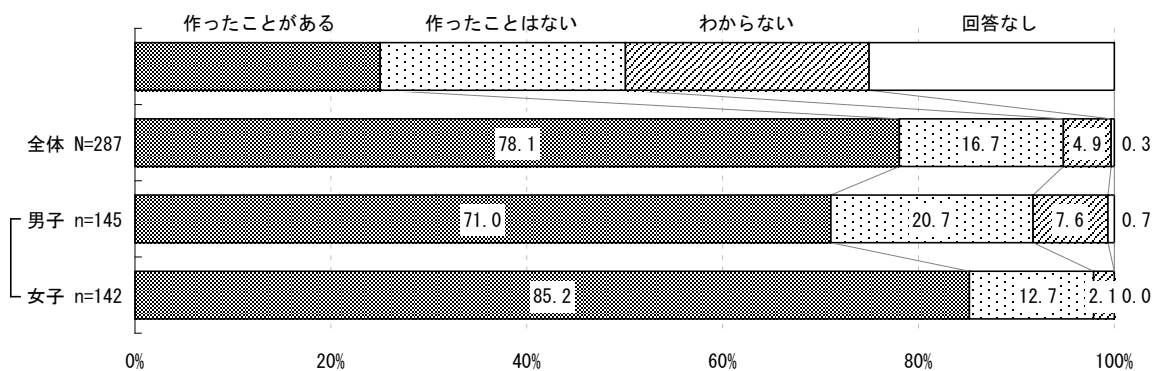


問13 あなたは、自分だけで料理を作ったことがありますか（1つに○）

・「作ったことがある」が78.1%で割合が高い。

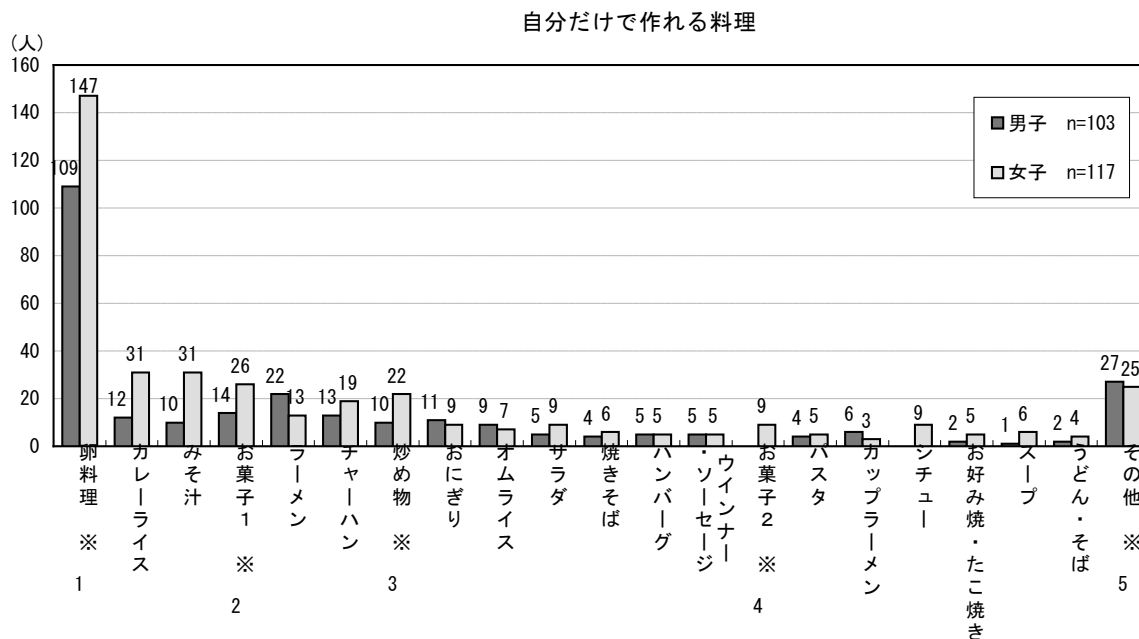
・女子の方が作ったことのある人が多い。

【 全 体・性 別 】



問13-1 あなたが、自分だけで作れる料理はなんですか（記述式）

- ・最も多いのは「卵料理」で、具体的には、たまご焼き、目玉焼き、スクランブルエッグ等があげられている。次いで、「カレーライス」、「味噌汁」である。
- ・ほとんどの料理が、女子の方が男子より多く、男子の方が多いのは、「ラーメン」、「おにぎり」等である。



※1・・・たまご焼き、目玉焼き、スクランブルエッグ、いりたまご、ゆでたまご、ハムエッグ、オムレツ、目玉焼きパン、温泉卵、ベーコンエッグ、玉子丼 等

※2・・・ホットケーキ、クッキー、クレープ、ドーナツ、カップケーキ、マフィン、抹茶ケーキ、チーズケーキ、ケーキ、サターアンダギー 等

※3・・・野菜炒め、肉野菜炒め、にらと卵の炒め物 等

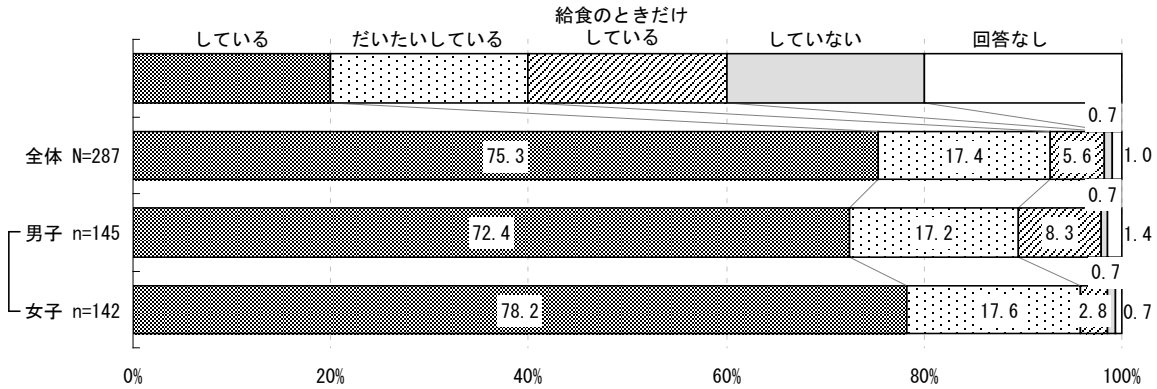
※4・・・ゼリー、生キャラメル、パフェ、レアチーズケーキ、チーズプリン、アイス、チョコバナナ 等

※5・・・卵ご飯、パン、ポテトサラダ、おかゆ、フルーツポンチ、おでん、親子丼、お茶漬け、ピザ、ポテトチップス、グラタン、唐揚げ、エビフライ、ステーキ、豚の角煮、ぎょうざ、エビチリ、冷やし中華、麻婆豆腐、とりそば、焼き魚、鍋、トマトときゅうりの料理、フレンチトースト、チーズしょう油ごはん、湯豆腐、手巻き寿司、焼肉、ポテト、やきいも、ヨーグルト、ジュース、ふりかけ、パイ、インスタントカレー、インスタント食品、何でも作る 等

問 14 あなたは、食事のときに「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをしていますか
(1つに○)

- ・「している」が75.3%で割合が高い。
- ・「している」、「だいたいしている」について女子が男子より割合が高い。

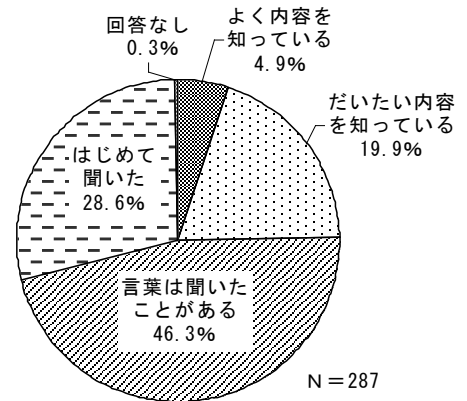
【 全 体 ・ 性 別 】



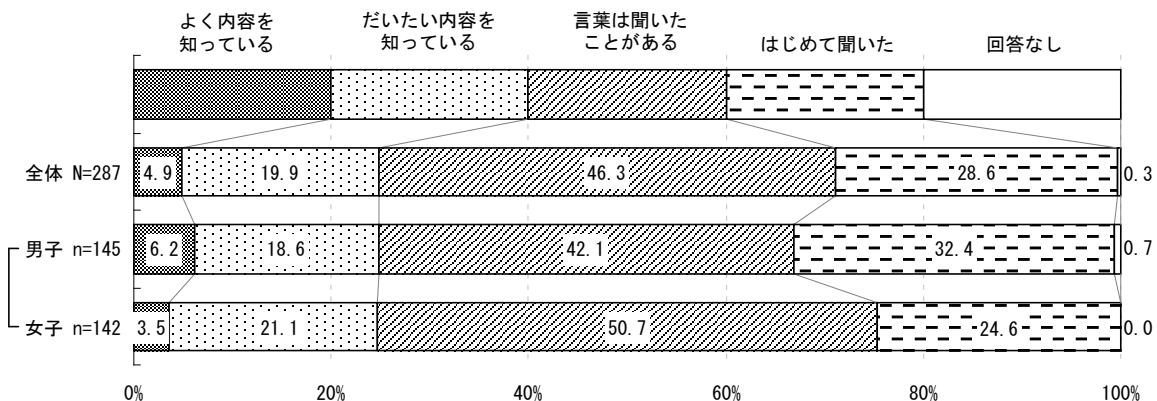
【 全 体 】

問 15 あなたは、「食育」という言葉やその意味を知っていましたか (1つに○)

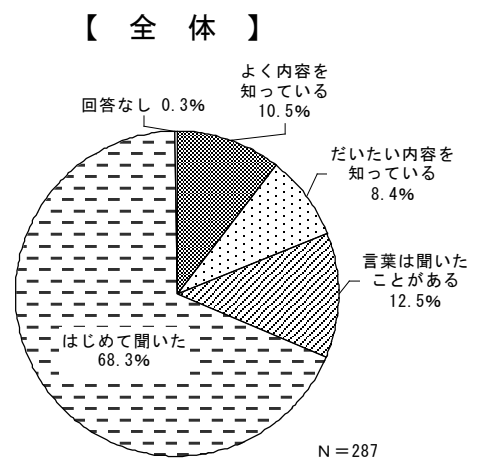
- ・「言葉は聞いたことがある」が46.3%で最も割合が高い。
- ・「だいたい内容を知っている」は19.9%いる。



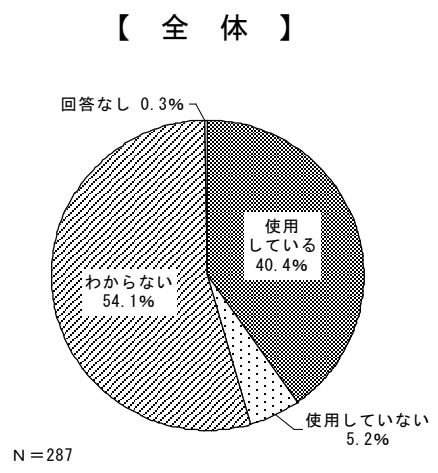
【 全 体 ・ 性 別 】



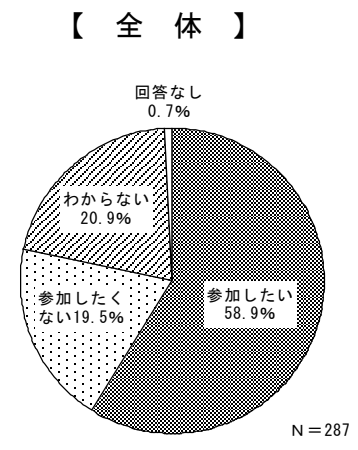
問 16 あなたは、「地産地消」という言葉やその意味を知っていましたか（1つに○）
 ・「はじめて聞いた」が68.3%で最も割合が高い。



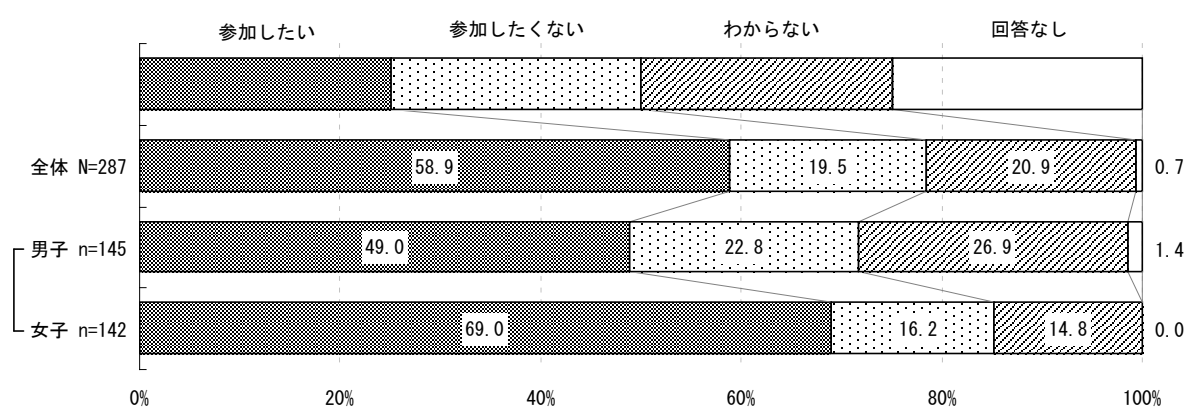
問 17 あなたの家庭では、地元でとれた農畜産物を使用していますか（1つに○）
 ・「使用している」は40.4%である。



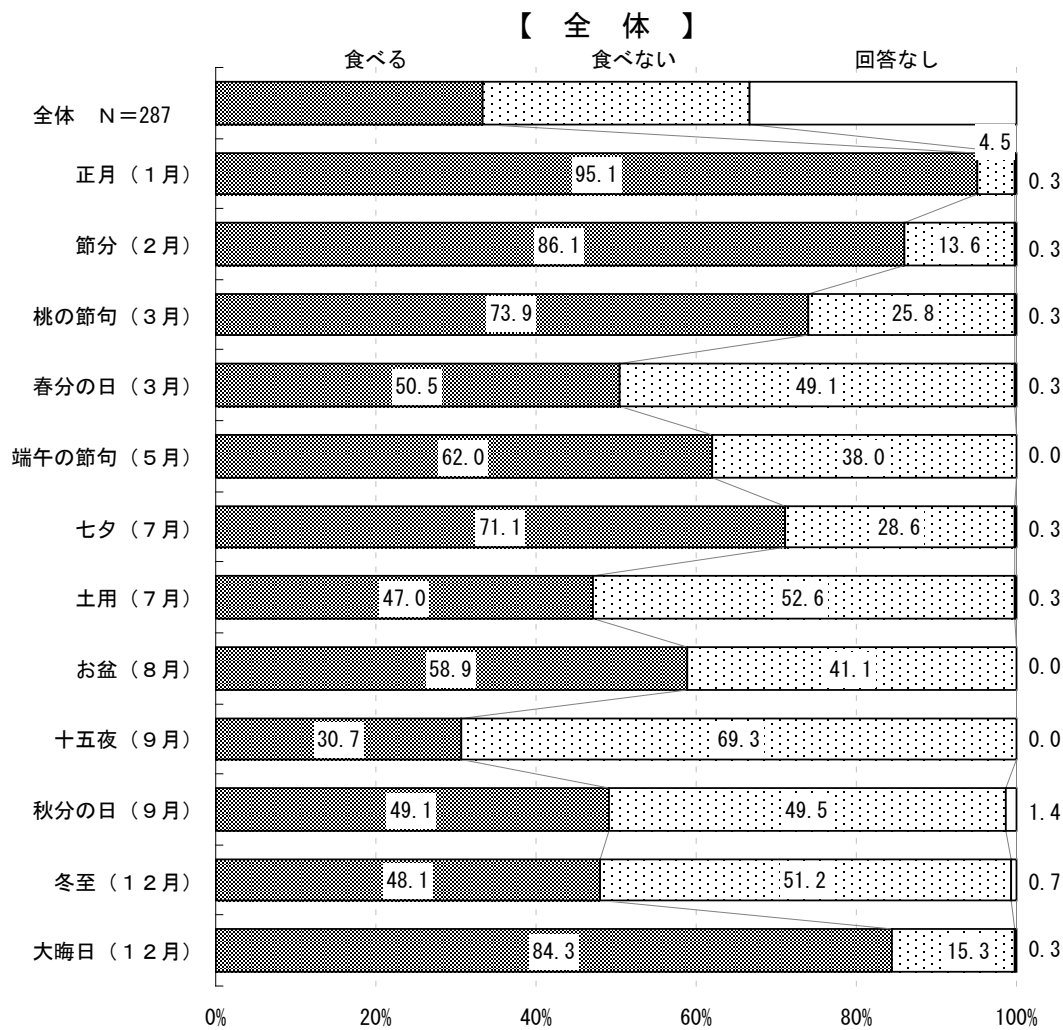
問 18 あなたは、学校や地域で農業体験を行う機会があれば参加してみたいと思いますか（1つに○）
 ・「参加したい」は58.9%であり、特に女子が男子より割合が高い。



【 全 体・性 別 】



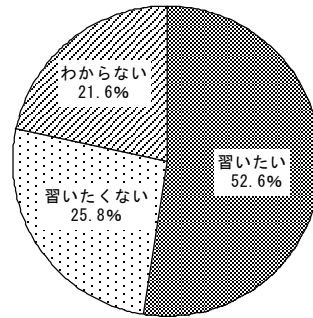
問19 あなたの家庭では次のような行事食を食べていますか（それぞれ1つに○）	
正月（1月：おせち、おぞうに、七草がゆ等）	・ 9割の人が食べている。
節分（2月：まめ等）	・ 9割近くの人が食べている。
桃の節句（3月：ひな菓子、五目すし等）	・ 7割の人が食べている。
春分の日（3月：ぼたもち等）	・ 5割の人が食べている。
端午の節句（5月：ちまき、かしわもち等）	・ 6割の人が食べている。
七夕（7月：そうめん等）	・ 7割の人が食べている。
土用（7月：うなぎ等）	・ 5割近くの人が食べている。
お盆（8月：盆だら（たらの煮物）、団子等）	・ 6割近くの人が食べている。
十五夜（9月：月見団子等）	・ 3割の人が食べている。
秋分の日（9月：おはぎ等）	・ 5割近くの人が食べている。
冬至（12月：かぼちゃ料理等）	・ 5割近くの人が食べている。
大晦日（12月：そば等）	・ 8割の人が食べている。



問 20 あなたは、学校や地域・家庭で郷土料理や伝統料理を習ってみたいと思いますか（1つに○）

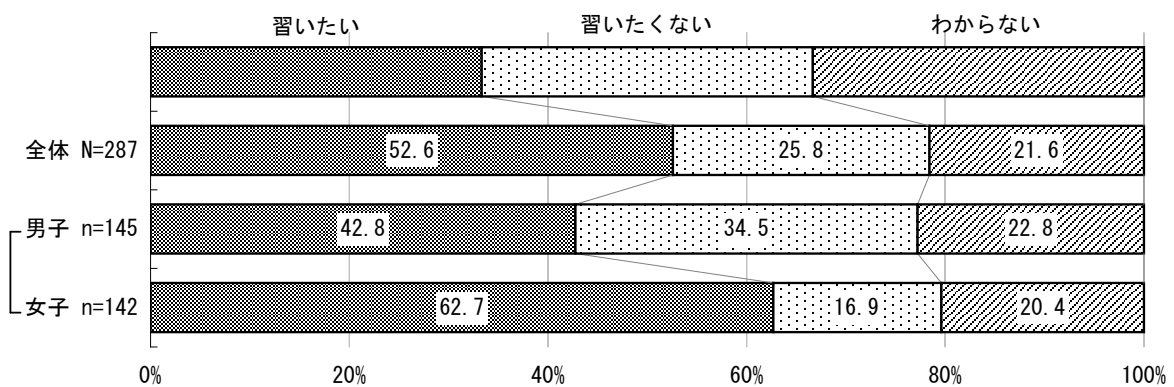
・「習いたい」が52.6%で割合が高く、女子が男子より割合が高い。

【 全 体 】



N = 287

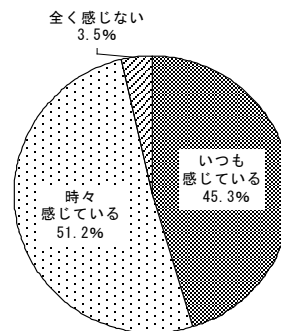
【 全 体・性 別 】



問 21 あなたは、食べ残しや食品が捨てられていることに関してふだんもったいないと思うことがありますか（1つに○）

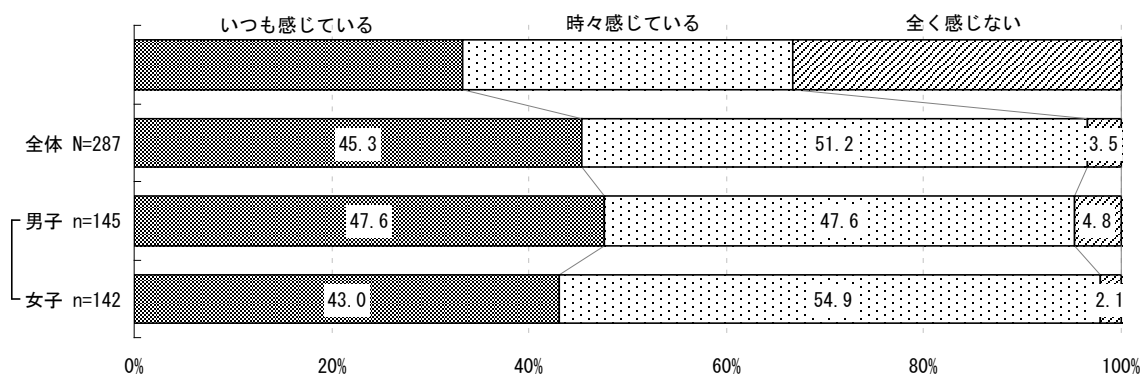
・「時々感じている」が51.2%、「いつも感じている」が45.3%である。

【 全 体 】



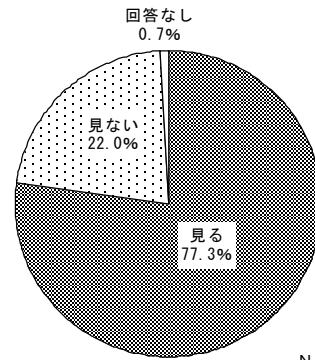
N = 287

【 全 体・性 別 】



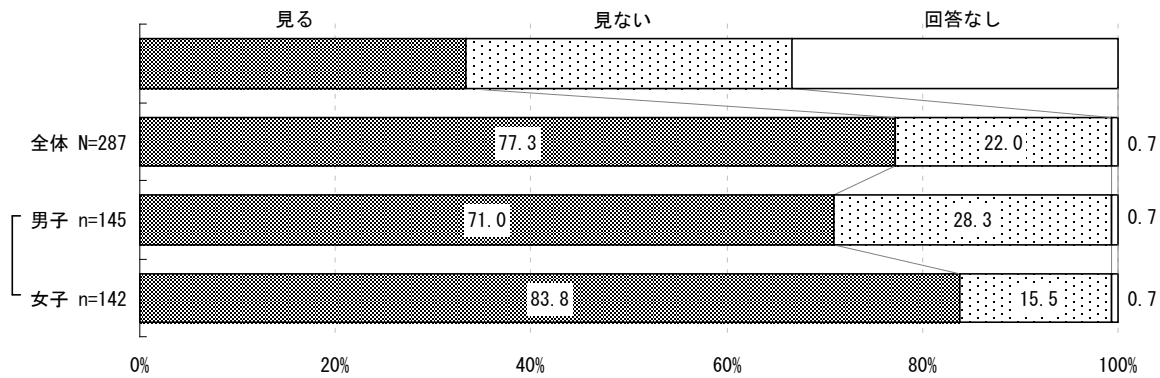
【 全 体 】

問 22 あなたは、食品を買うときに食品表示
を見ますか（どちらかに○）
・「見る」が77.3%で割合が高く、女子が男子
より割合が高い。



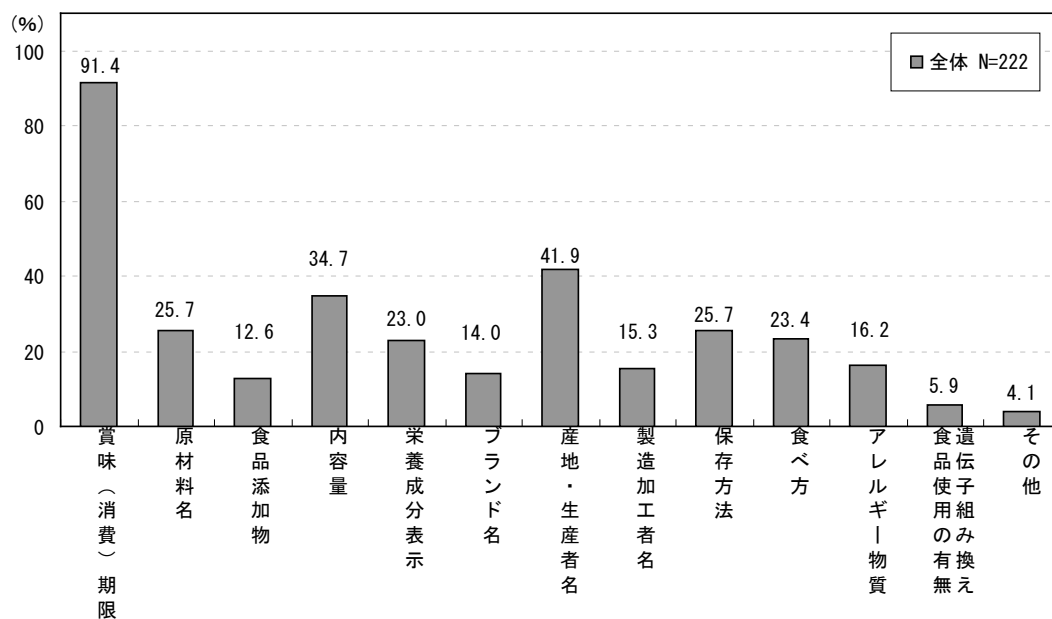
N = 287

【 全 体・性 別 】



《問 22 で、「1. 見る」と答えた人におたずねします》
問 22-1 どのような表示を見ますか（あてはまるものすべてに○）
・「賞味期限」が91.4%で最も割合が高く、次いで「産地・生産者名」、「内容量」となっている。

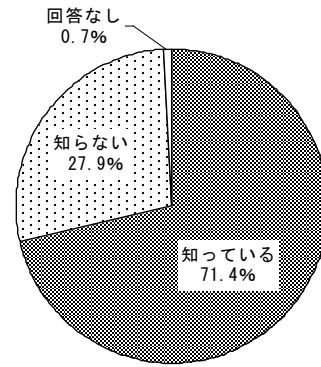
【 全 体 】



問 23 あなたは、食物アレルギーということを知っていますか（どちらかに○）

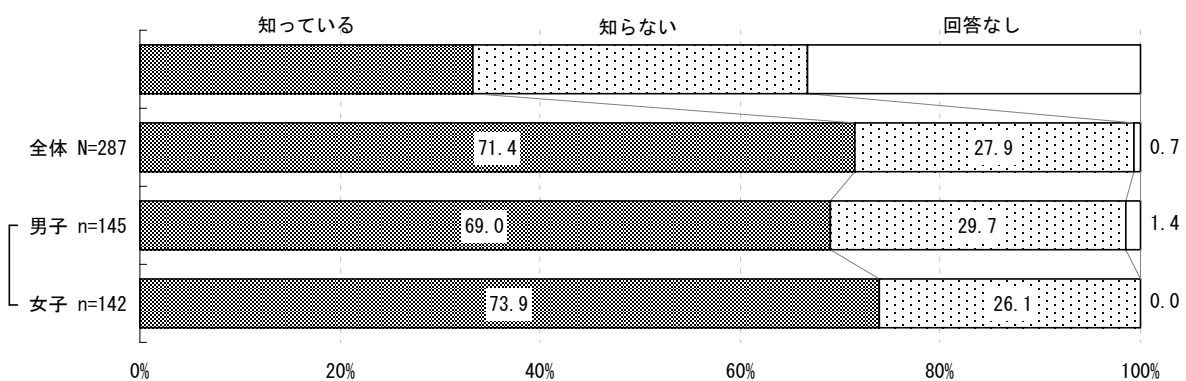
・「知っている」が71.4%で割合が高い。

【 全 体 】



N = 287

【 全 体・性 別 】

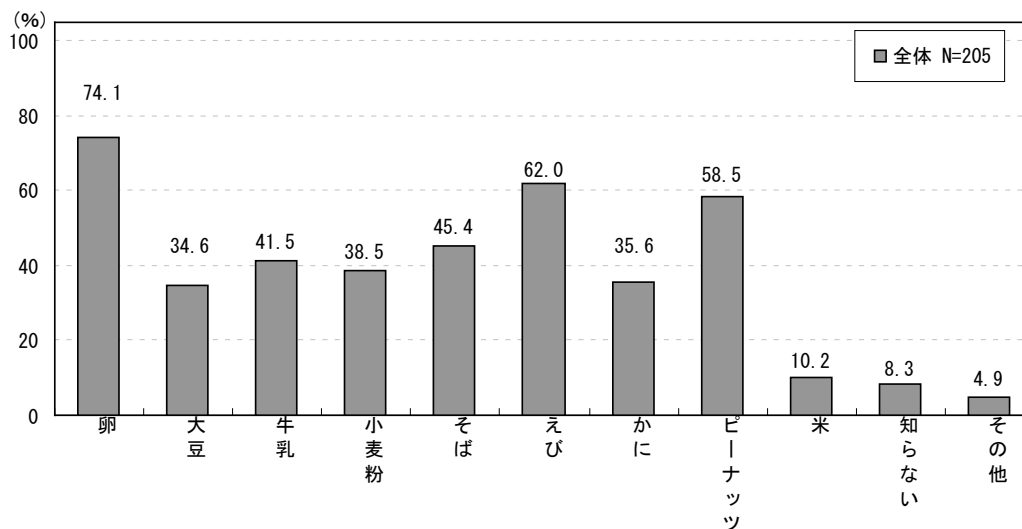


《問 23 で、「1. 知っている」と答えた人におたずねします》

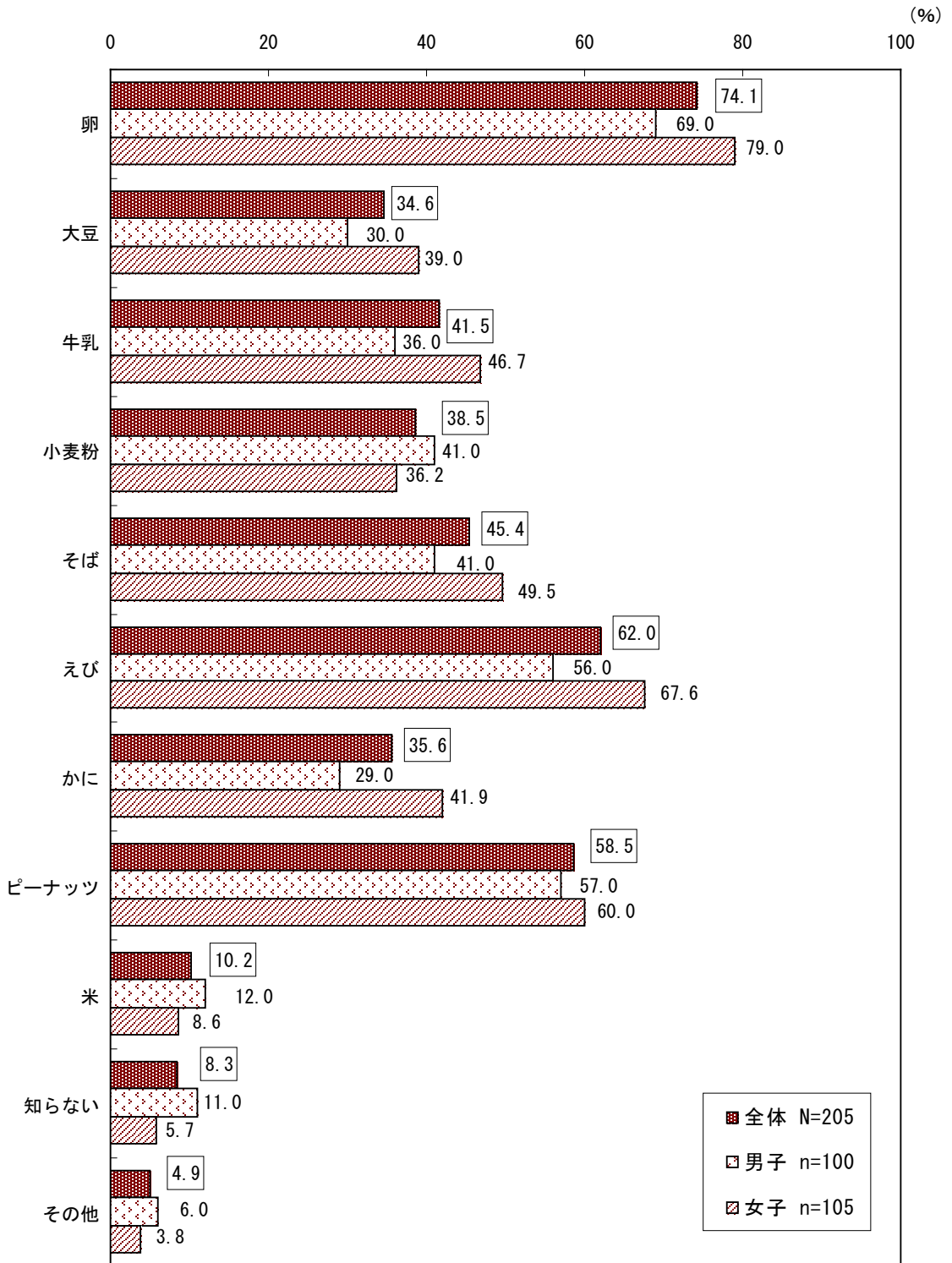
問 23-1 どのような食品がアレルギーの原因になるか知っていますか
(あてはまるものすべてに○)

・「卵」が74.1%で認知度が最も高く、次いで「えび」、「ピーナッツ」となっている。

【 全 体 】

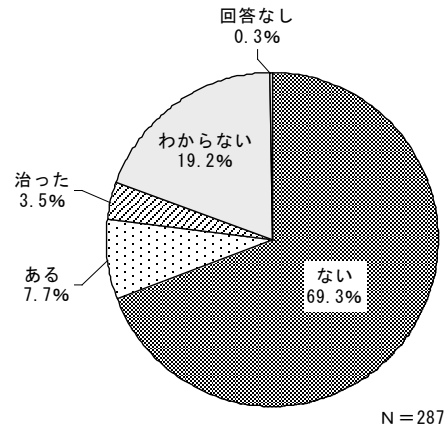


アレルギーの原因としての食品の認知 【全体・性別】

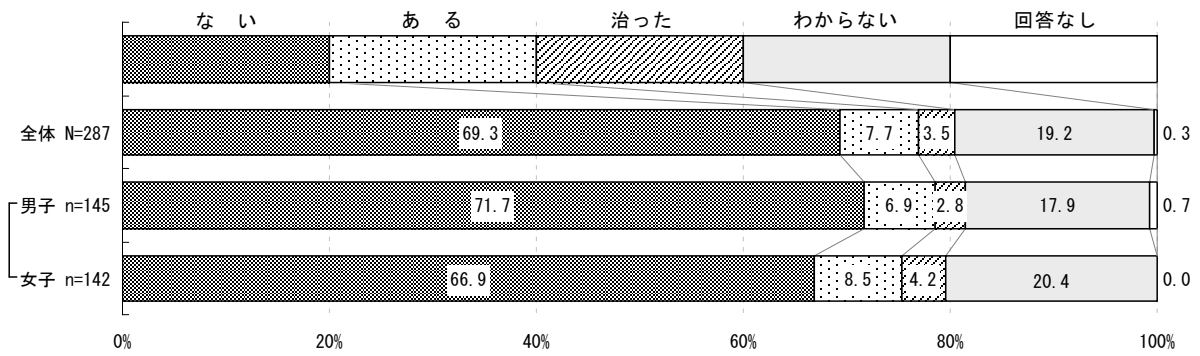


問 24 あなたには、現在食物アレルギーがありますか（1つに○）
 ・「ない」が69.3%である。

【 全 体 】



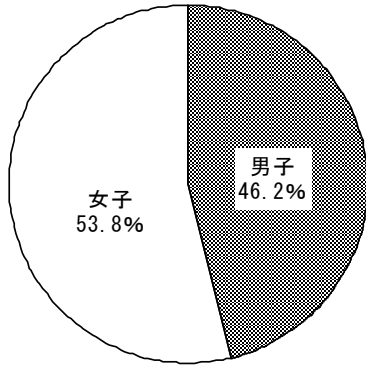
【 全 体・性 別 】



2. 食に関するアンケート調査結果（中学生）

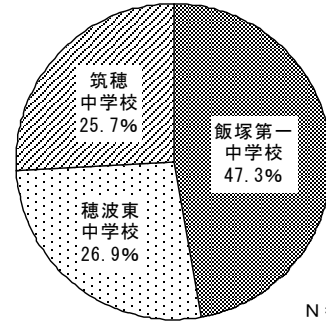
問1 あなたの性別はどちらですか
(どちらかに○)

・女子が男子より割合が少し高い。



N = 338

問2 あなたが通学している学校はどこですか
(学校名を書いてください)

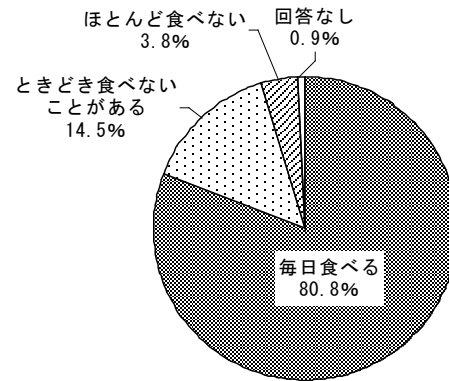


N = 338

【 全 体 】

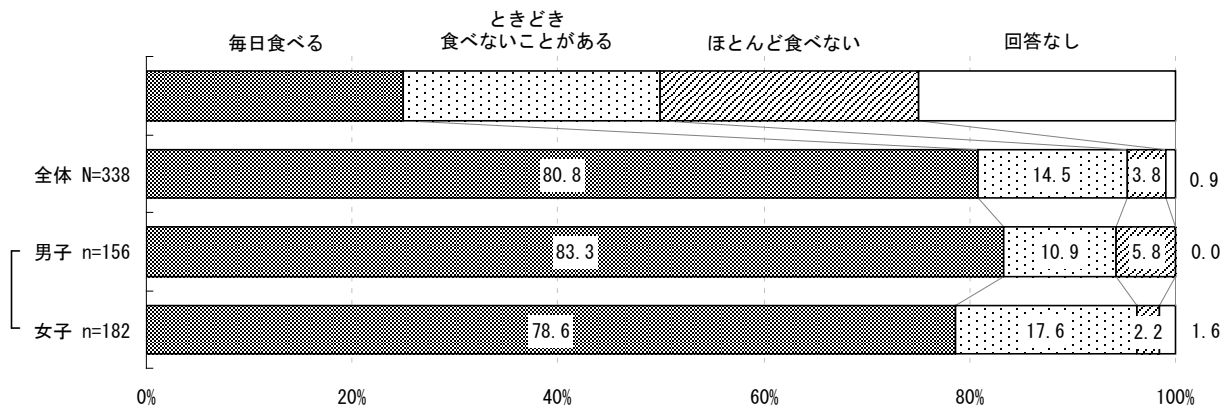
問3 あなたは、朝ごはんを食べていますか
(1つに○)

・「毎日食べる」人が80.8%で最も割合が高い。
「ときどき食べないことがある」と「ほとんど食べない」を合わせると18.3%いる。
・「毎日食べる」人は女子より男子の方の割合が高い。



N = 338

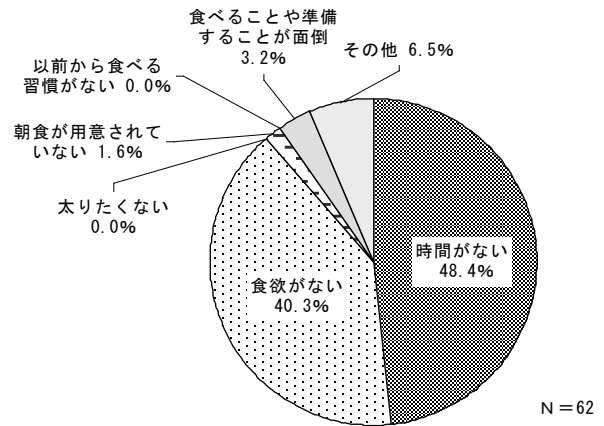
【 全 体・性 別 】



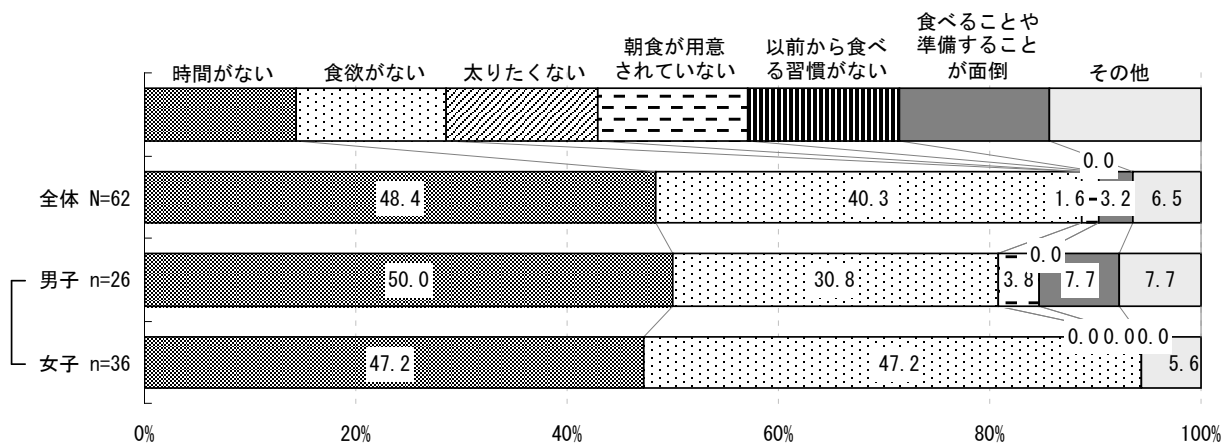
【 全 体 】

《問3で、「2. ときどき食べないことがある」「3. ほとんど食べない」と答えた人におたずねします》問3-1 朝ごはんを食べない一番大きな理由は何ですか（1つに○）

- ・「時間がない」が48.4%で最も割合が高く、次いで「食欲がない」が40.3%である。
- ・「時間がない」は男子で最も割合が高く、女子は「時間がない」と「食欲がない」に分かれる。



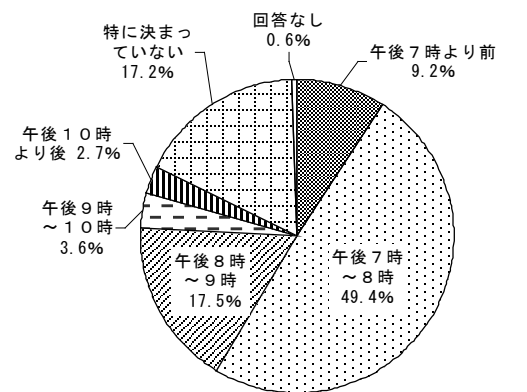
【 全 体・性 別 】



【 全 体 】

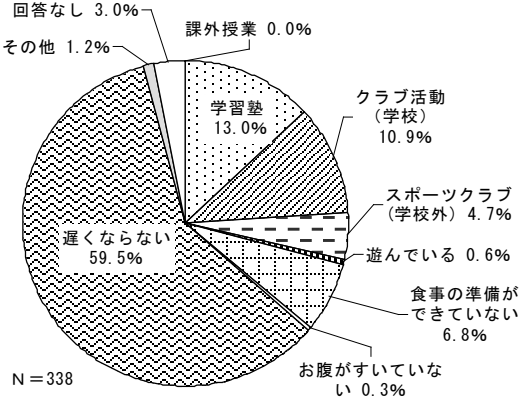
問4 あなたは、夕食を何時ごろ食べますか（1つに○）

- ・「午後7時～8時」が49.4%で最も割合が高く、次いで「午後8～9時」、「午後7時より前」となっている。
- ・「特に決まっていない」は17.2%いる。

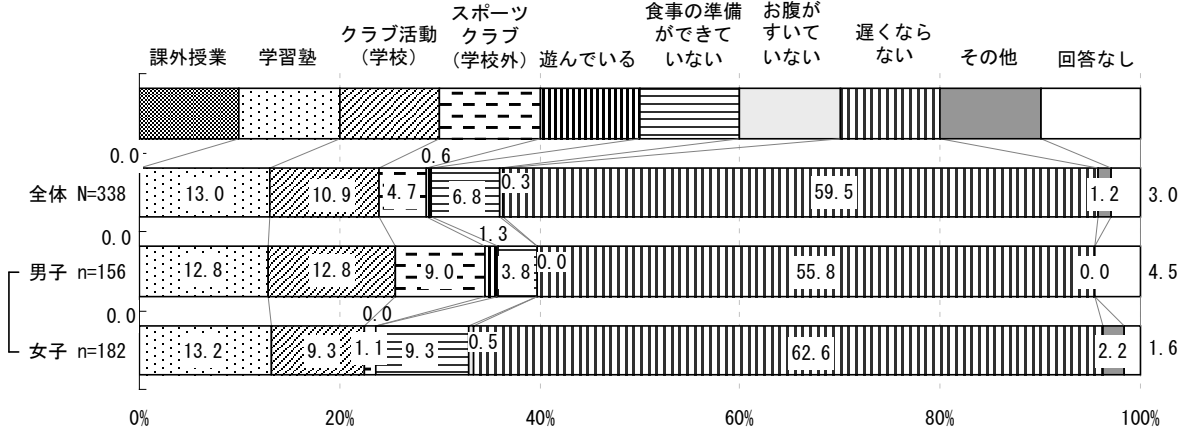


問5 あなたの夕食時間が8時以降になる一番大きな理由はなんですか
(1つに○)

- ・「遅くならない」が59.5%で最も割合が高く、次いで「学習塾」、「クラブ活動(学校)」となっている。
- ・男子が女子に比べ、「スポーツクラブ(学校外)」の割合が高い。



【 全 体・性 別 】

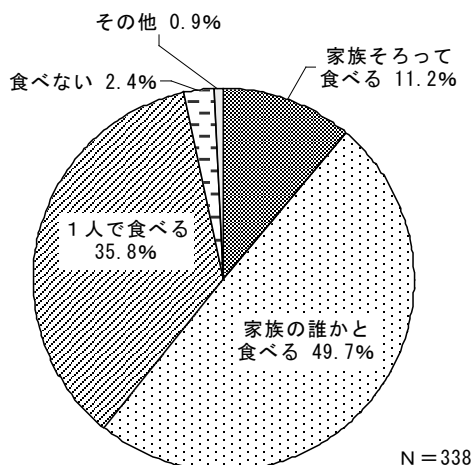


問6 あなたは、ふだんだれと食事をすることが多いですか

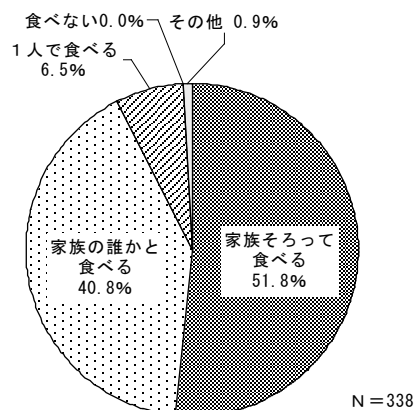
◆ 朝食 (1つに○) ◆ 夕食 (1つに○)

- ・朝食は「家族の誰かと食べる」が49.7%で、次いで「1人で食べる」が35.8%となっている。
- ・夕食は「家族そろって食べる」が51.8%で、次いで「家族の誰かと食べる」が40.8%となっている。

【 朝 食 : 全 体 】



【 夕 食 : 全 体 】

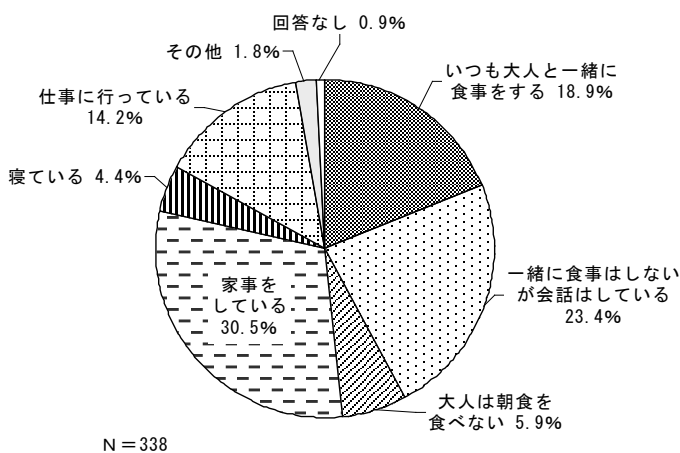


問7 あなたは、ふだん子どもだけで食事をすることがありますか、そのとき大人はどうしていますか

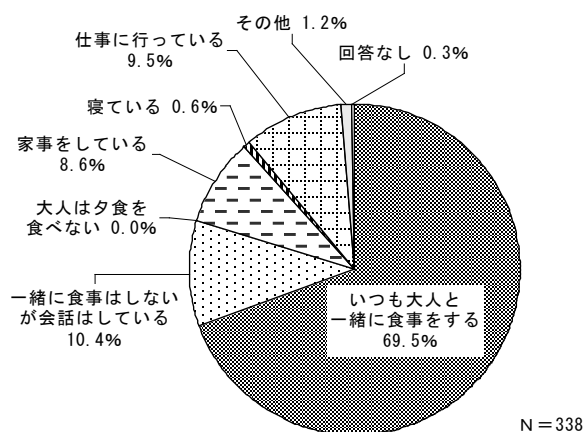
◆ 朝食 (1つに○) ◆ 夕食 (1つに○)

- ・朝食は「家事をしている」が30.5%で、次いで「一緒に食事はないが会話している」「いつも大人と一緒に食事をする」になっている。
- ・夕食は「いつも大人と一緒に食事をする」が69.5%で最も割合が高い。「一緒に食事はないが会話している」、「家事をしている」、「仕事に行っている」はそれぞれ1割程度いる。

【 朝 食 : 全 体 】



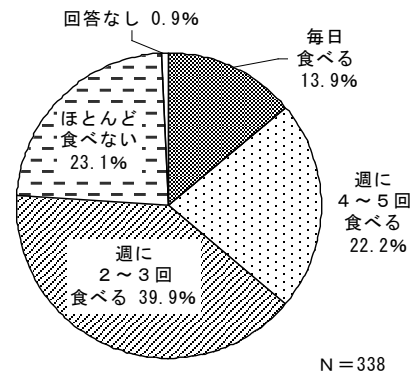
【 夕 食 : 全 体 】



問8 あなたは、ふだん昼食から夕食までの間におやつを食べたり飲んだりしますか（1つに〇）

・「週に2～3回食べる」が39.9%で最も割合が高いが、他の回答は分散している。

【 全 体 】

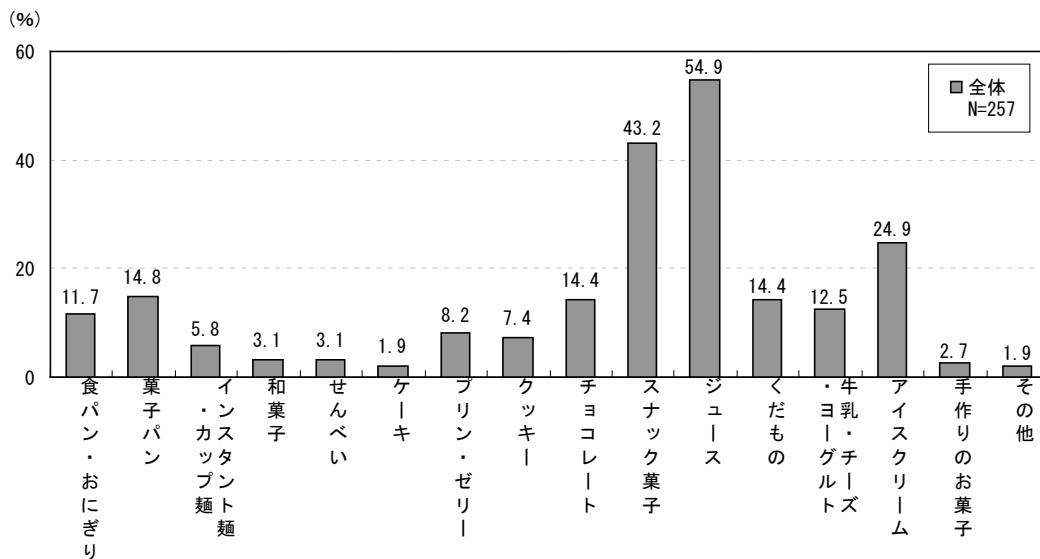


《問8で、「1. 毎日食べる」「2. 週に4～5回食べる」「3. 週に2～3回食べる」と答えた人におたずねします》

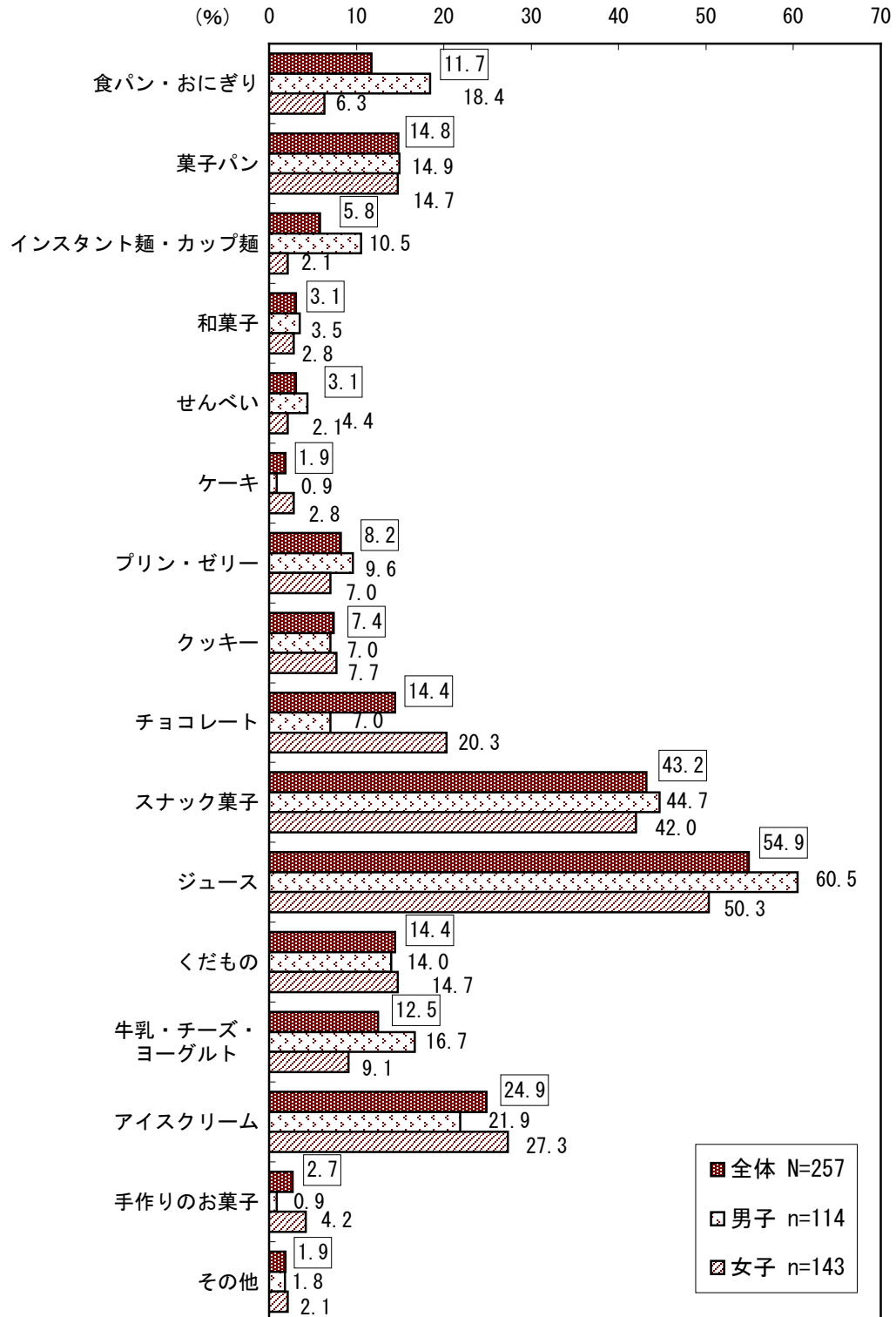
問8-1 あなたが、昼食から夕食までによく食べたり飲んだりするものはなんですか（〇は3つまで）

・最も割合の高いものから、「ジュース」、「スナック菓子」、「アイスクリーム」となっている。
 ・「チョコレート」については、特に男子よりも女子の割合が高い。

【 全 体 】



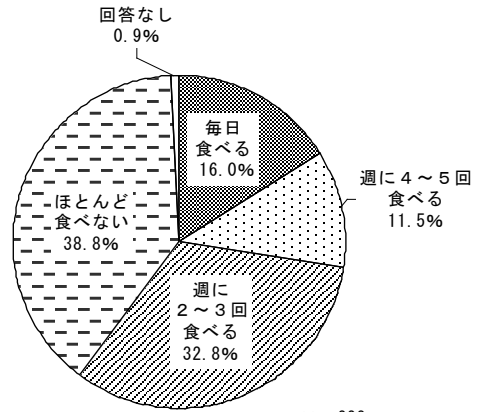
【 性別・全体 】



問9 あなたは、ふだん夕食を食べて寝るまでの間に何か食べていますか(ジュースなどの飲み物もふくみます)
(1つに○)

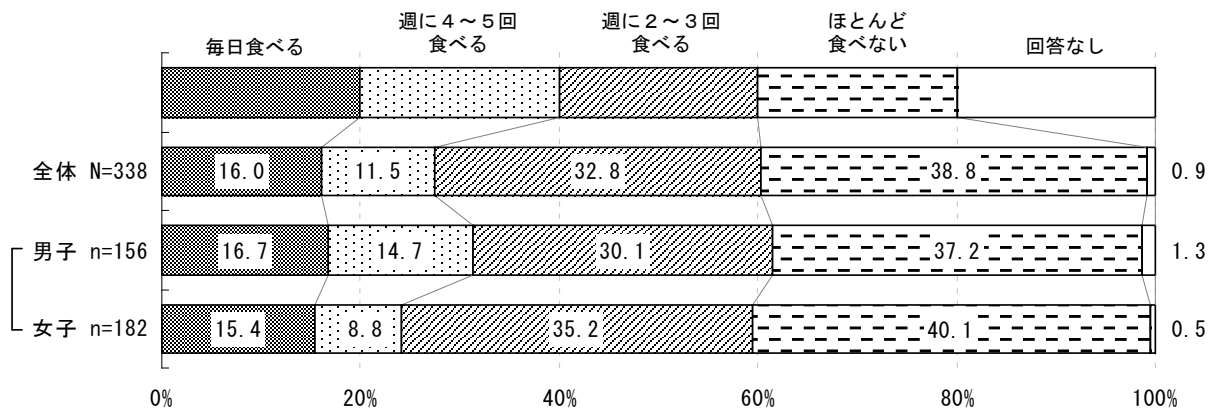
・「ほとんど食べない」が38.8%で最も割合が高いが、「週に2～3回食べる」も32.8%いる。

【 全 体 】



N = 338

【 全 体・性 別 】

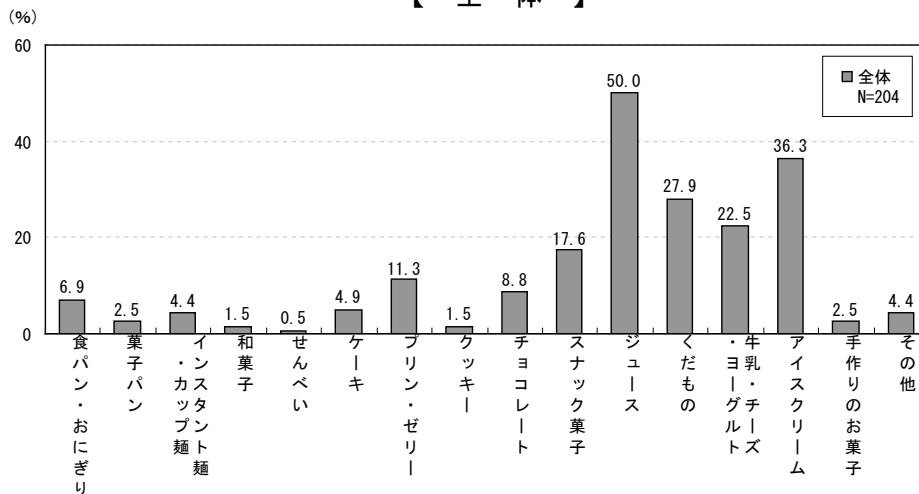


《問9で、「1. 毎日食べる」「2. 週に4～5回食べる」「3. 週に2～3回食べる」と答えた人におたずねします》

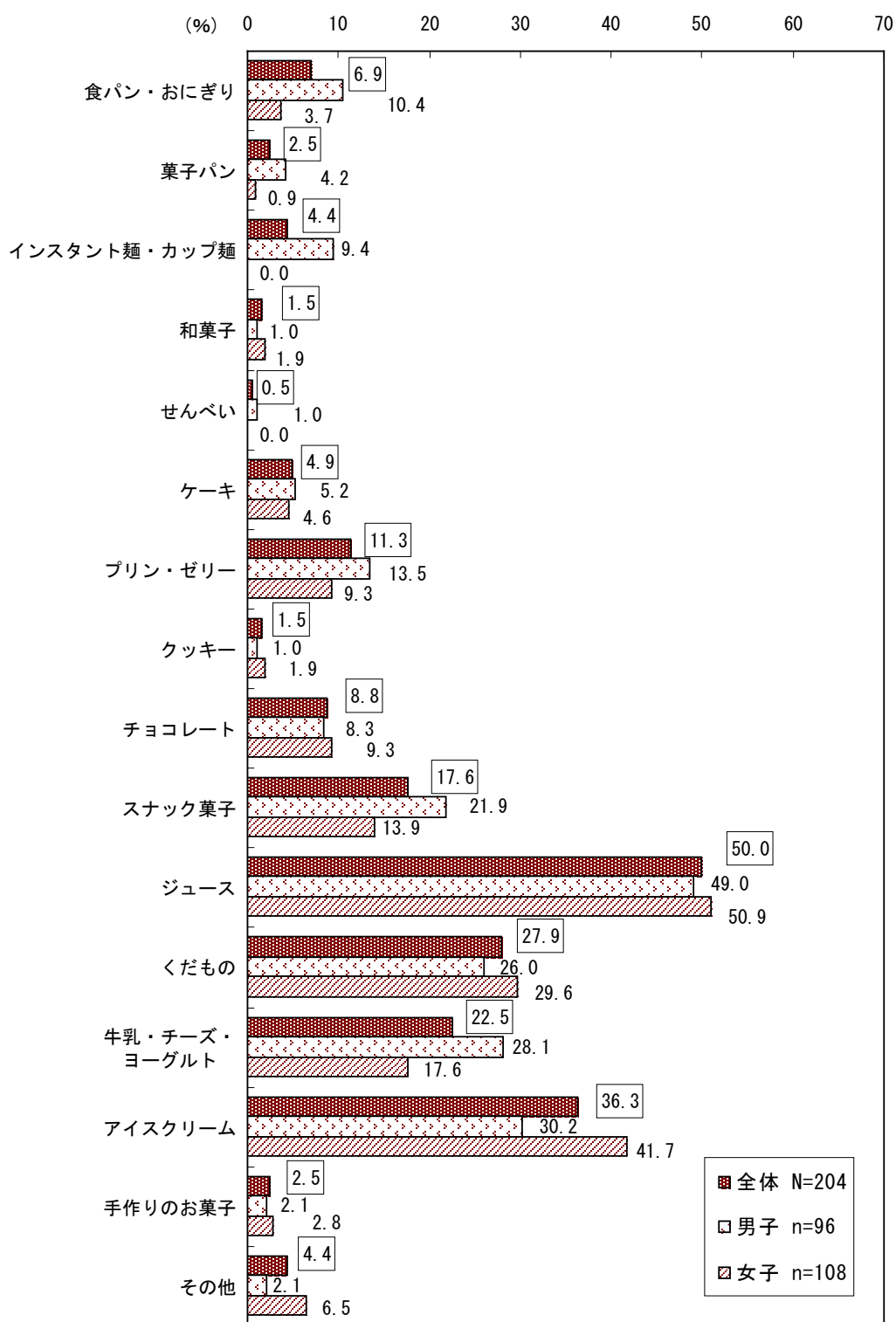
問9-1 あなたが、夕食後よく食べたり飲んだりするものは何ですか (○は3つまで)

- ・最も割合の高い順に「ジュース」、「アイスクリーム」、「くだもの」、「牛乳・チーズ・ヨーグルト」となっている。
- ・「アイスクリーム」については特に女子が男子より割合が高く、「食パン・おにぎり」、「インスタント麺・カップ麺」、「スナック菓子」については特に男子が女子より割合が高い。

【 全 体 】



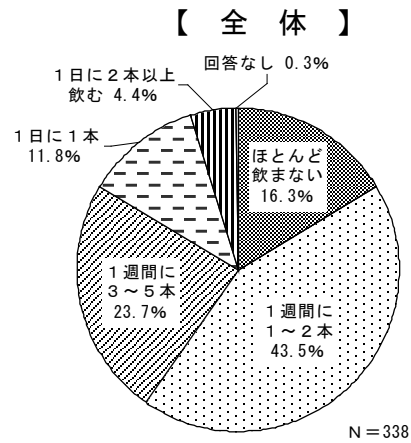
【 全 体 ・ 性 別 】



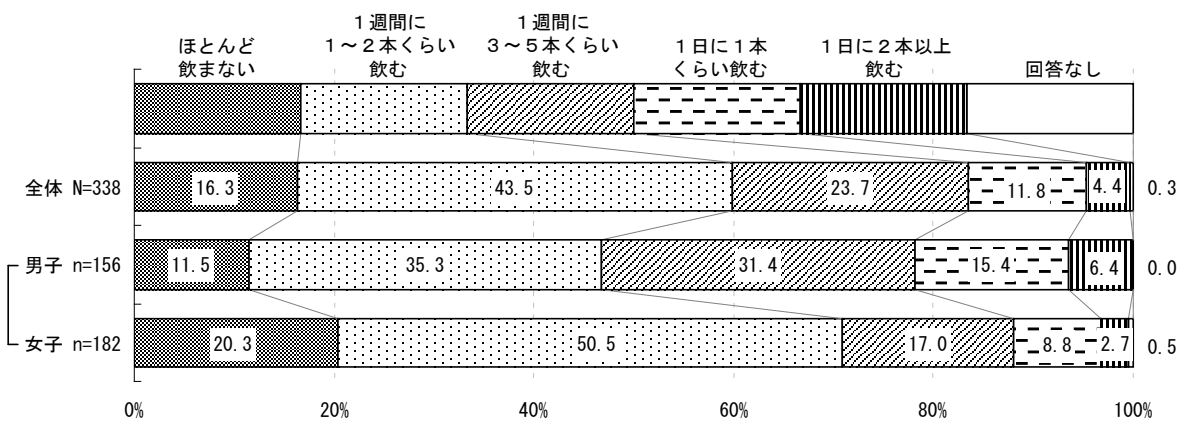
問 10 あなたは、ジュース類（スポーツ飲料をふくむ）をどれくらい飲みますか（1つに○）

* 1本は500ミリリットルとします

- ・「1週間に1～2本」が43.5%で最も割合が高く、次いで「1週間に3～5本」、「ほとんど飲まない」となっている。
- ・男子が女子に比べ、1週間に飲む本数が多い傾向にある。



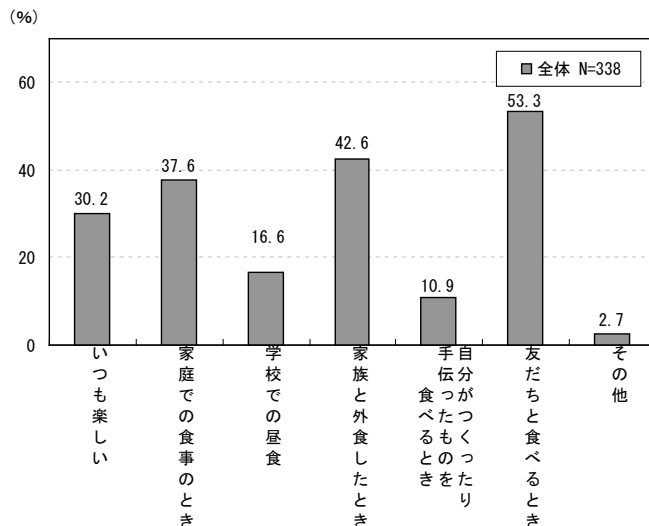
【 全 体・性 別 】



問 11 あなたは、どんな食事のときが楽しいですか（○はいくつでも）

- ・最も割合の高い順に「友だちと食べるとき」、「家族と外食したとき」、「家庭での食事のとき」となっている。
- ・女子が男子より楽しいと感じる割合が高い傾向にある。

【 全 体 】

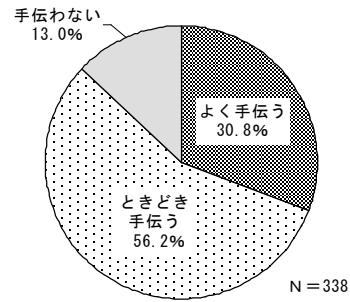


【 全 体 】

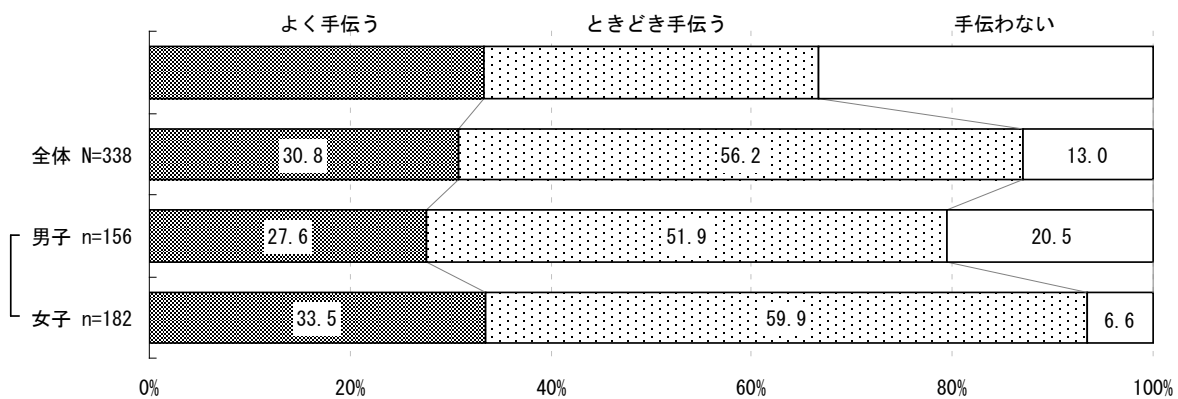
問12 あなたは、「食器をならべる」「一緒に料理する」など、食事の準備や食事づくりを手伝っていますか（1つに○）

・「ときどき手伝う」が56.2%で最も割合が高く、次いで「よく手伝う」が30.8%となっている。

・「よく手伝う」、「ときどき手伝う」について、女子が男子より割合が高い。



【 全 体・性 別 】

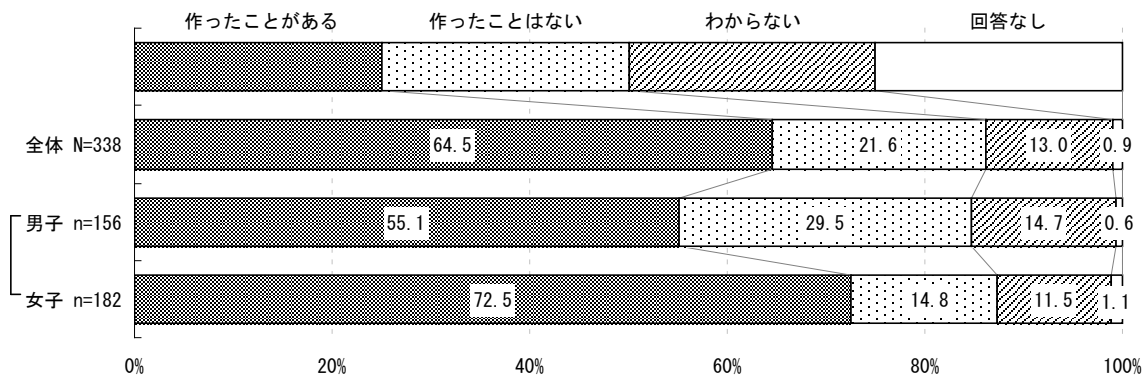


問13 あなたは、自分だけで料理を作ったことがありますか（1つに○）

・「作ったことがある」が64.5%で割合が高い。

・女子の方が作った事のある人が多い。

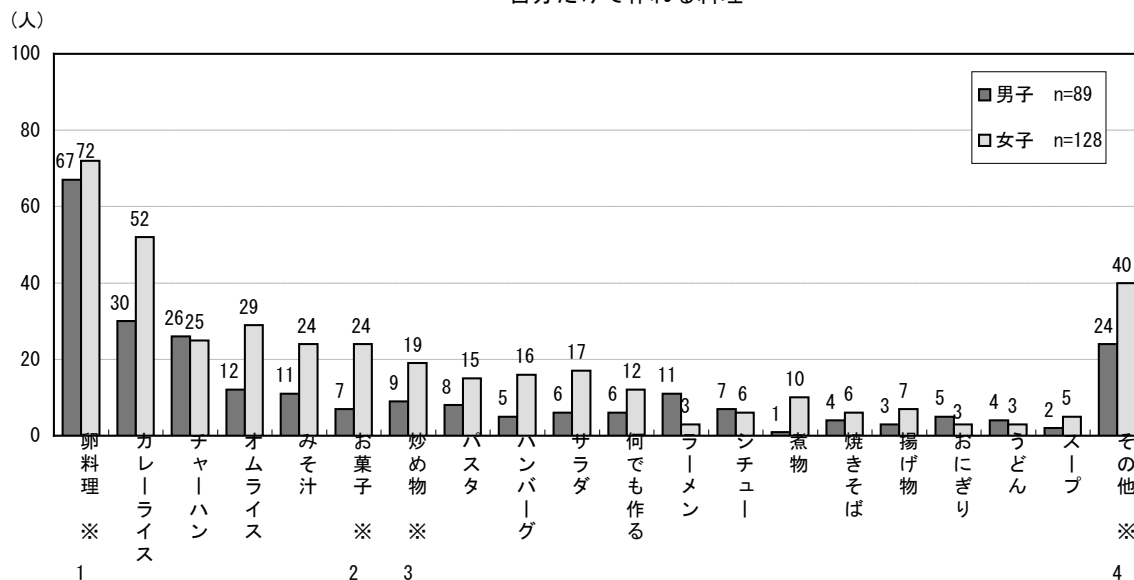
【 全 体・性 別 】



問13-1 あなたが、自分だけで作れる料理はなんですか（記述式）

- ・最も多いのは、「卵料理」で、たまご焼き、目玉焼き、オムレツなどがあげられている。次いで、「カレーライス」、「チャーハン」である。
- ・ほとんどの料理が、女子の方が男子より多く、男子の方が多いのは、「チャーハン」、「ラーメン」等である。

自分だけで作れる料理

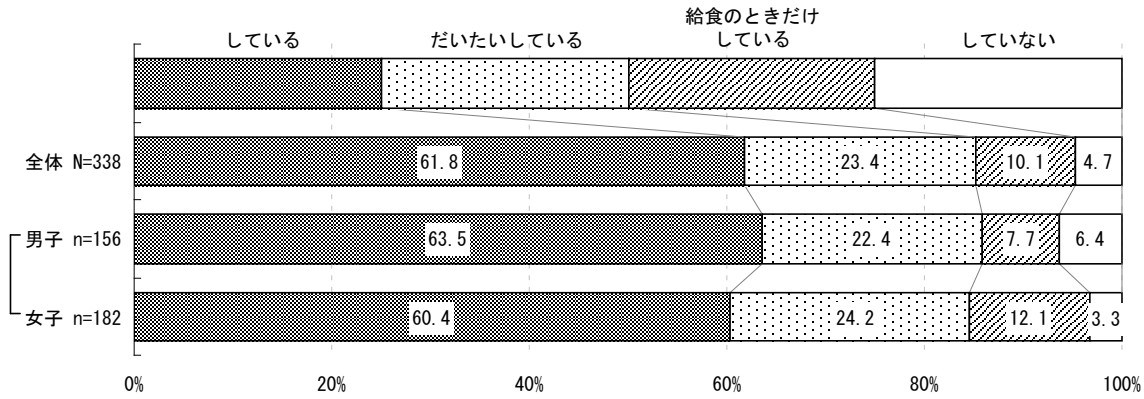


- ※1・・・たまご焼き、目玉焼き、オムレツ、スクランブルエッグ、ゆでたまご、いりたまご 等
- ※2・・・ホットケーキ、クッキー、ケーキ、カップケーキ、チーズケーキ、ミルクレープ、チョコレートケーキ、カステラ 等
- ※3・・・ゴーヤーチャンプル、青椒肉絲、野菜炒め、炒め物 等
- ※4・・・お好み焼、生姜焼き、丼もの、ぎょうざ、グラタン、めん類、卵ご飯、カップラーメン、ハヤシライス、サンドイッチ、炊飯、トースト、麻婆豆腐、揚げだし豆腐、ピーマンの肉詰め、リゾット、おかゆ、ロールキャベツ、冷し中華、豆腐バター、肉巻き、味噌豚、お弁当、そばろ、ウインナー、酢物、そうめん、お茶漬け、ライスバーガー、フレンチトースト、ポテト、刺身、シャーベット、食べるラー油 等

問 14 あなたは、食事のときに「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをしていますか
(1つに○)

・「している」が61.8%で割合が高いが、「給食のときだけしている」が10.1%、「していない」が4.7%いる。

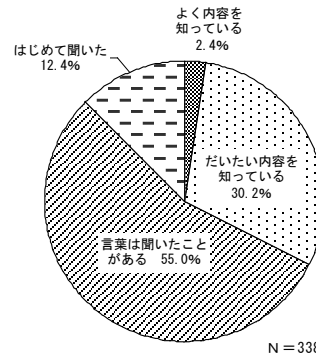
【 全 体・性 別 】



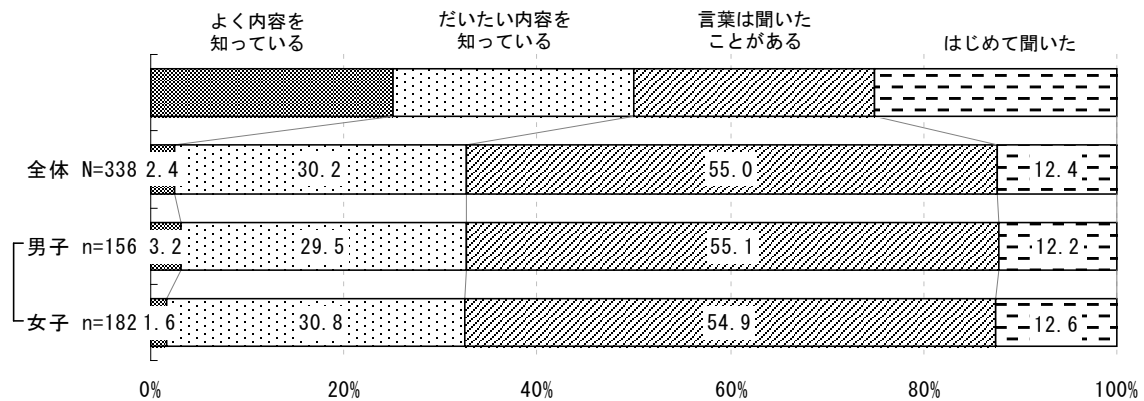
問 15 あなたは、「食育」という言葉やその意味を知っていましたか
(1つに○)

・「言葉は聞いたことがある」が55.0%で最も割合が高い。
・「だいたい内容を知っている」は30.2%いる。

【 全 体 】



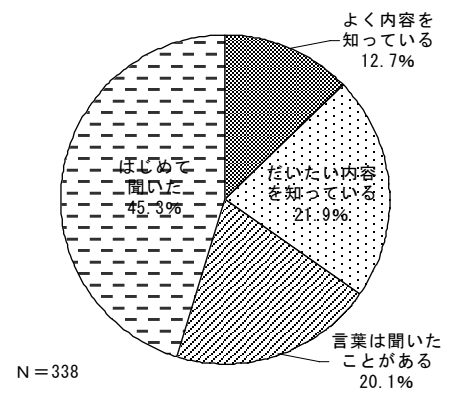
【 全 体・性 別 】



問 16 あなたは、「地産地消」という言葉やその意味を知っていましたか（1つに○）

・「はじめて聞いた」が45.3%で最も割合が高く、半数以上は言葉を知っている。

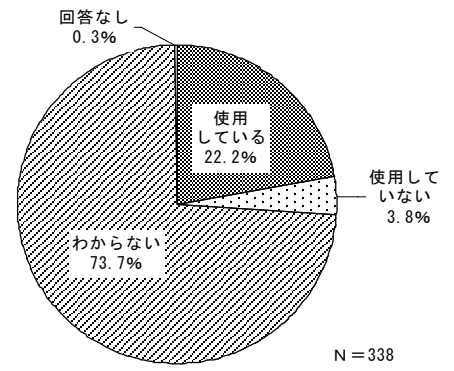
【 全 体 】



問 17 あなたの家庭では、地元でとれた農畜産物を使用していますか（1つに○）

・「使用している」は22.2%である。

【 全 体 】

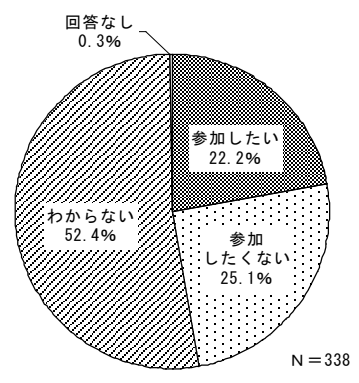


問 18 あなたは、学校や地域で農業体験を行う機会があれば参加してみたいと思いますか（1つに○）

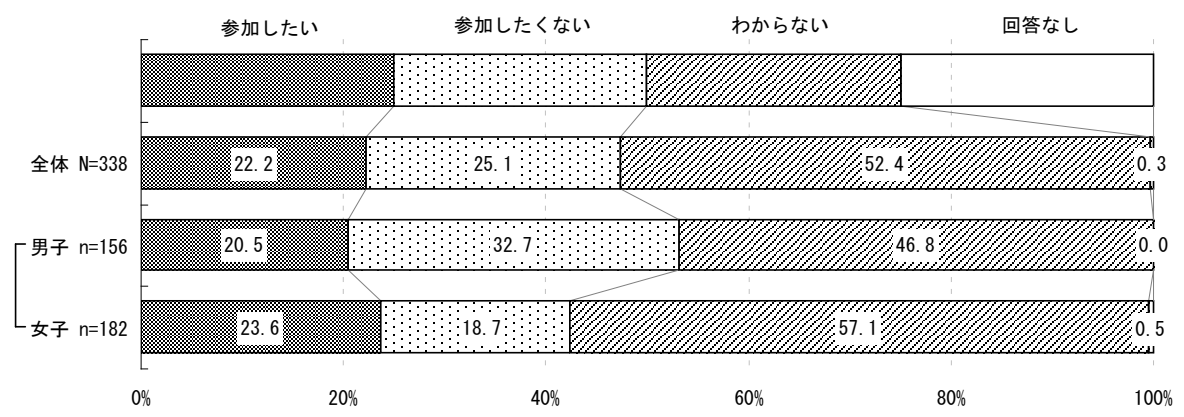
・「参加したい」は22.2%である。

・男子では「参加したい」よりも、「参加したくない」の割合が高い。

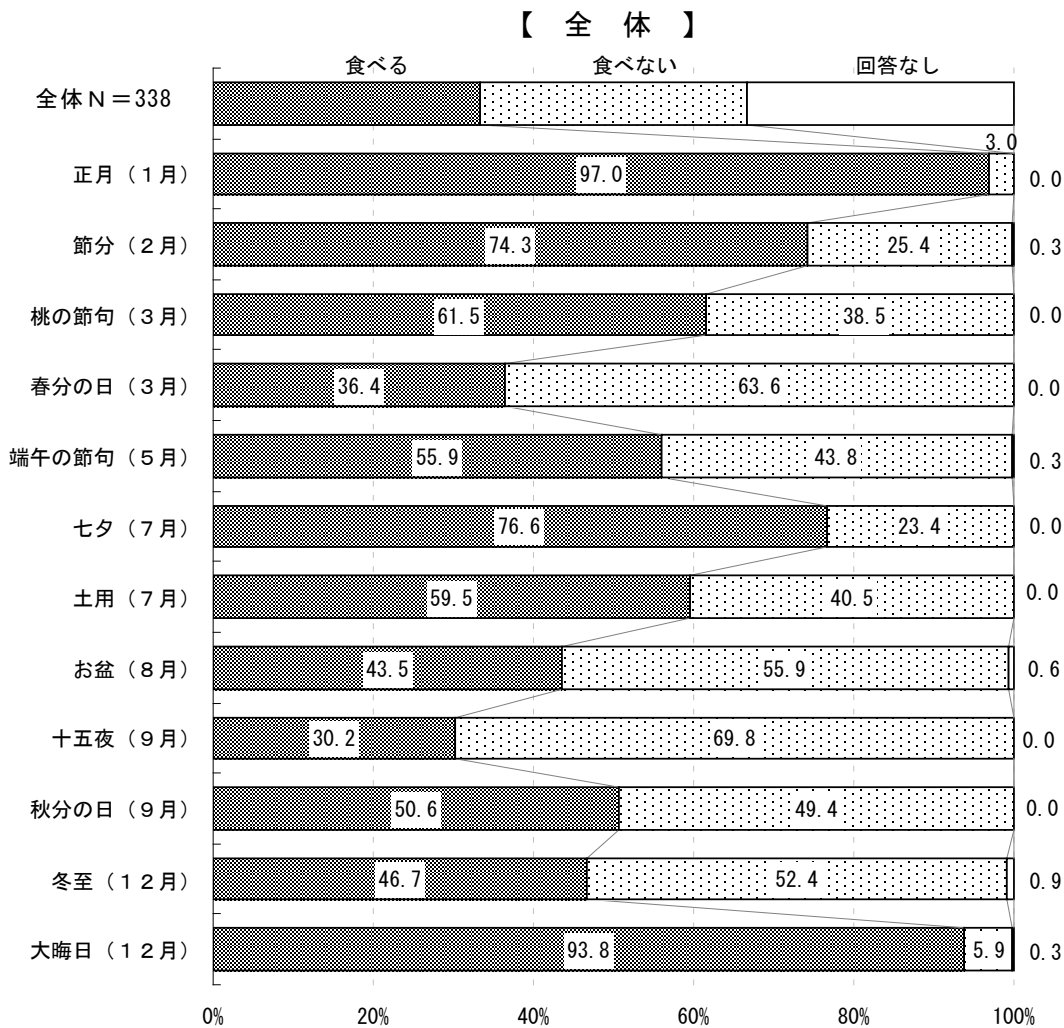
【 全 体 】



【 全 体・性 別 】



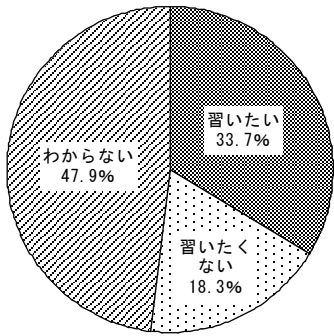
問19 あなたの家庭では次のような行事食を食べていますか（それぞれ一つに○）	
正月（1月：おせち、おぞうに、七草がゆ等）	・ほとんどの人が食べている。
節分（2月：まめ等）	・7割の人が食べている。
桃の節句（3月：ひな菓子、五目すし等）	・6割の人が食べている。
春分の日（3月：ぼたもち等）	・4割近くの人が食べている。
端午の節句（5月：ちまき、かしわもち等）	・6割近くの人が食べている。
七夕（7月：そうめん等）	・7割の人が食べている。
土用（7月：うなぎ等）	・6割近くの人が食べている。
お盆（8月：盆だら（たらの煮物）、団子等）	・4割の人が食べている。
十五夜（9月：月見団子等）	・3割の人が食べている。
秋分の日（9月：おはぎ等）	・5割の人が食べている。
冬至（12月：かぼちゃ料理等）	・5割近くの人が食べている。
大晦日（12月：そば等）	・9割の人が食べている。



問 20 あなたは、学校や地域・家庭で郷土料理や伝統料理を習ってみたいと思いますか（1つに○）

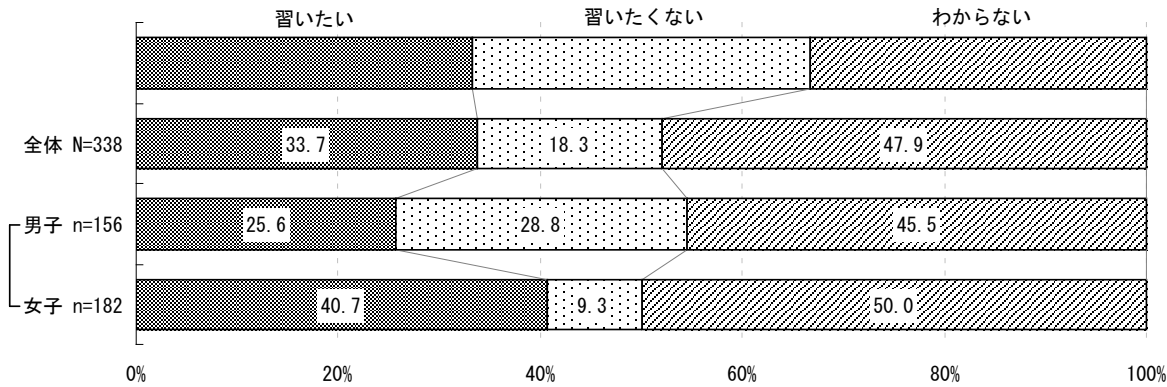
- ・「わからない」が47.9%で最も割合が高い。
- ・「習いたい」は女子で40.7%、男子で25.6%いる。

【 全 体 】



N = 338

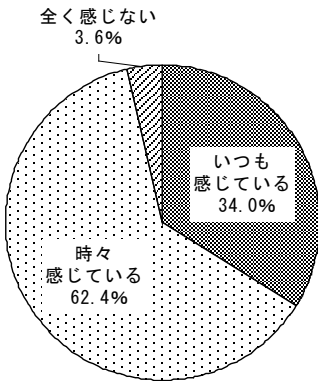
【 全 体・性 別 】



【 全 体 】

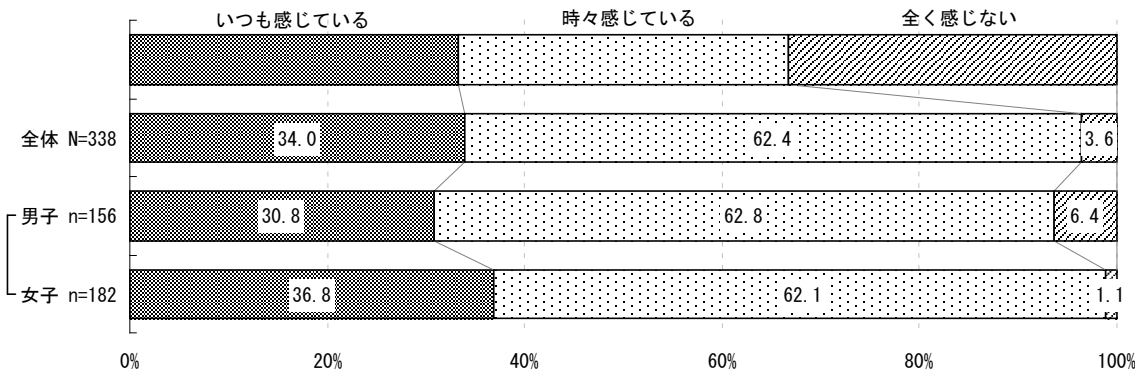
問 21 あなたは、食べ残しや食品が捨てられていることに関してふだんもったいないと思うことがありますか（1つに○）

- ・「時々感じている」が62.4%、「いつも感じている」が34.0%である。



N = 338

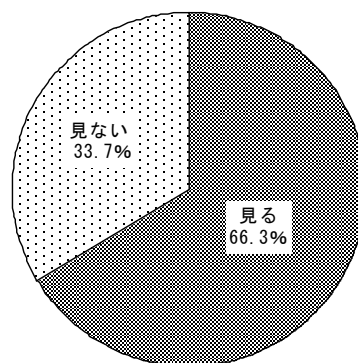
【 全 体・性 別 】



【 全 体 】

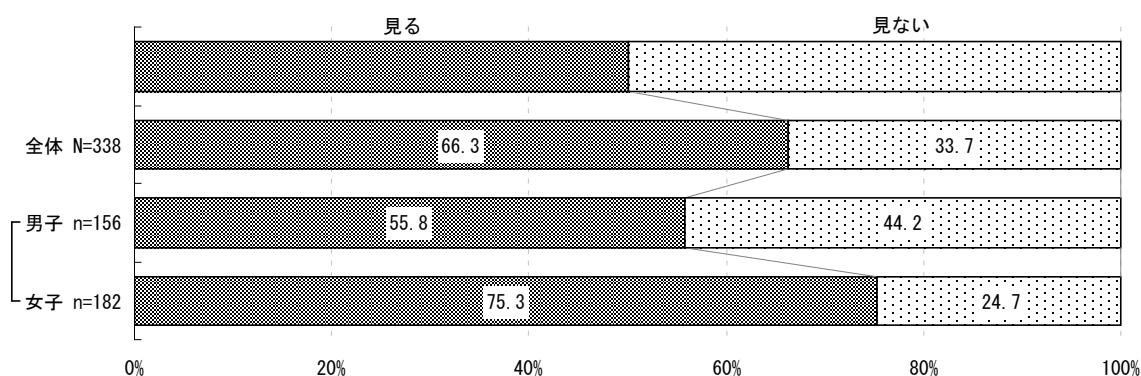
問 22 あなたは、食品を買うときに食品表示を見ますか（どちらかに○）

・「見る」が66.3%で割合が高く、女子が男子より割合が高い。



【 全 体・性 別 】

N = 338

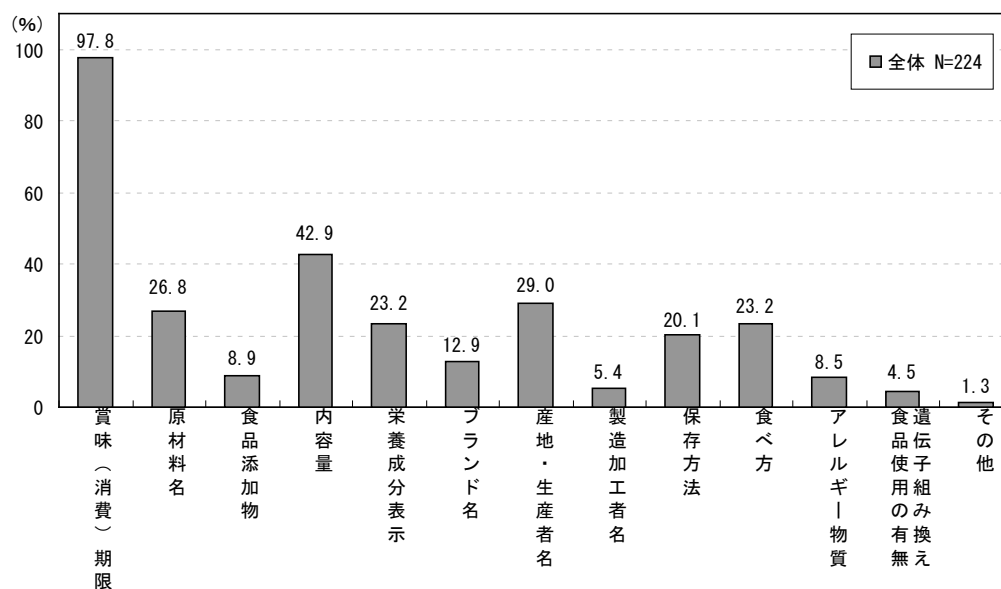


《問 22 で、「1. 見る」と答えた人におたずねします》

問 22-1 どのような表示を見ますか（あてはまるものすべてに○）

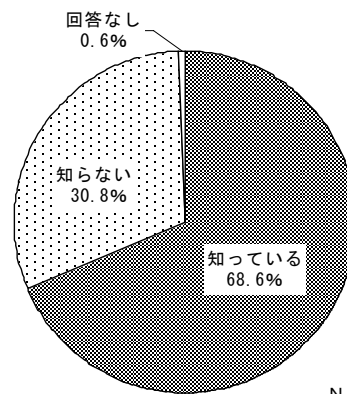
・「賞味期限」が97.8%をこえて最も割合が高く、次いで「内容量」、「産地・生産者名」となっている。

【 全 体 】

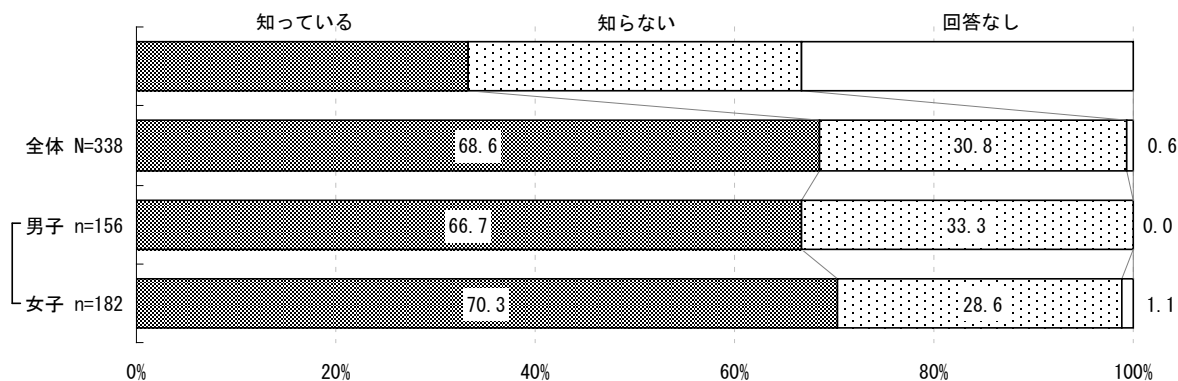


問 23 あなたは、食物アレルギーという
 ことを知っていますか
 (どちらかに○)
 ・「知っている」が68.6%で割合が高い。

【 全 体 】

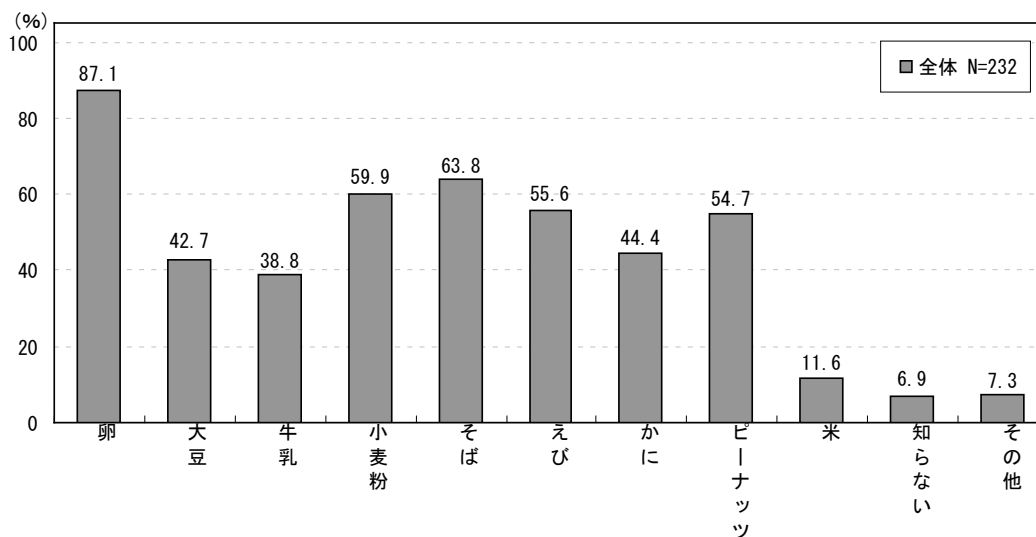


【 全 体・性 別 】

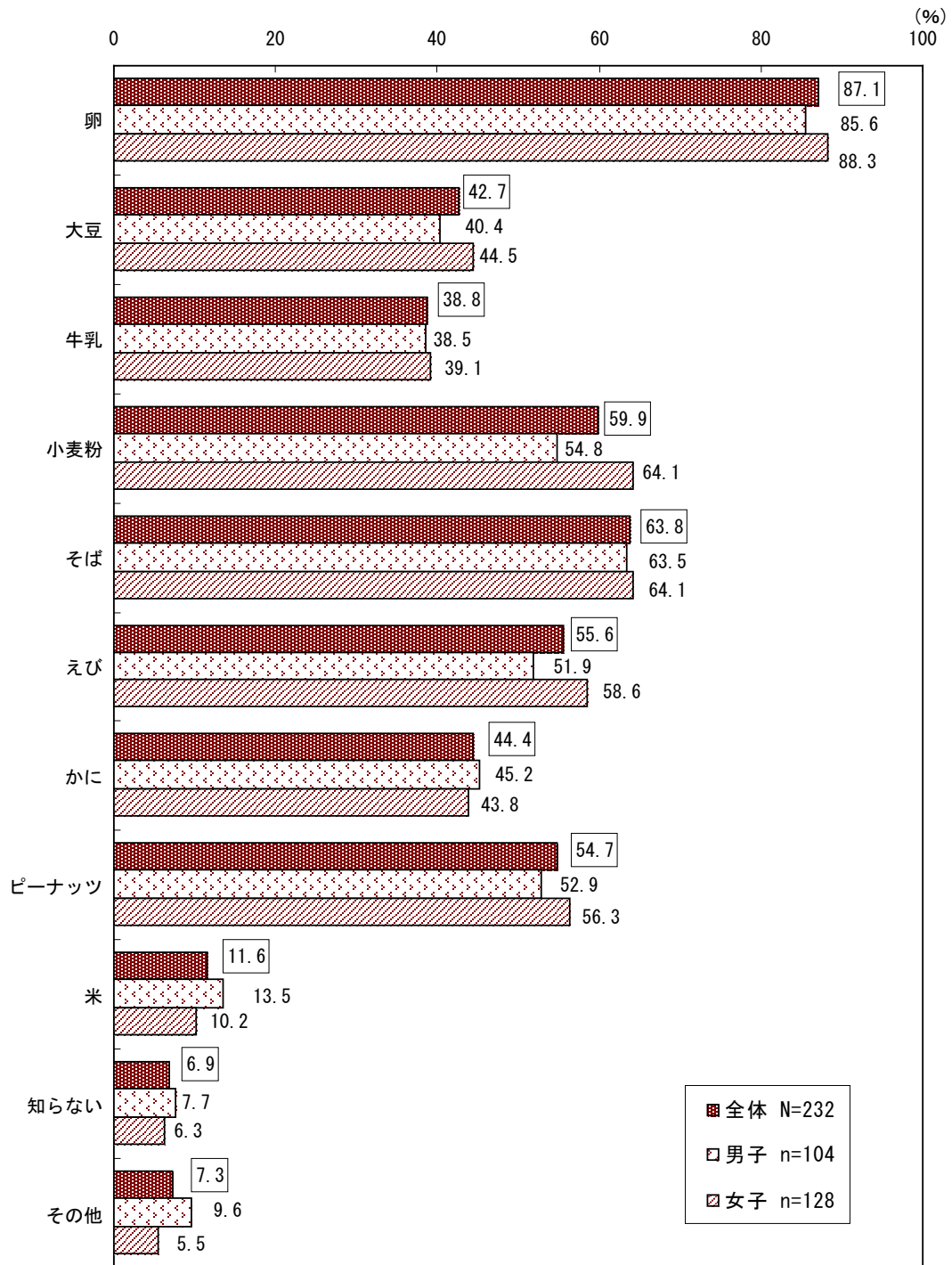


《問 23 で、「1. 知っている」と答えた人におたずねします》
 問 23-1 どのような食品がアレルギーの原因になるか知っていますか
 (あてはまるものすべてに○)
 ・「卵」が87.1%で認知度が最も高く、「そば」、「小麦粉」、「ピーナッツ」、「えび」は半数以上が知っている。

【 全 体 】



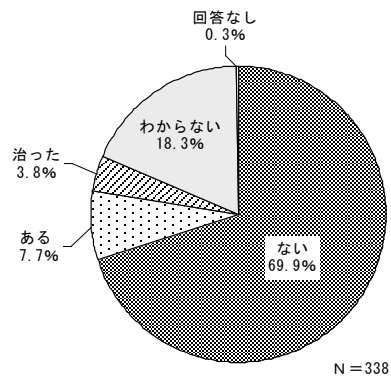
【 全 体 ・ 性 別 】



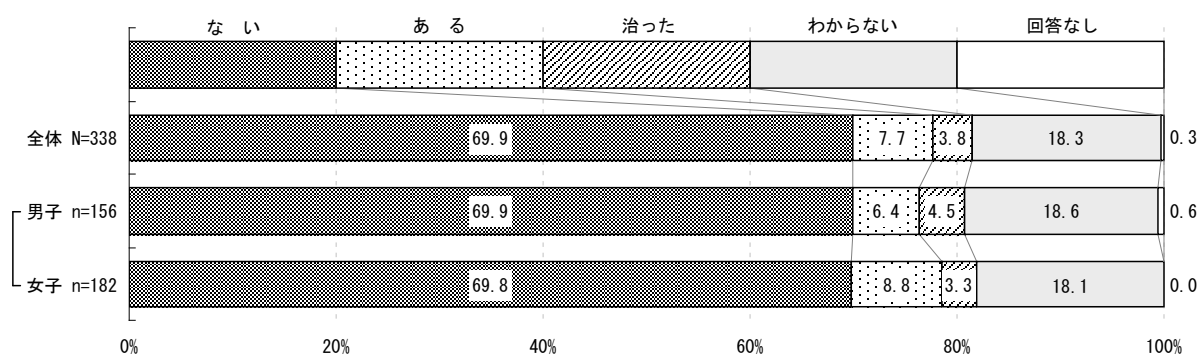
問 24 あなたには、現在食物アレルギーがありますか（1つに○）

・「ない」が69.9%である。

【 全 体 】



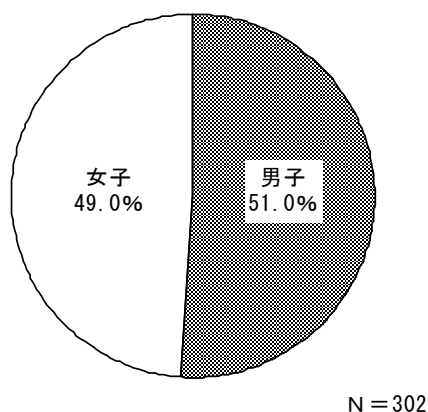
【 全 体・性 別 】



3. 食に関するアンケート調査結果（高校生）

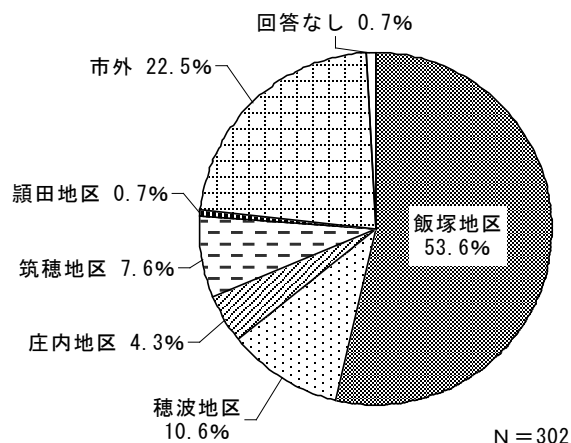
問1 あなたの性別はどちらですか
(どちらかに○)

・男女同程度である。



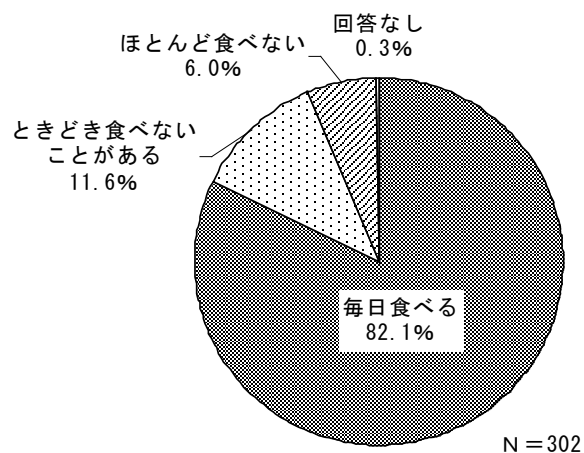
問2 あなたが住んでいる地区はどこですか (1つに○)

・飯塚地区が 53.6%で最も割合が高く、次いで市外の割合が 22.5%である。

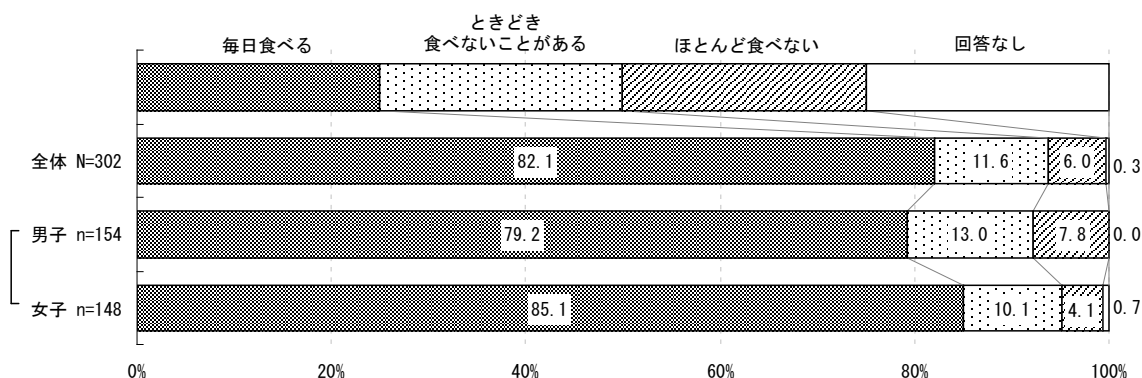


問3 あなたは、朝ごはんを食べていますか
(1つに○)

・「毎日食べる」人が 82.1%で最も割合が高い。
「ときどき食べないことがある」人が 11.6%いる。
・「毎日食べる」人は、男子より女子の方の割合が高い。



【 全体・性別 】

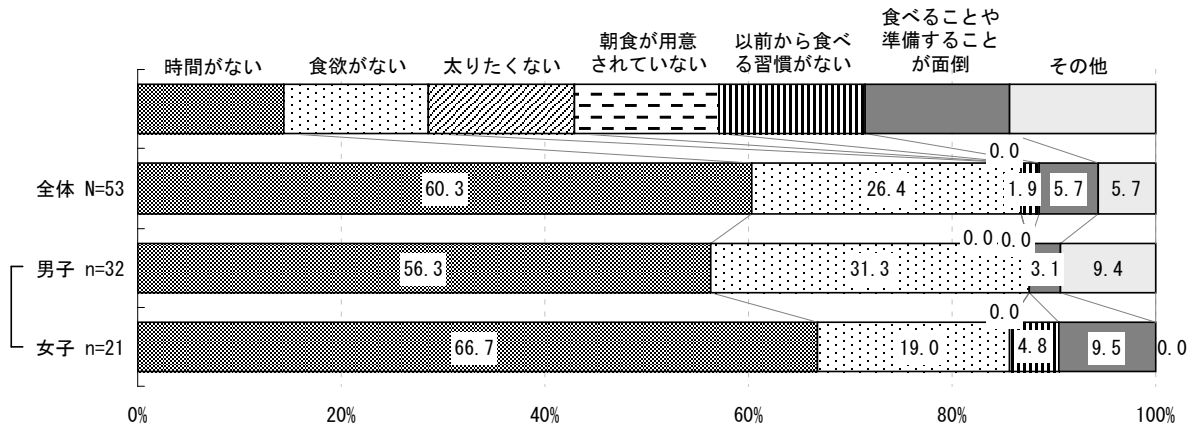
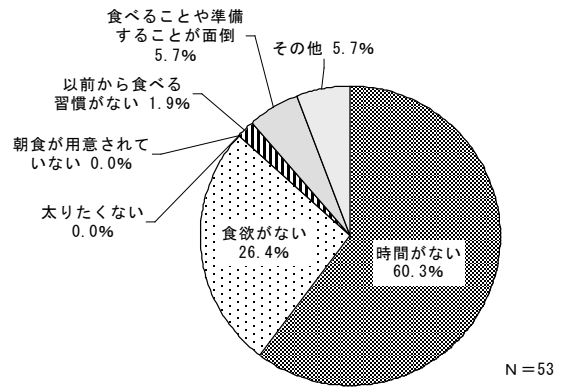


《問3で、「2. ときどき食べないことがある」「3. ほとんど食べない」と答えた人におたずねします》

問3-1 朝ごはんを食べない一番大きな理由は何ですか（1つに〇）

- ・「時間がない」が60.3%で最も割合が高く、次いで「食欲がない」が26.4%である。
- ・「時間がない」は特に女子で割合が高い。

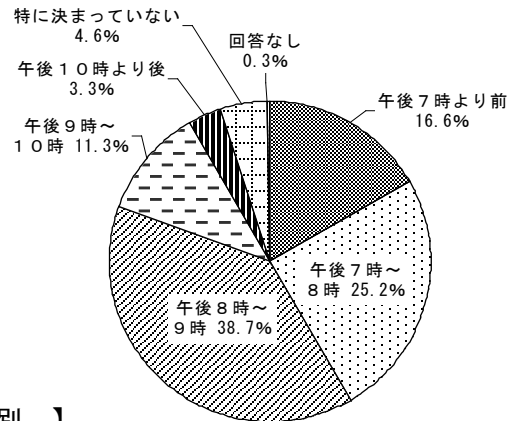
【 全体 】



【 全体 】

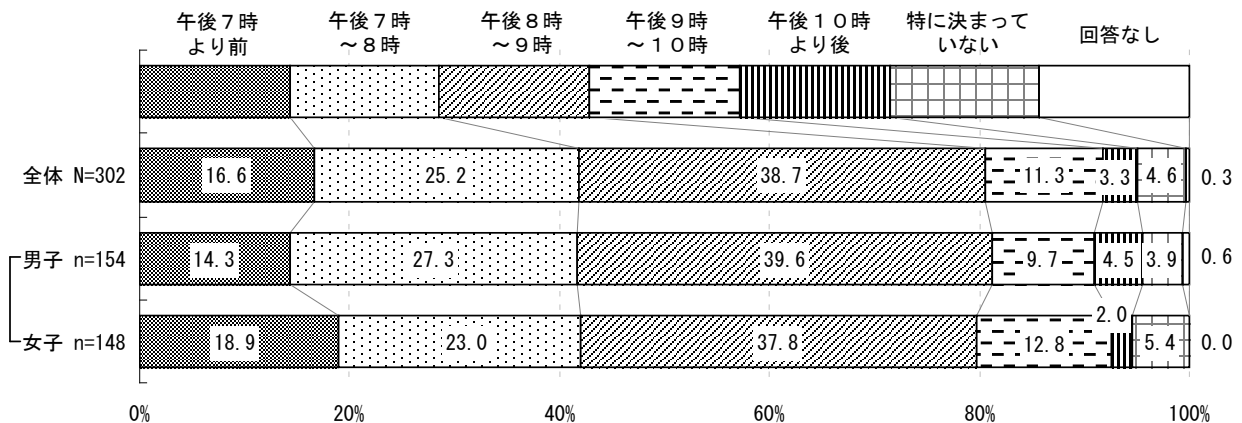
問4 あなたは、夕食を何時ごろ食べますか（1つに〇）

- ・「午後8～9時」が38.7%で最も割合が高く、次いで「午後7時～8時」、「午後7時より前」となっている。



【 全体・性別 】

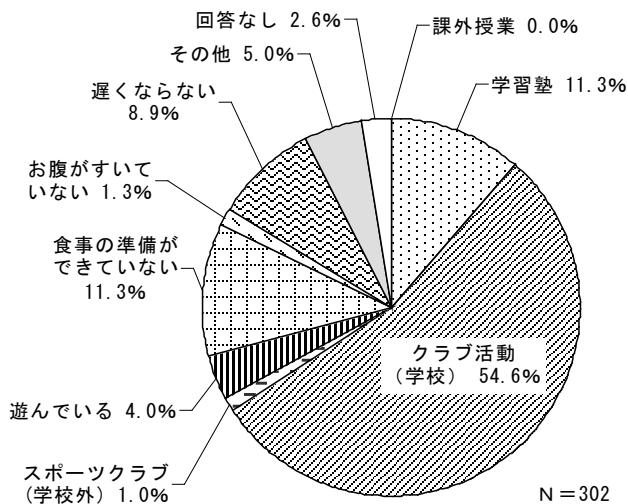
N=302



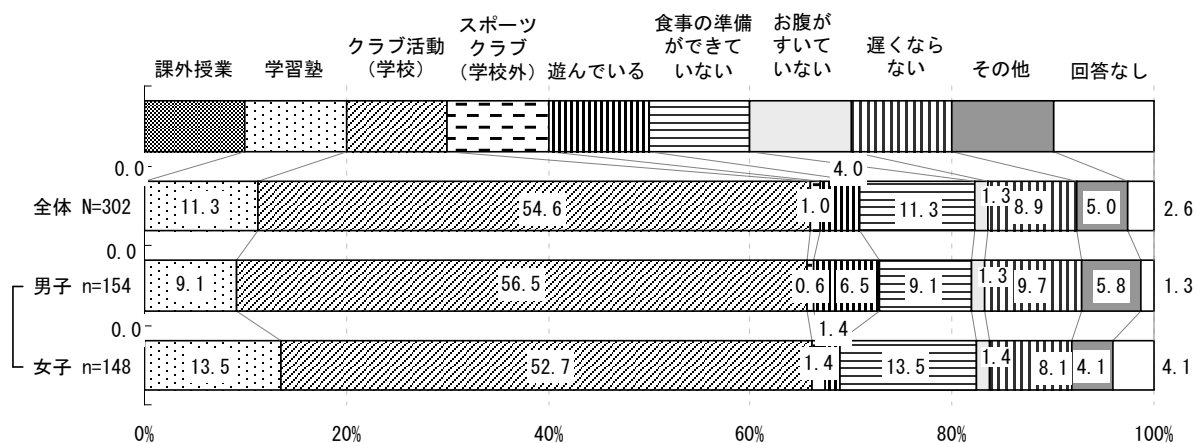
問5 あなたの夕食時間が8時以降になる時の一番大きな理由はなんですか（1つに○）

・「クラブ活動（学校）」が54.6%で最も割合が高く、次いで「学習塾」、 「食事の準備ができていない」が11.3%となっている。

【 全 体 】



【 全 体・性 別 】

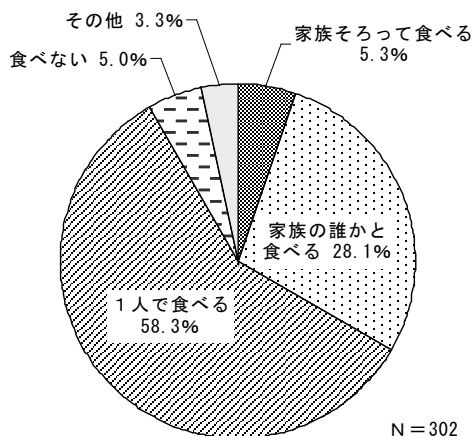


問6 あなたは、ふだんだれと食事をすることが多いですか

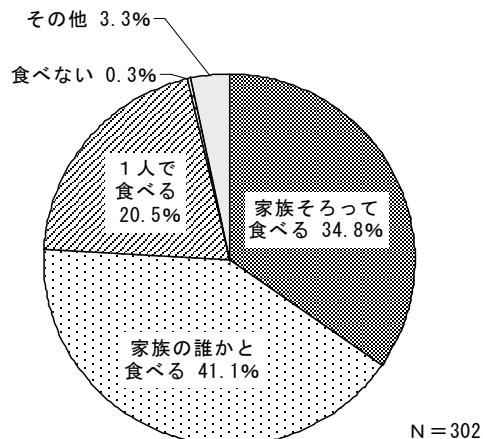
◆ 朝食 (1つに○) ◆ 夕食 (1つに○)

- ・朝食は「一人で食べる」が58.3%で、次いで「家族の誰かと食べる」が28.1%となっている。
- ・夕食は「家族の誰かと食べる」が41.1%が最も多く、次いで「家族そろって食べる」が34.8%で多い。

【 朝 食 : 全 体 】



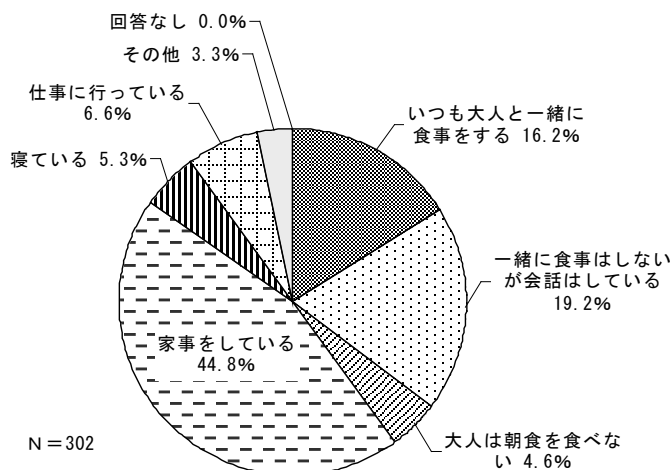
【 夕 食 : 全 体 】



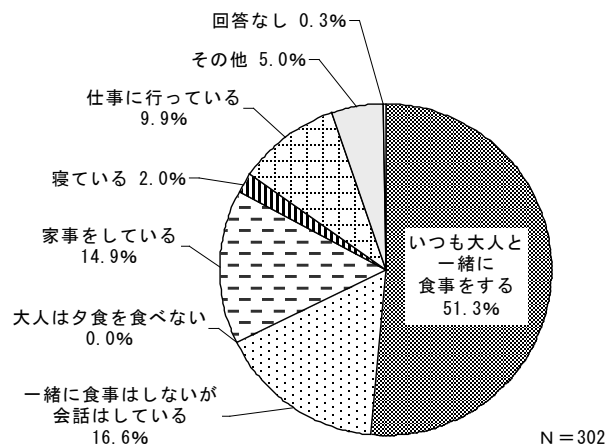
問7 あなたは、ふだん子どもだけで食事をすることがありますか、そのとき大人はどうしていますか ◆ 朝食 (1つに○) ◆ 夕食 (1つに○)

- ・朝食は「家事をしている」が44.8%で、次いで「一緒に食事はないが会話している」「いつも大人と一緒に食事をする」となっている。
- ・夕食は「いつも大人と一緒に食事をする」が51.3%で最も割合が高く、次いで「一緒に食事はないが会話している」、「家事をしている」となっている。

【 朝 食 : 全 体 】

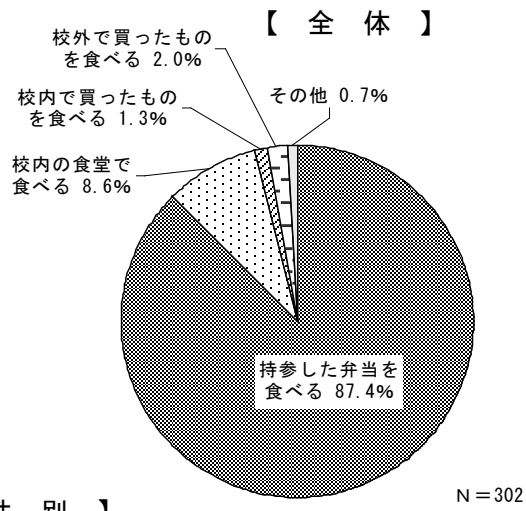


【 夕 食 : 全 体 】

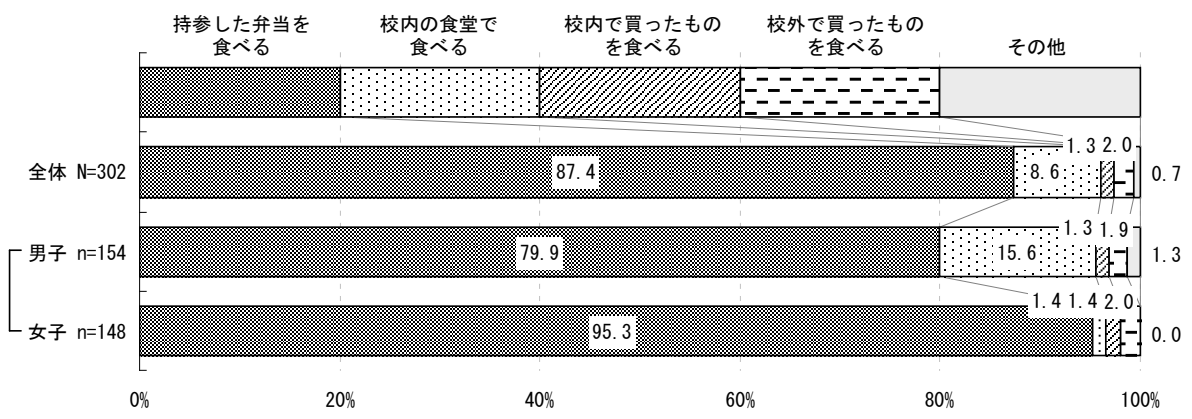


問8 あなたは、平日の昼食をどのようにとることが最も割合が高いですか (1つに○)

- ・「持参した弁当を食べる」が87.4%で最も割合が高い。
- ・男子は女子に比べ、「校内の食堂で食べる」の割合が高い。

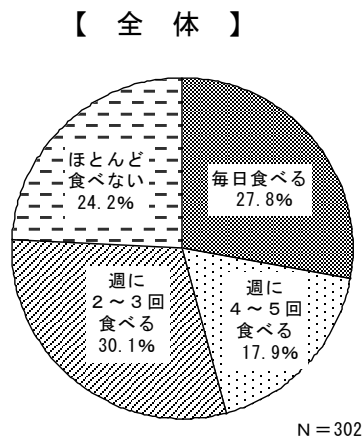


【 全体・性別 】

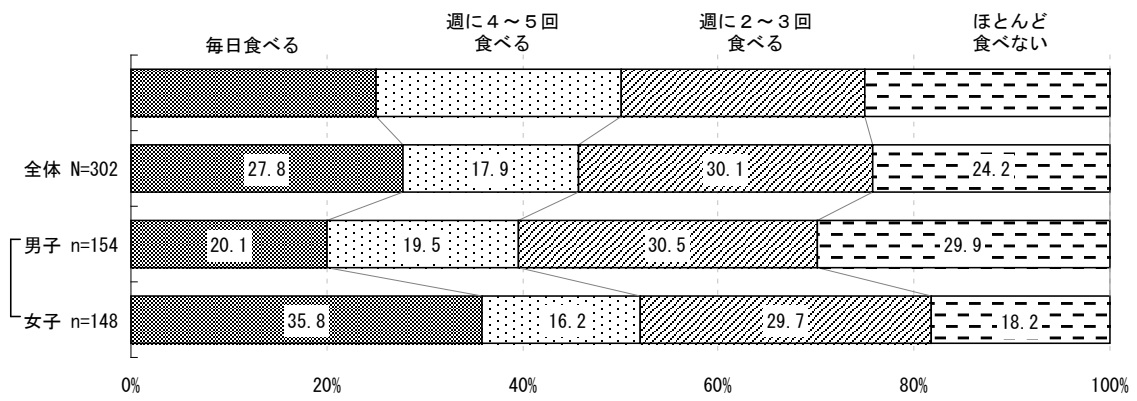


問9 あなたは、ふだん昼食から夕食までの間におやつを食べたり飲んだりしますか (1つに○)

- ・「週に2~3回食べる」が30.1%で最も割合が高いが、他の回答は分散している。



【 全体・性別 】



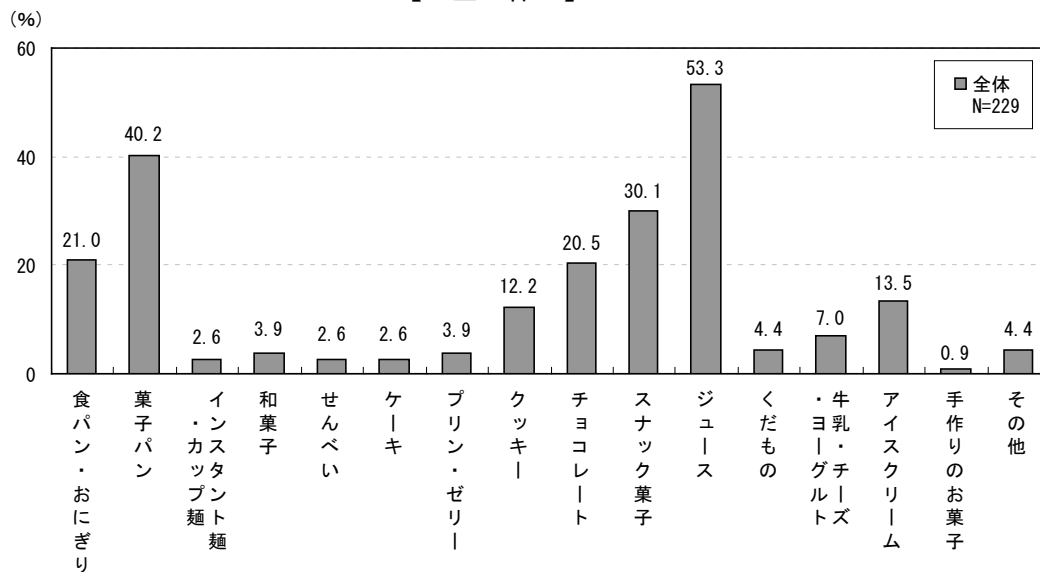
問9で、「1. 毎日食べる」「2. 週に4～5回食べる」「3. 週に2～3回食べる」と答えた人におたずねします》

問9-1 あなたが、昼食から夕食までによく食べたり飲んだりするものはなんですか

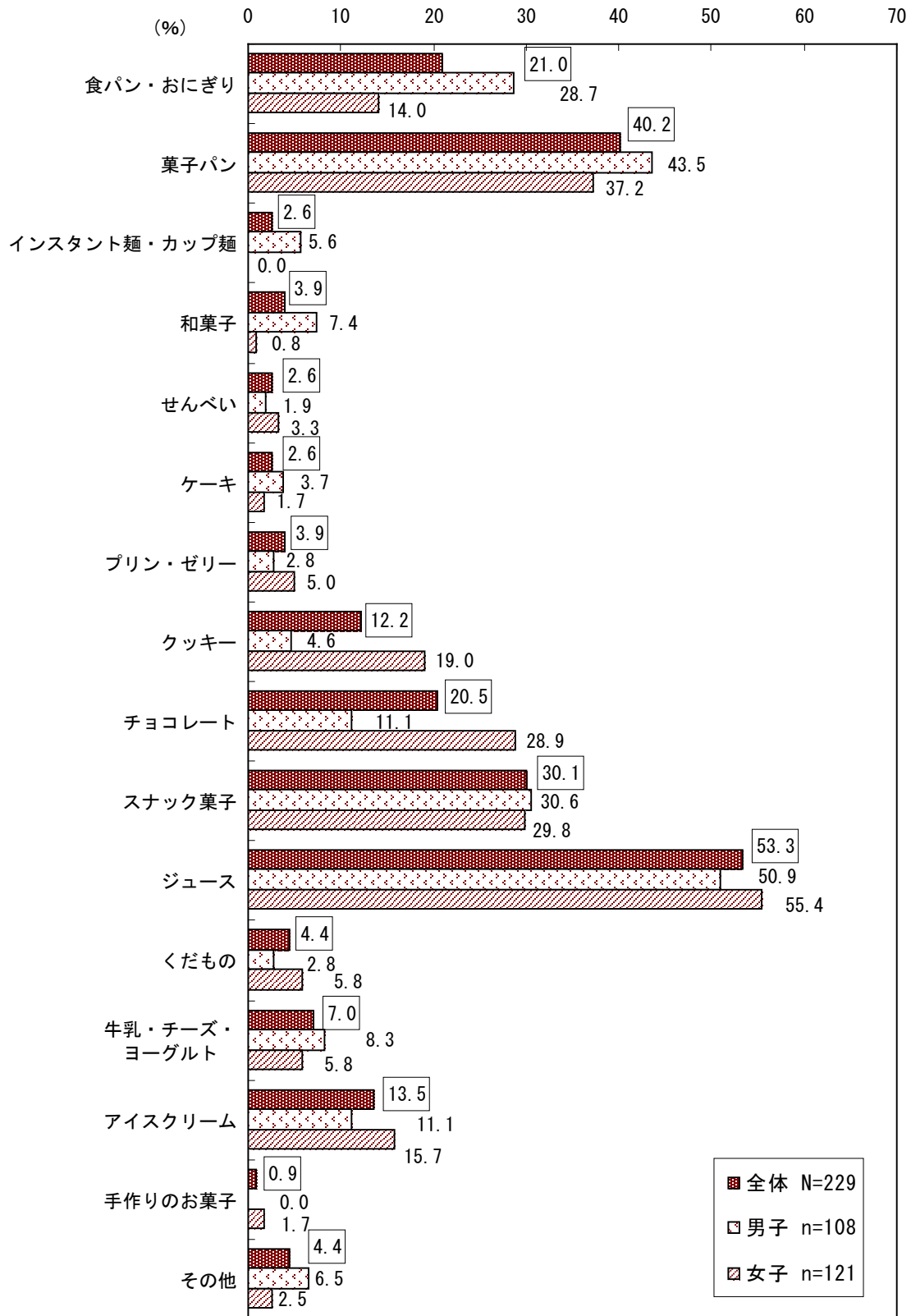
(○は3つまで)

- ・最も割合の高いものから、「ジュース」、「菓子パン」、「スナック菓子」となっている。
- ・「食パン・おにぎり」については特に女子より男子の割合が高く、「クッキー」、「チョコレート」については特に男子より女子の割合が高い。

【 全 体 】

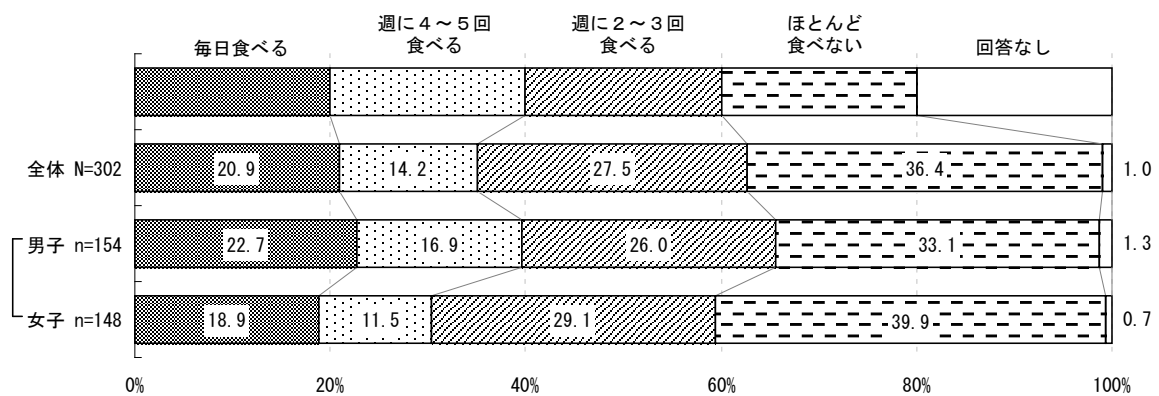
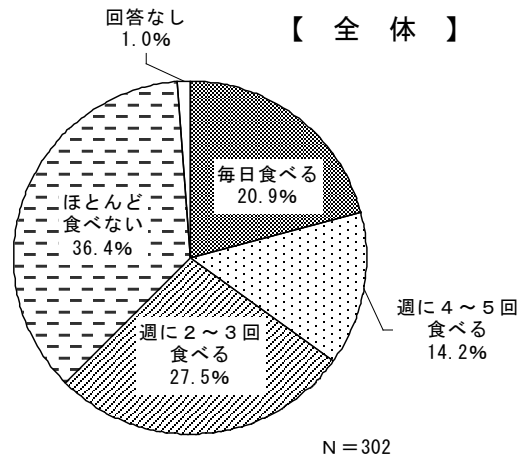


【 全 体 ・ 性 別 】



問 10 あなたは、ふだん夕食を食べて寝るまでの間に何か食べていますか（ジュースなどの飲み物もふくみます）
（1つに○）

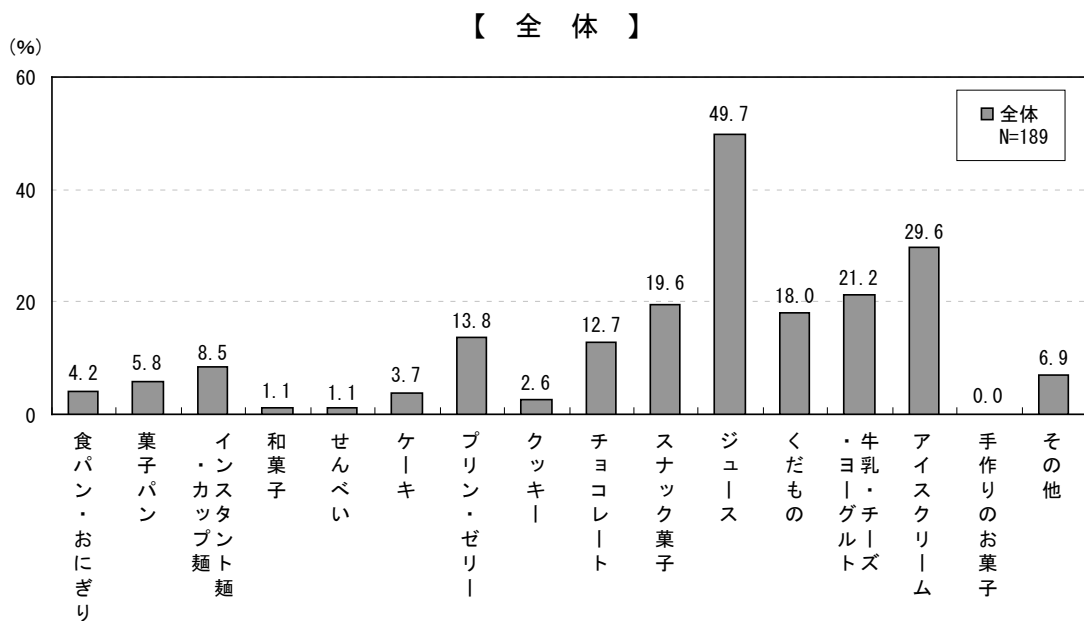
- ・「ほとんど食べない」が36.4%で最も割合が高いが、回答は分散している。
- ・「ほとんど食べない」については女子が男子に比べ割合が高い。



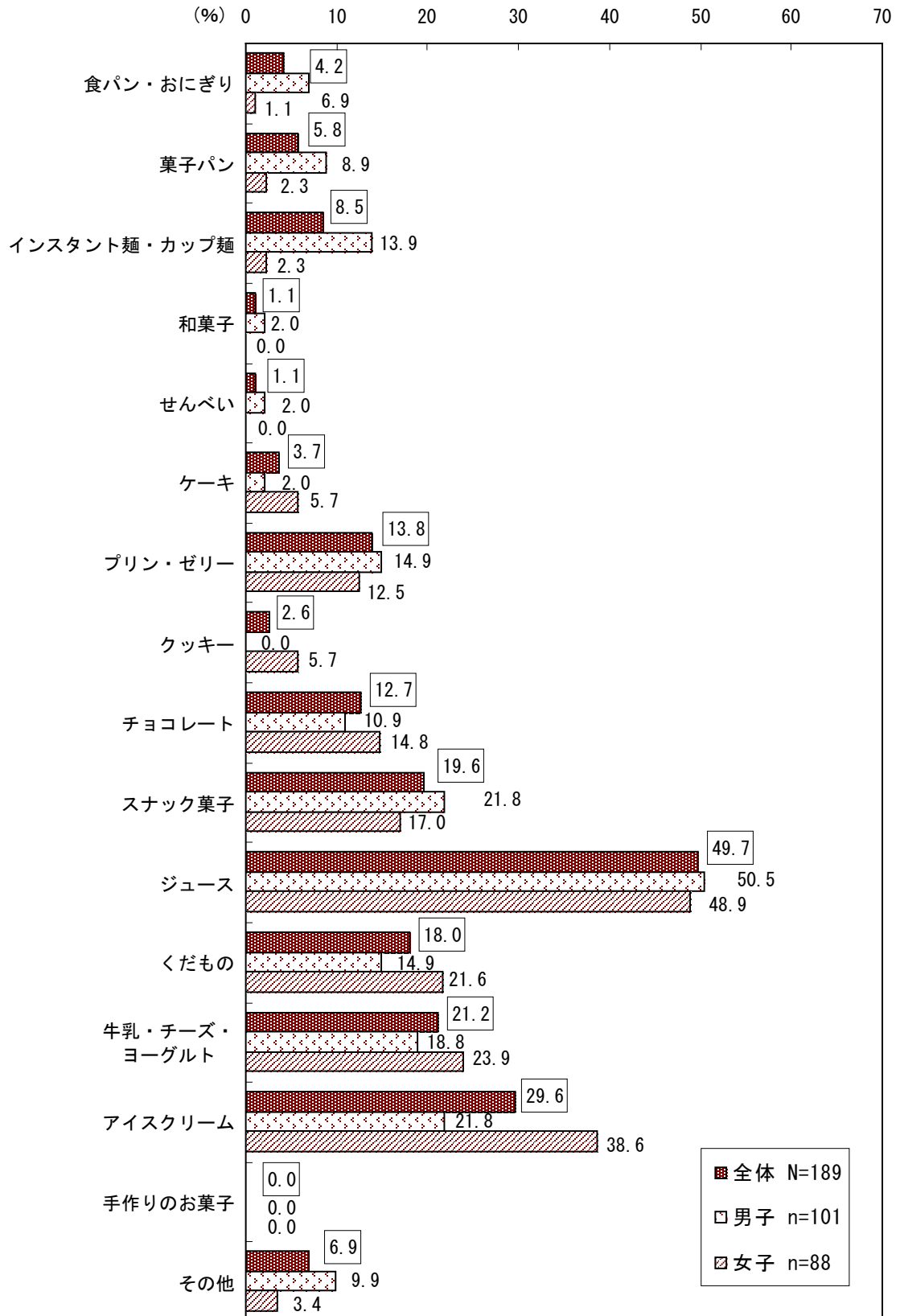
《問 10 で、「1. 毎日食べる」「2. 週に4~5回食べる」「3. 週に2~3回食べる」と答えた人におたずねします》

問 10-1 あなたが、夕食後よく食べたり飲んだりするものは何ですか（○は3つまで）

- ・最も割合の高い順に「ジュース」、「アイスクリーム」、「牛乳・チーズ・ヨーグルト」、「スナック菓子」となっている。
- ・「アイスクリーム」、「くだもの」については特に女子が男子より割合が高く、「インスタント麺・カップ麺」については特に男子が女子より割合が高い。



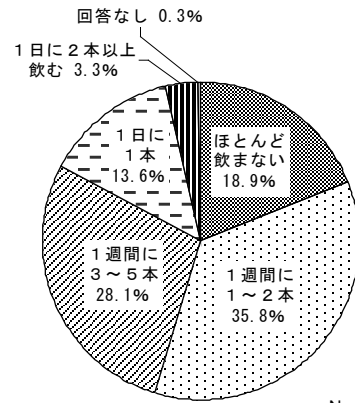
【 全体・性別 】



【 全 体 】

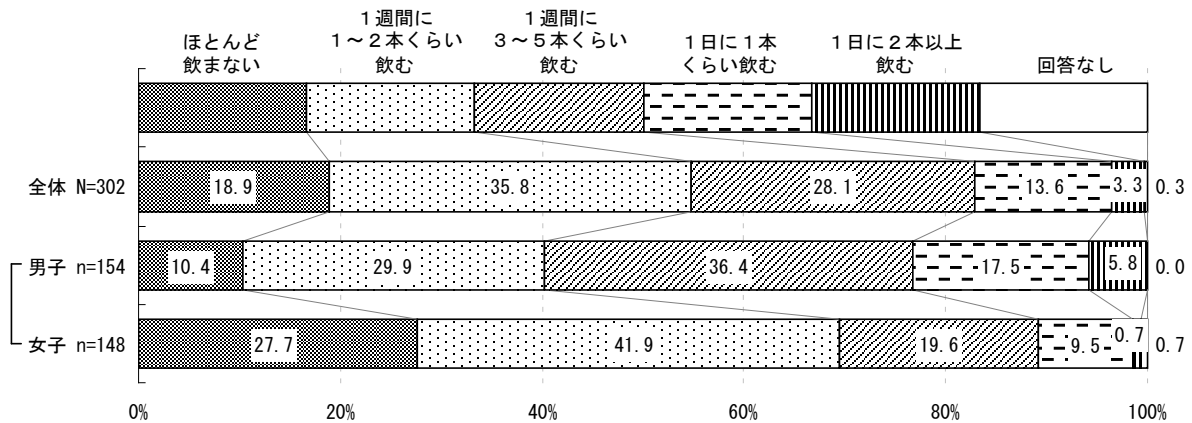
問11 あなたは、ジュース類（スポーツ飲料をふくむ）をどれくらい飲みますか（1つに○）
 * 1本は500ミリリットルとします

・「一週間に1～2本」が35.8%で最も割合が高く、次いで「一週間に3～5本」、「ほとんど飲まない」となっている。
 ・男子が女子に比べ、一週間に飲む本数が多い傾向にある。



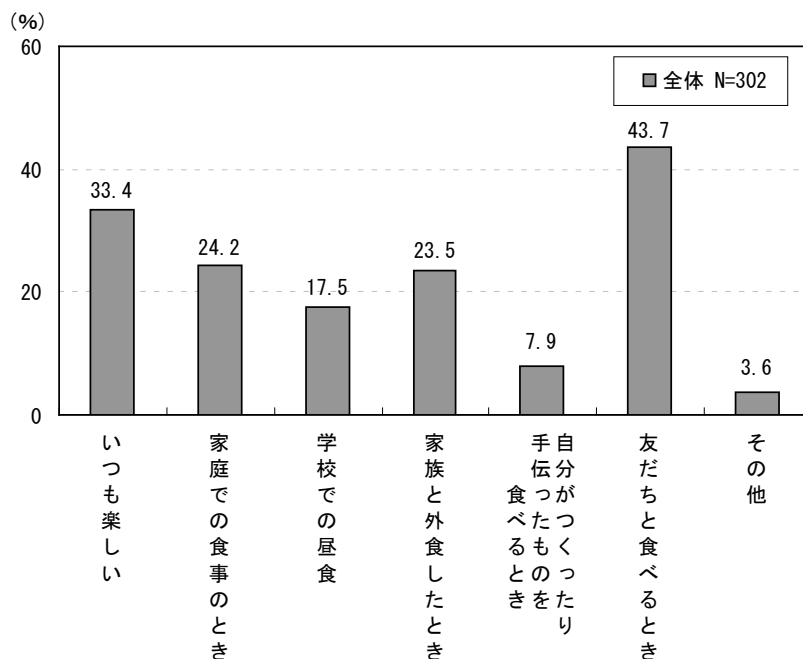
N = 302

【 全 体・性 別 】

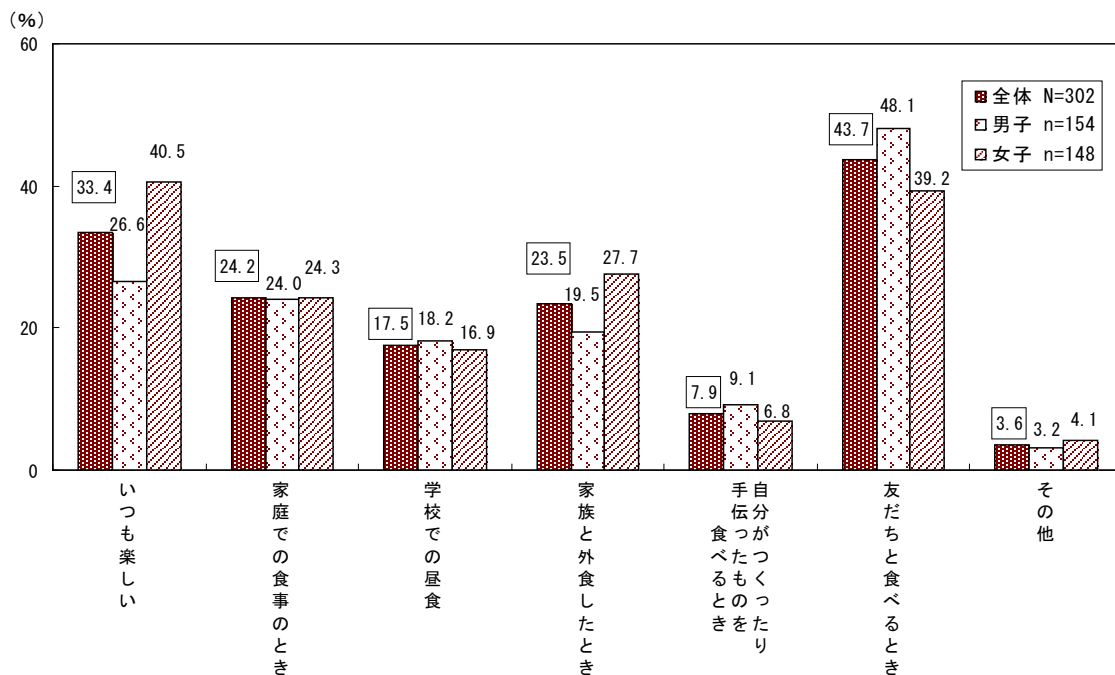


問12 あなたは、どんな食事のときが楽しいですか（○はいくつでも）
 ・「友だちと食べるとき」、「いつも楽しい」、「家庭での食事のとき」の順で多い。

【 全 体 】



【 全 体 ・ 性 別 】

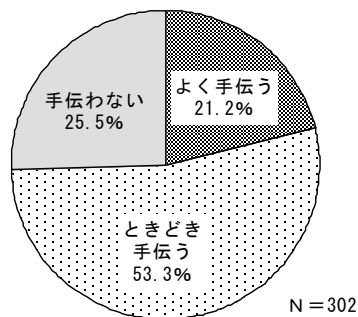


問 13 あなたは、「食器をならべる」「一緒に料理する」など、食事の準備や食事づくりを手伝っていますか

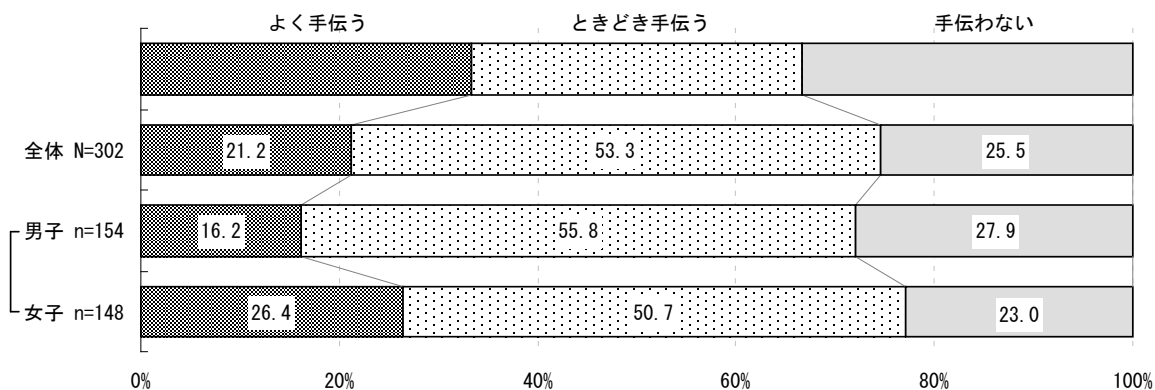
(1つに○)

- ・「ときどき手伝う」が 53.3%で最も割合が高く、「よく手伝う」が 21.2%で、合せて 74.5%が手伝っている。
- ・「よく手伝う」について、女子が男子より割合が高い。

【 全 体 】



【 全 体 ・ 性 別 】

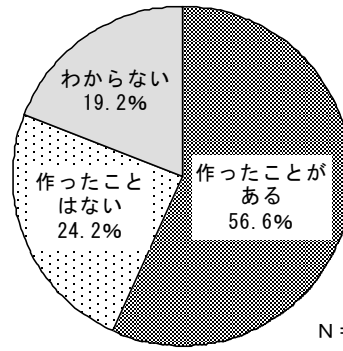


【 全体 】

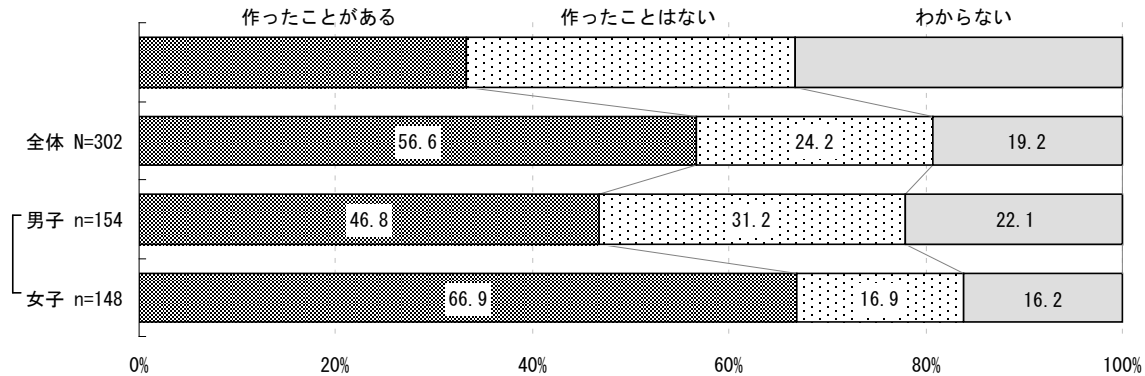
問 14 あなたは、自分だけで料理を作ったことがありますか（1つに○）

・「作ったことがある」が 56.6%で割合が高い。

・女子の方が作った事のある人が多い。



【 全体・性別 】

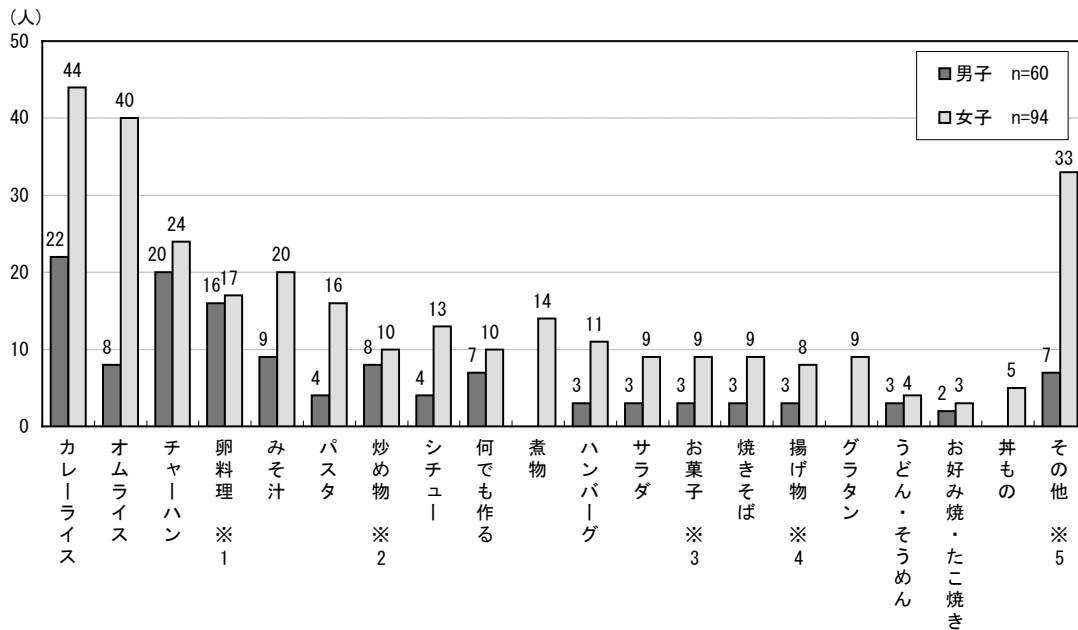


問 14-1 あなたが、自分だけで作れる料理はなんですか（○はいくつでも）

・最も多いのは、「カレーライス」であり、次いで「オムライス」である。件数が少なくなるが次いで「チャーハン」、「みそ汁」があげられている。

・全て、女子の方が男子より多く、カレーライスは男子の2倍の件数である。

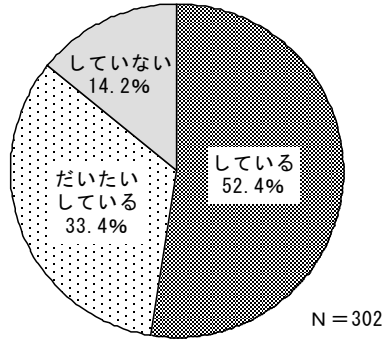
自分だけで作れる料理



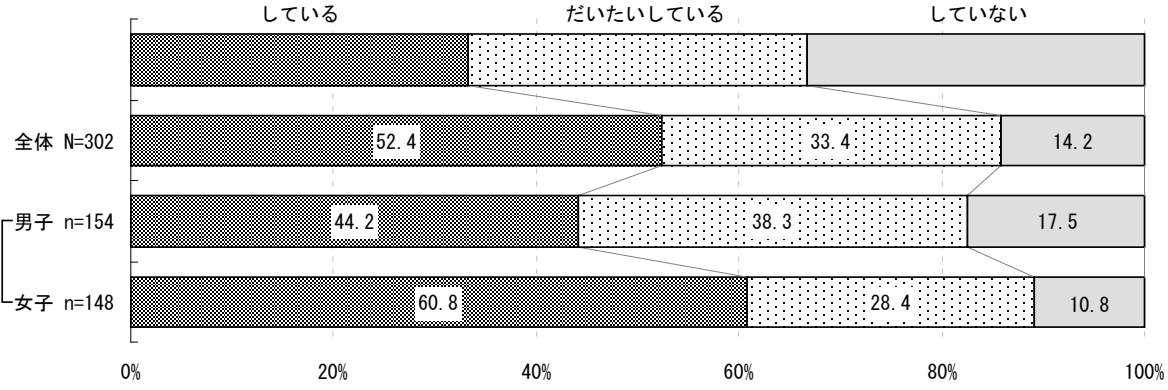
※1・たまご焼き、目玉焼き、スクランブルエッグ、ゆでたまご、ハムエッグ 等
 ※2・野菜炒め、ゴーヤーチャンプル 等
 ※3・プリン、ホットケーキ、ティラミス、ケーキ、アップルパイ、抹茶ムース 等
 ※4・コロッケ、唐揚げ、とんかつ、エビフライ 等
 ※5・麻婆豆腐、ぎょうざ、ラーメン、きんぴら、鍋、炊飯、ハヤシライス、スープ、すき焼き、揚げ物以外、ピラフ、酢豚、なす料理、カップラーメン、焼肉、かしわご飯、豆腐バター、おでん、ミネストローネ、ピザ、おひたし、キャベツの千切り、ロールキャベツ、ジャガイモとベーコンの重ね煮、鶏のマーメレード焼き 等

問 15 あなたは、食事のときに「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをしていますか（1つに○）

- ・「している」が52.4%で割合が高い。
- ・「している」、「だいたいしている」について女子が男子より割合が高い。



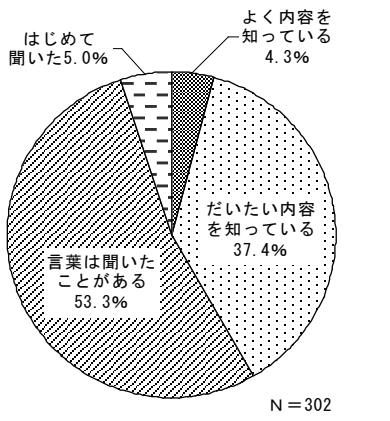
【 全 体・性 別 】



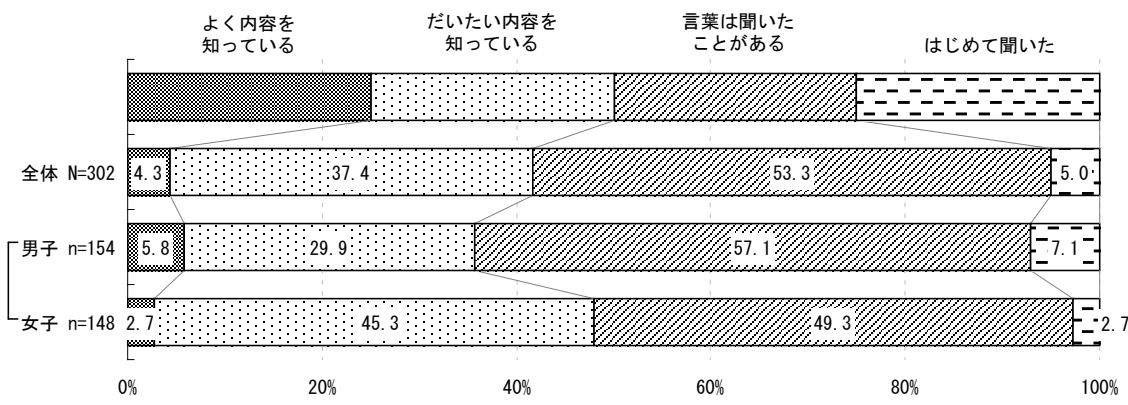
【 全 体 】

問 16 あなたは、「食育」という言葉やその意味を知っていましたか（1つに○）

- ・「言葉は聞いたことがある」が 53.3%で最も割合が高い。
- ・「だいたい内容を知っている」は 37.4%いる。



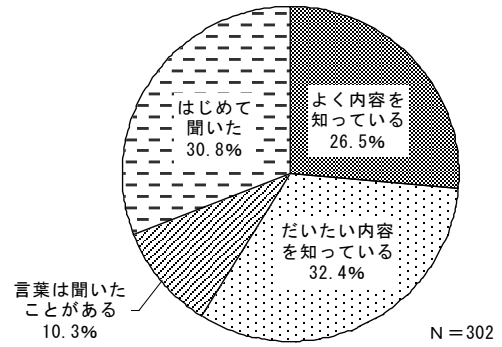
【 全 体・性 別 】



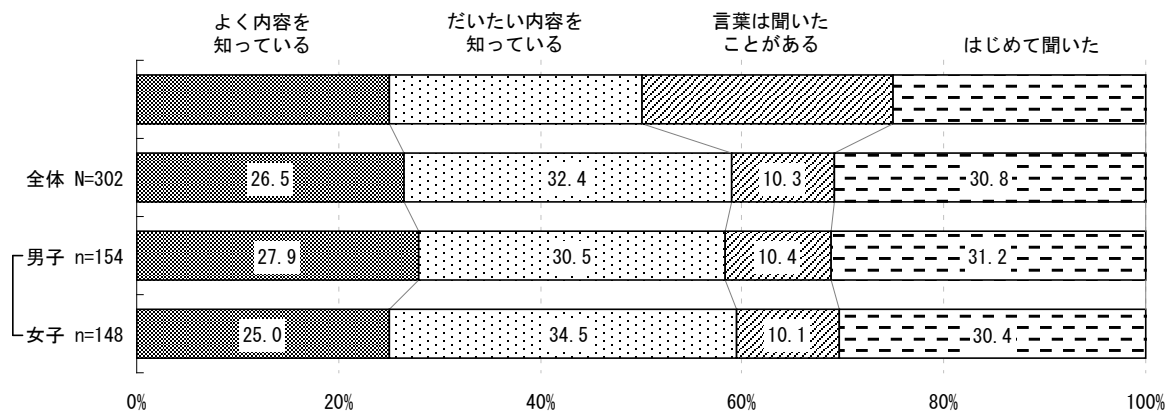
【 全 体 】

問 17 あなたは、「地産地消」という言葉や
その意味を知っていましたか
(1つに○)

・言葉についての認知度は高く、半数以上は
内容を知っている。一方で、「はじめて聞いた」
が約 30.8%いる。



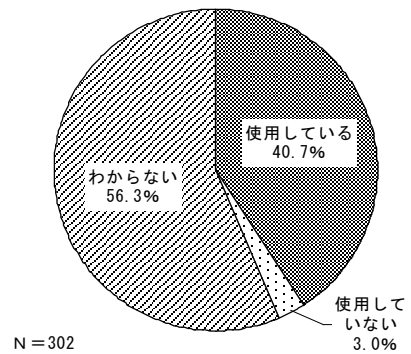
【 全 体・性 別 】



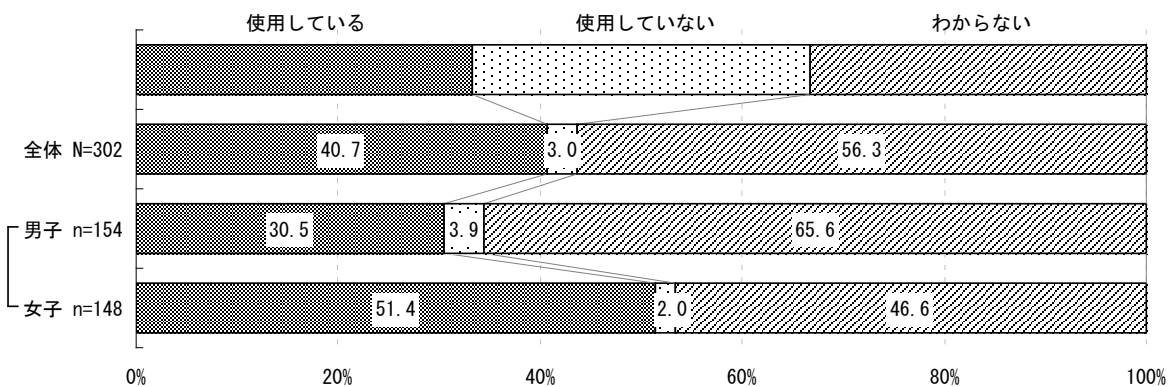
問 18 あなたの家庭では、地元でとれた農畜
産物を使用していますか (1つに○)

・「使用している」は、40.7%である。

【 全 体 】



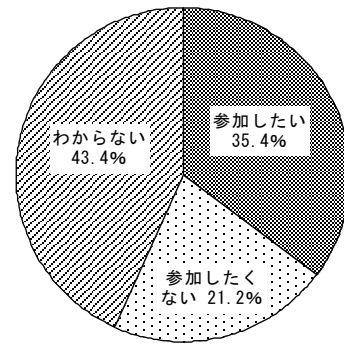
【 全 体・性 別 】



問 19 あなたは、学校や地域で農業体験を行う機会があれば参加してみたいと思いますか（1つに○）

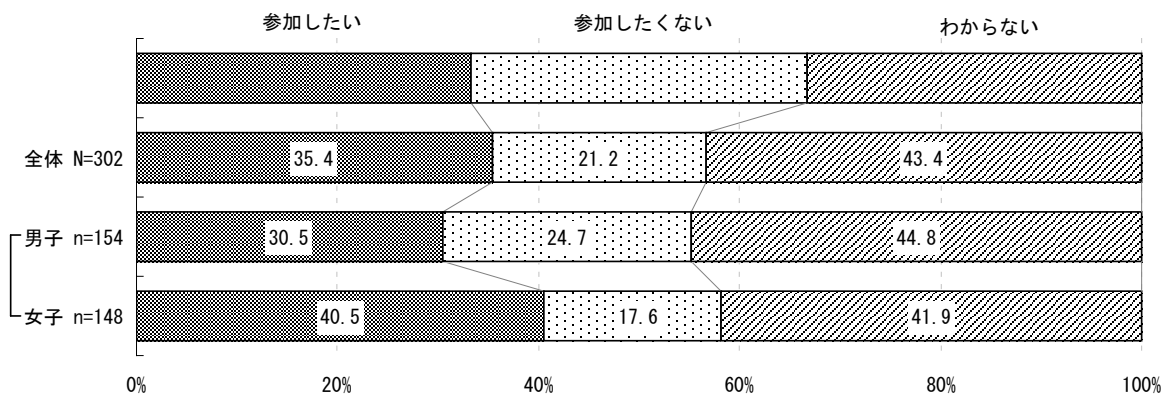
・「参加したい」は 35.4%であり、特に女子が男子より割合が高い。

【 全 体 】



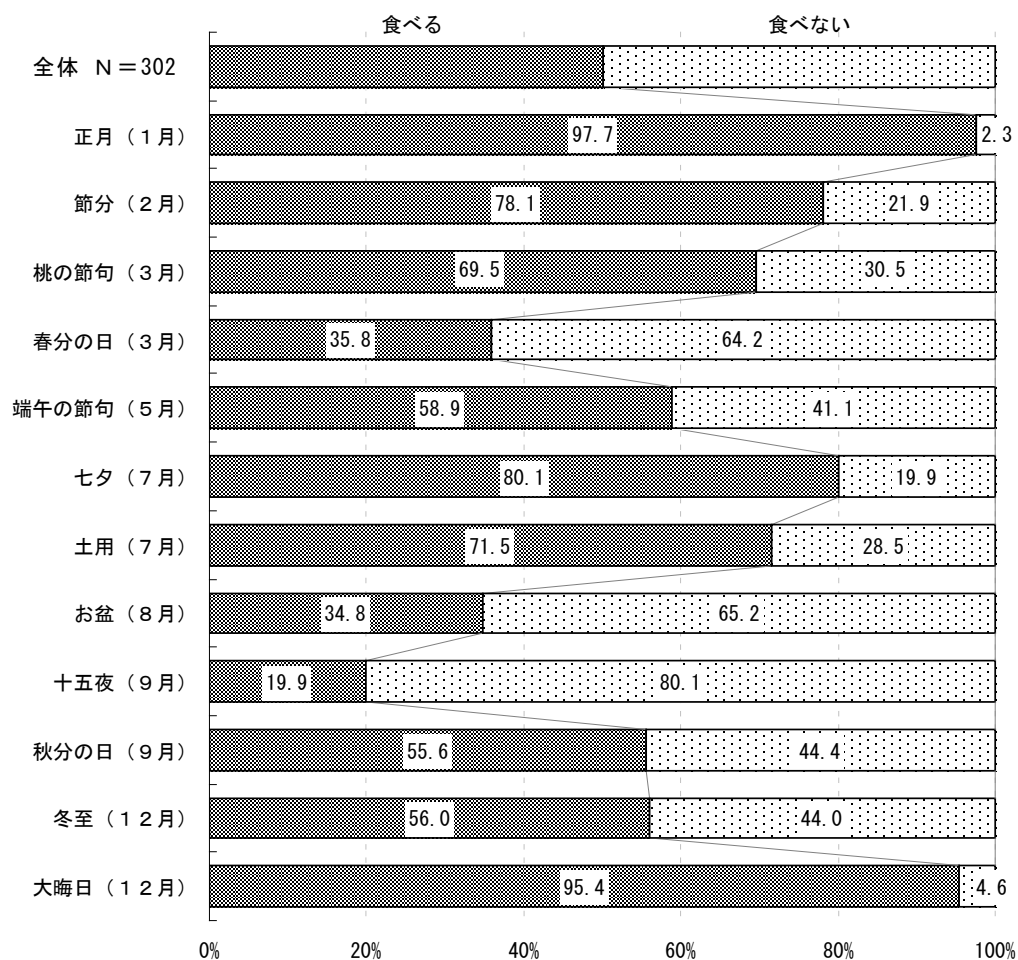
N = 302

【 全 体・性 別 】



問 20 あなたの家庭では次のような行事食を食べていますか（それぞれ一つに○）	
正月（1月：おせち、おぞうに、七草がゆ等）	・ほとんどの人が食べている。
節分（2月：まめ等）	・8割近くの人が食べている。
桃の節句（3月：ひな菓子、五目すし等）	・7割近くの人が食べている。
春分の日（3月：ぼたもち等）	・3割の人が食べている。
端午の節句（5月：ちまき、かしわもち等）	・6割近くの人が食べている。
七夕（7月：そうめん等）	・8割の人が食べている。
土用（7月：うなぎ等）	・7割の人が食べている。
お盆（8月：盆だら（たらの煮物）、団子等）	・3割の人が食べている。
十五夜（9月：月見団子等）	・2割近くの人が食べている。
秋分の日（9月：おはぎ等）	・6割近くの人が食べている。
冬至（12月：かぼちゃ料理等）	・6割近くの人が食べている。
大晦日（12月：そば等）	・ほとんどの人が食べている。

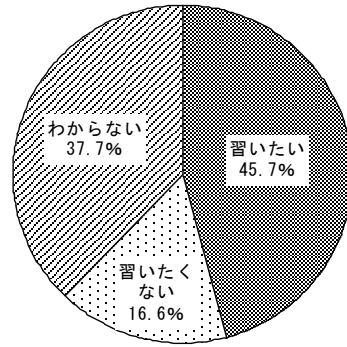
【 全 体 】



【 全 体 】

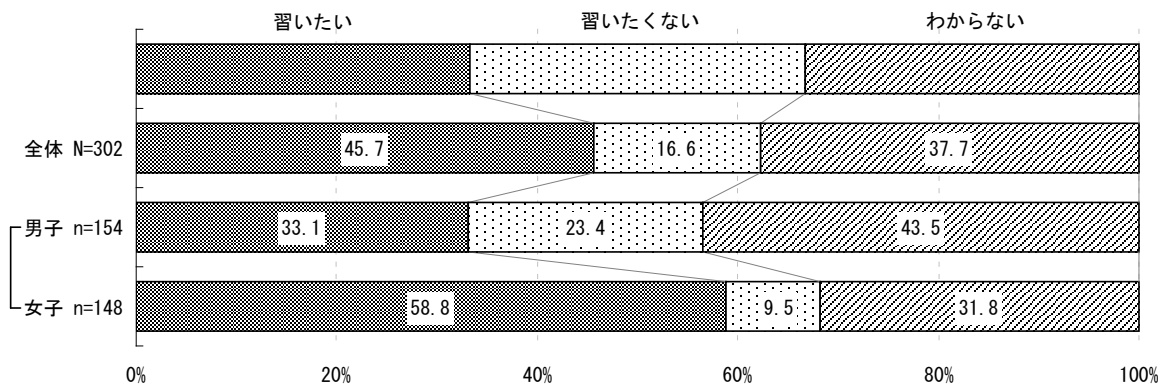
問21 あなたは、学校や地域・家庭で郷土料理や伝統料理を習ってみたいと思いますか（1つに○）

・「習いたい」は45.7%で、女子は58.8%男子は33.1%と女子の方が割合が高い。



【 全 体・性 別 】

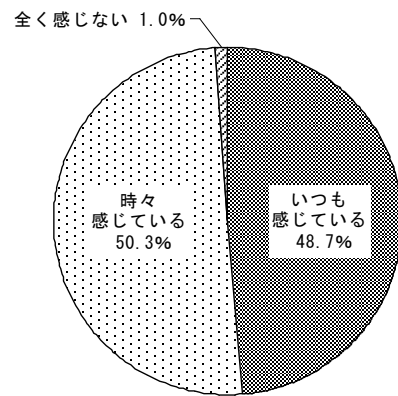
N=302



【 全 体 】

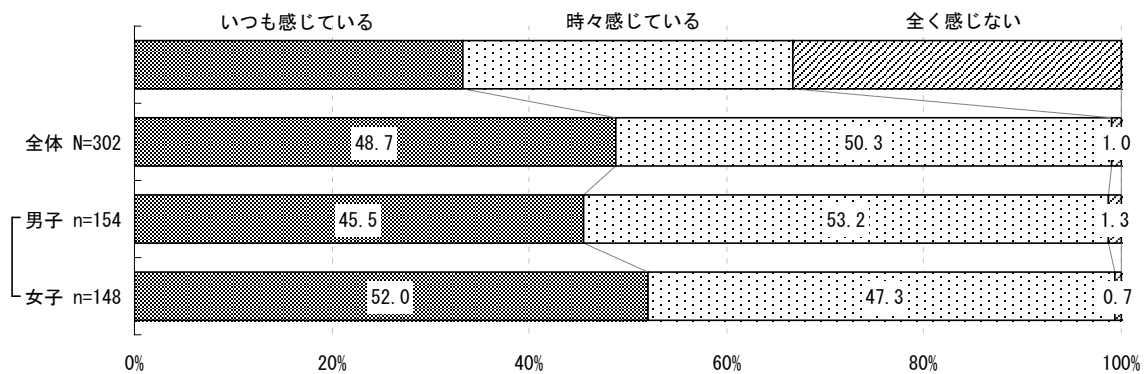
問22 あなたは、食べ残しや食品が捨てられていることに関して日頃からもったいないと感じることがありますか（1つに○）

・「時々感じている」が50.3%、「いつも感じている」が48.7%である。



N=302

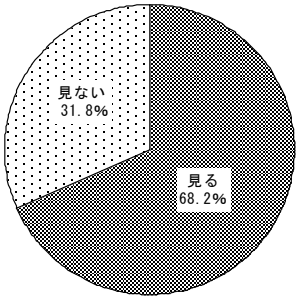
【 全 体・性 別 】



問 23 あなたは、食品を買うときに食品表示を見ますか（どちらかに○）

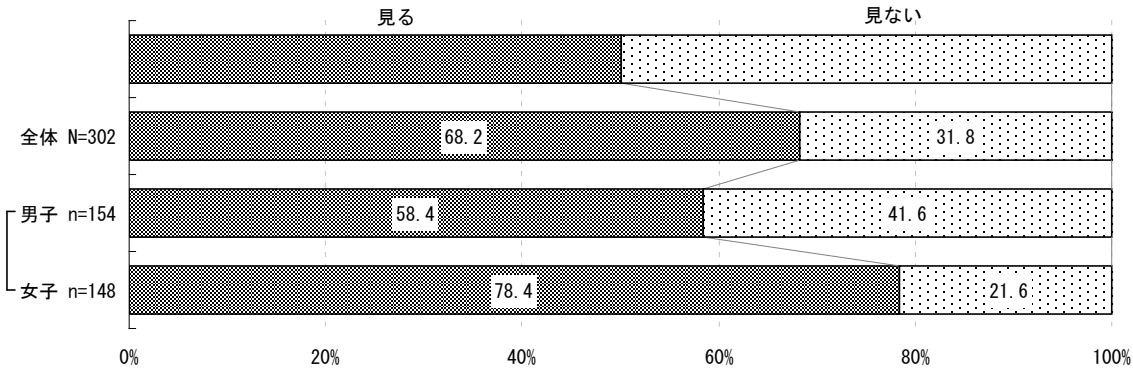
・「見る」が 68.2%で割合が高く、女子が 78.4%、男子が 58.4%と、女子の方が男子より割合が高い。

【 全 体 】



N = 302

【 全 体・性 別 】

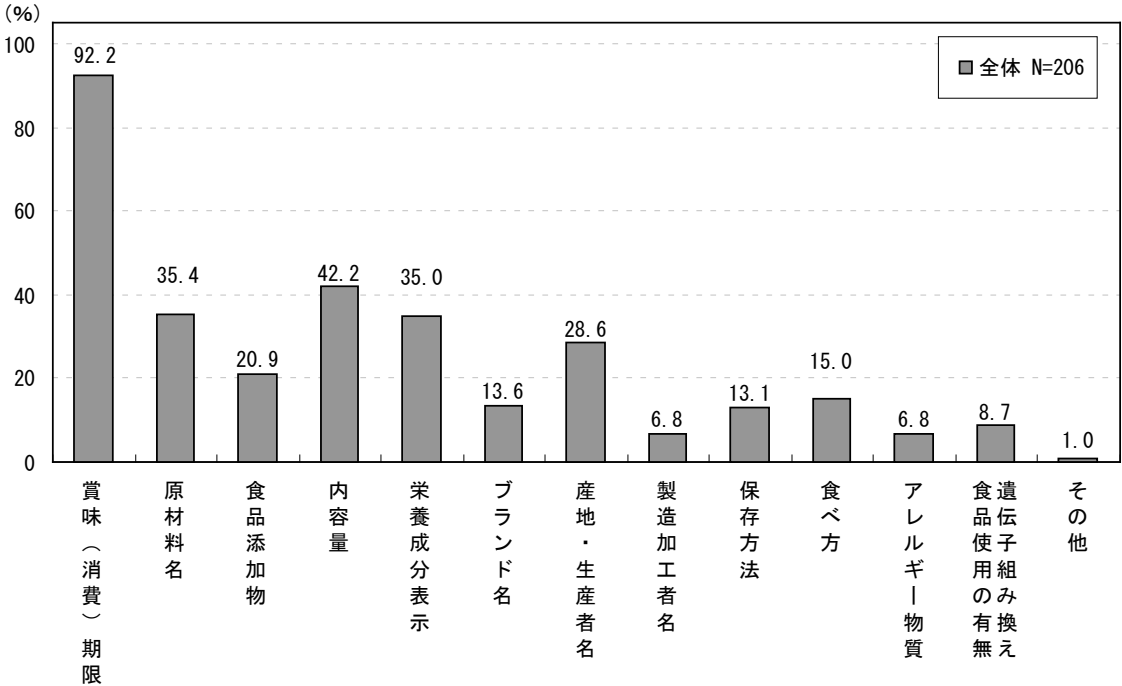


《問 23 で、「1. 見る」と答えた人におたずねします》

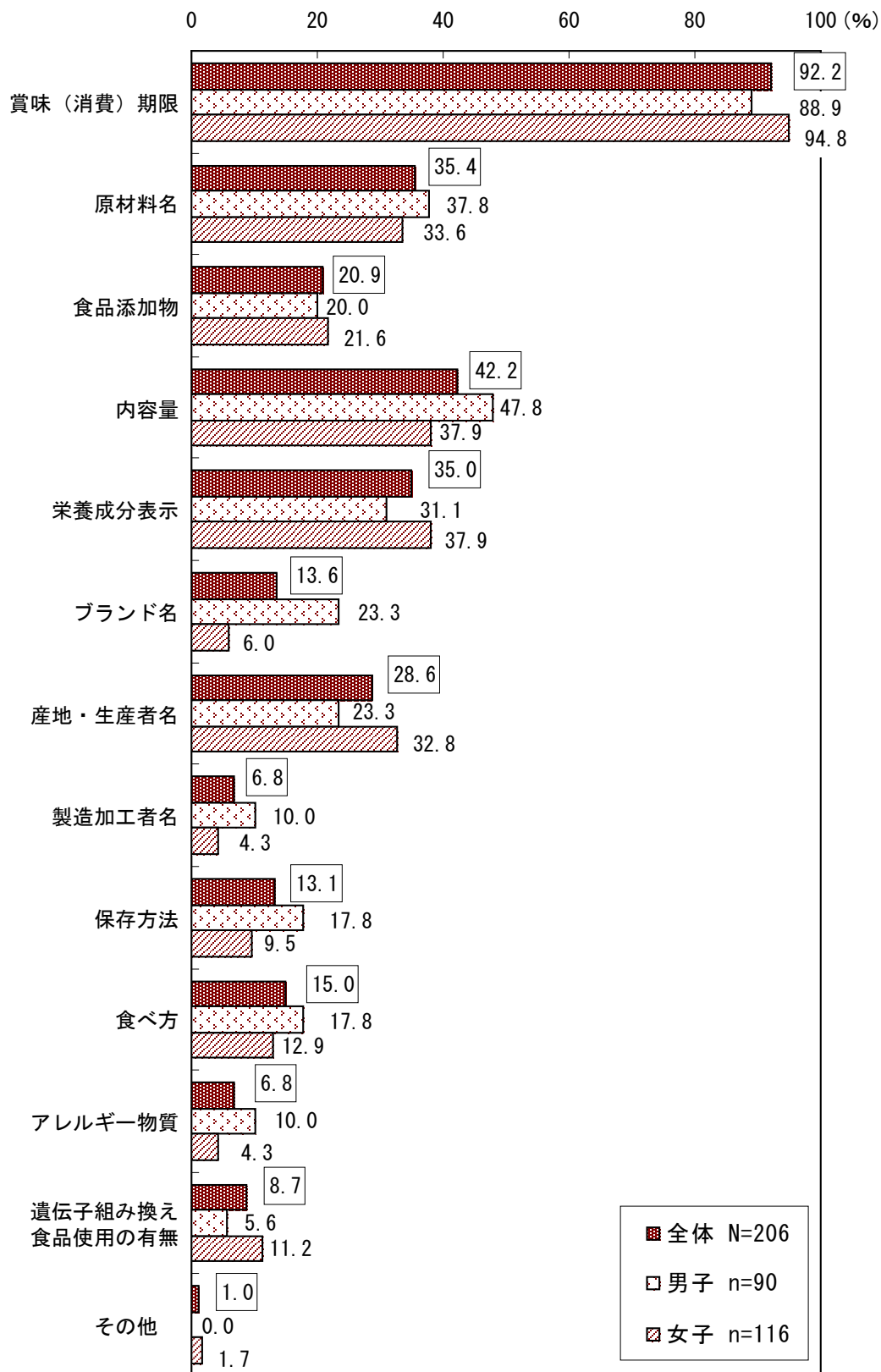
問 23-1 どのような表示を見ますか（あてはまるものすべてに○）

・「賞味期限」が 92.2%で最も割合が高く、次いで「内容量」、「原材料名」となっている。

【 全 体 】

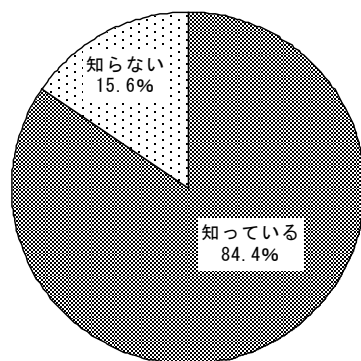


【 全 体 ・ 性 別 】



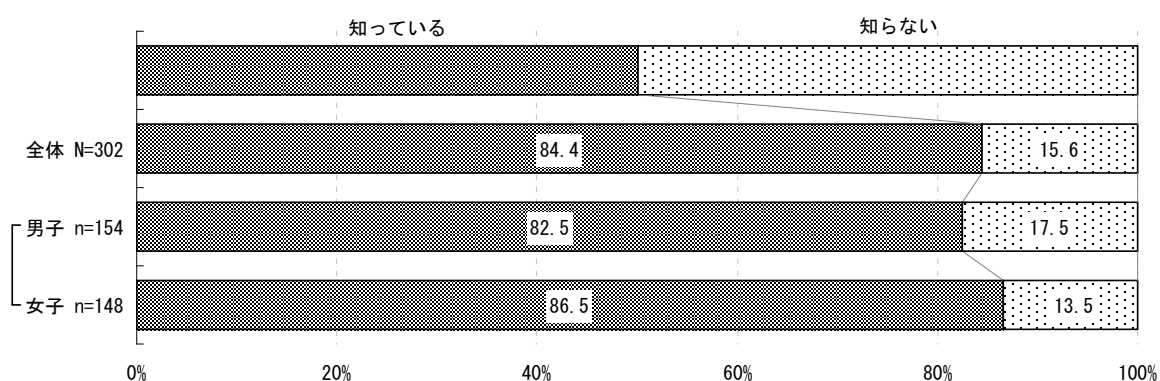
【 全 体 】

問 24 あなたは、食物アレルギーということを知っていますか
 (どちらかに○)
 ・「知っている」が84.4%で割合が高い。



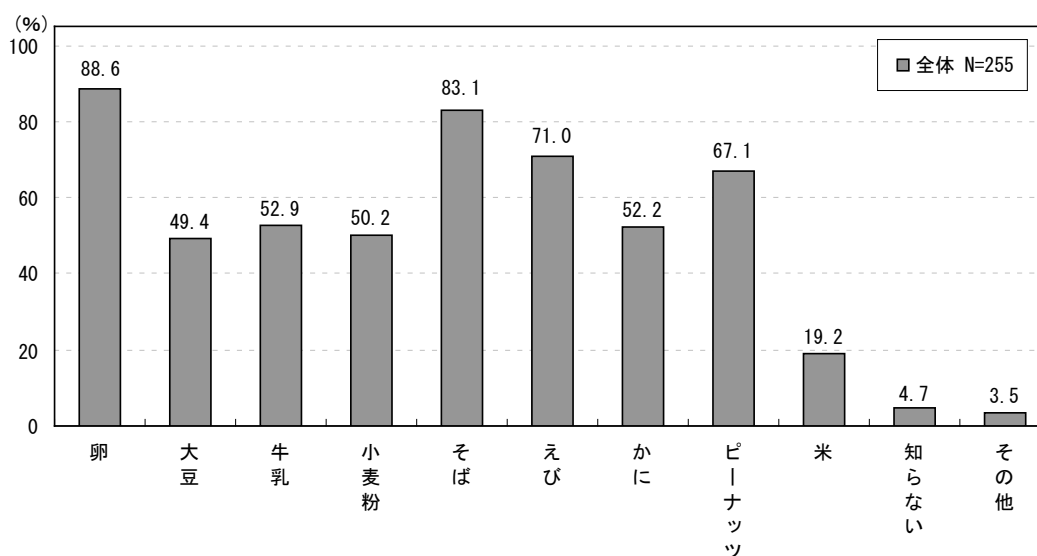
N=302

【 全 体・性 別 】

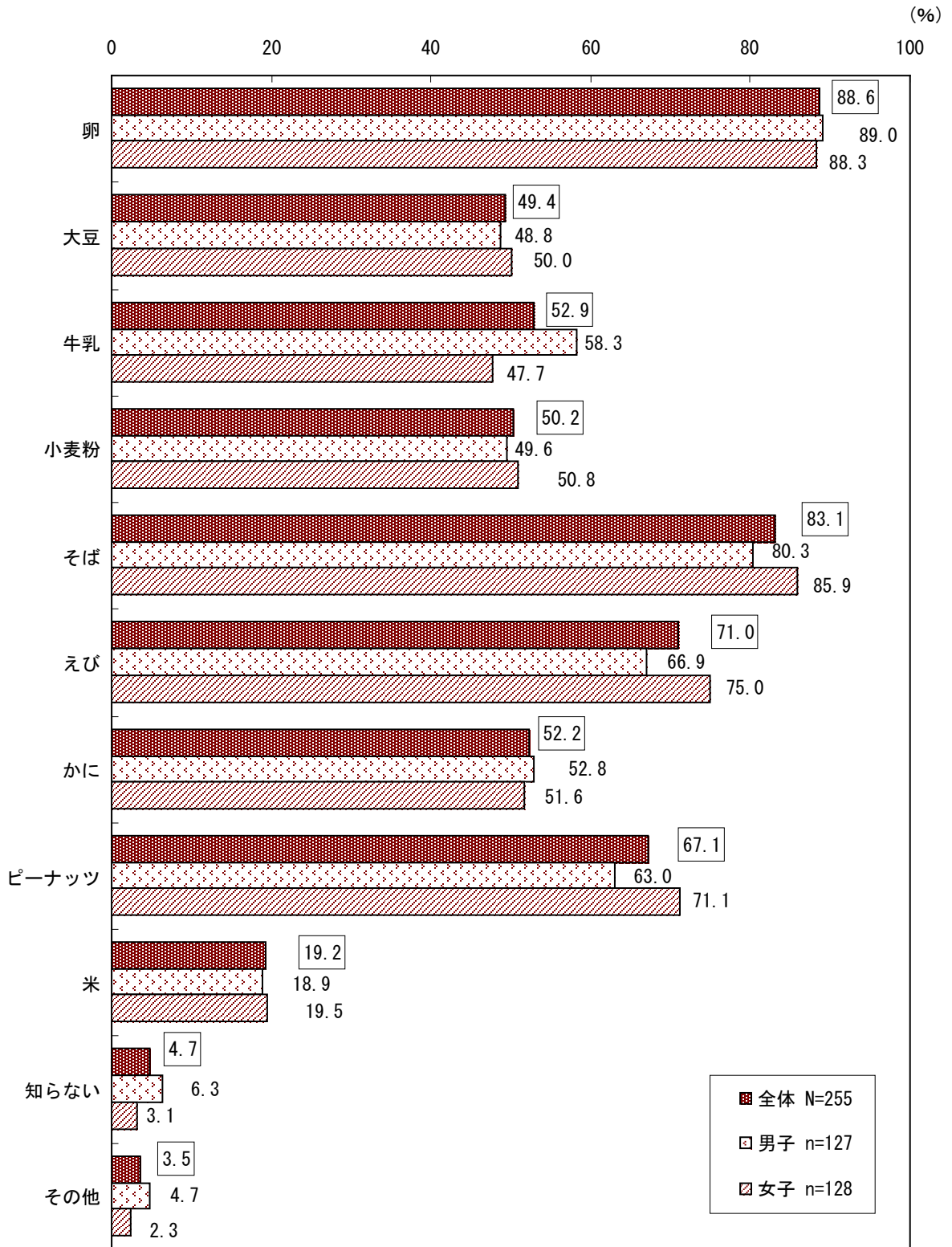


《問 24 で、「1. 知っている」と答えた人におたずねします》
 問 24-1 どのような食品がアレルギーの原因になるか知っていますか(あてはまるものすべてに○)
 ・「卵」が88.6%で認知度が最も高く、「そば」、「えび」、「ピーナッツ」、「牛乳」、「かに」、「小麦粉」は半数以上が知っている。

【 全 体 】

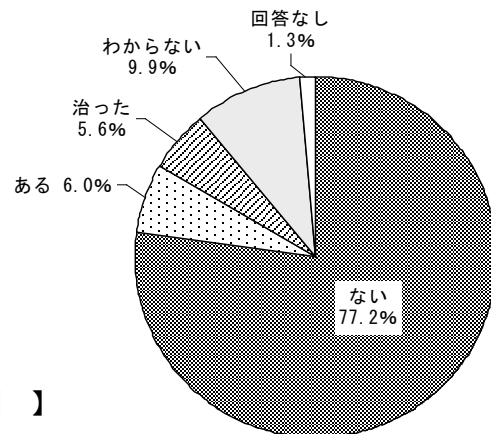


【 全 体・性 別 】

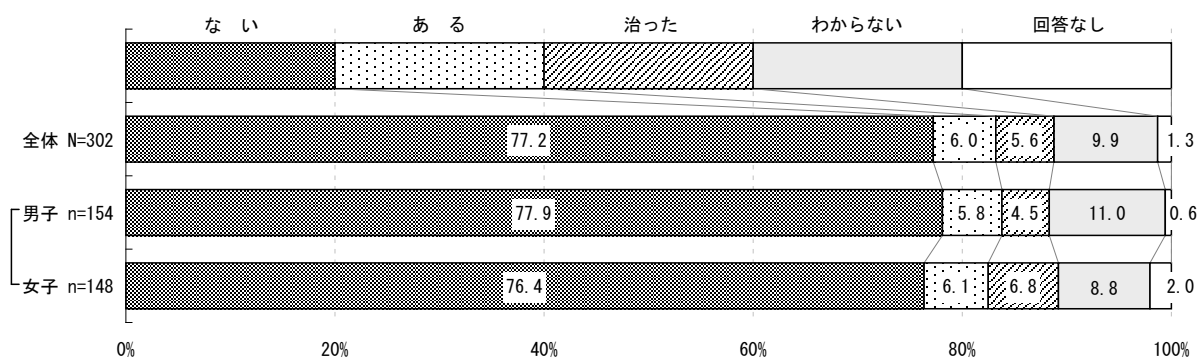


問 25 あなたには、現在食物アレルギーがありますか（1つに○）
 ・「ない」が77.2%である。

【 全 体 】



【 全 体・性 別 】



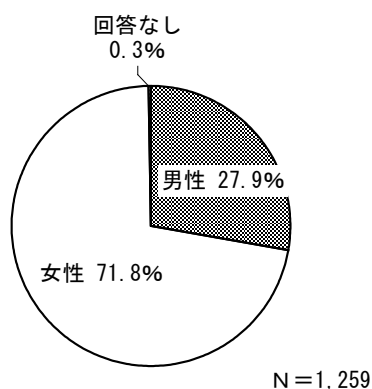
4. 「飯塚市食育推進計画」策定に向けたアンケート調査結果（成人）

1. あなた自身について

問1 あなたの性別はどちらですか（どちらかに○）

・女性の回答者の方が多い。

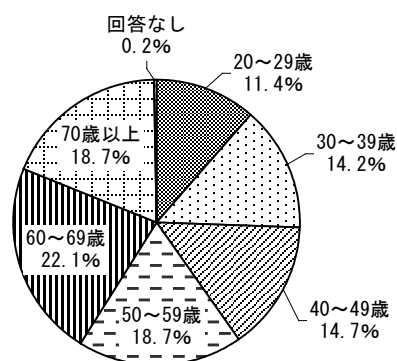
【全体】



問2 あなたの年齢はおいくつですか（1つに○）

・60歳代が22.1%で最も多く、次いで、50歳代、70歳以上である。60歳以上で40.8%を占める。20歳代は最も少ない。

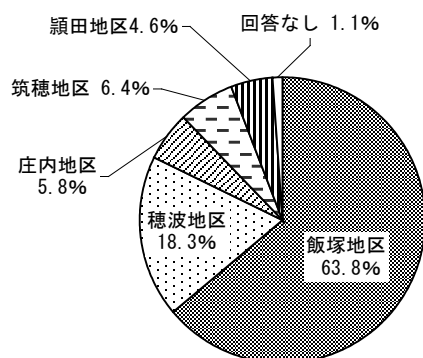
【全体】



問3 あなたがお住まいの地区はどこですか（1つに○）

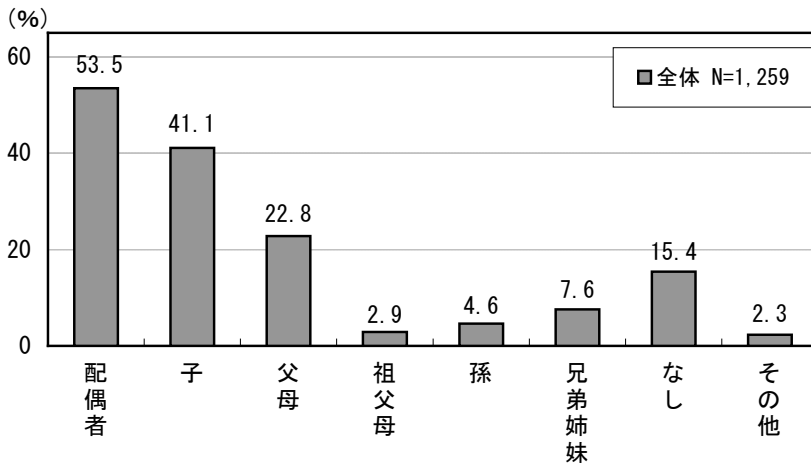
・飯塚地区が63.8%で最も多く、次いで穂波地区が18.3%と多い。

【全体】



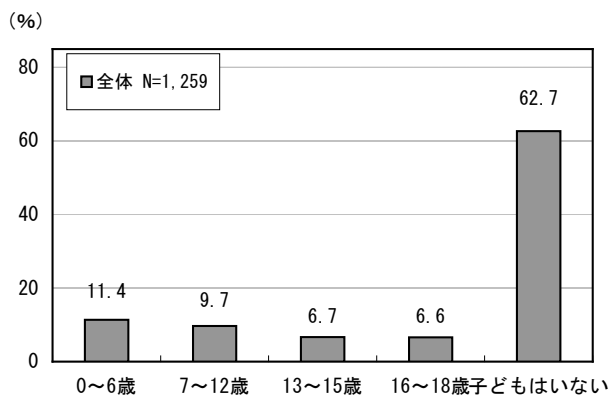
問4 あなたの同居家族は何人ですか（あてはまるものすべてに○）
 ・同居家族は、配偶者が53.5%、子どもが41.1%いる。父母との同居は22.8%である。

【 全 体 】



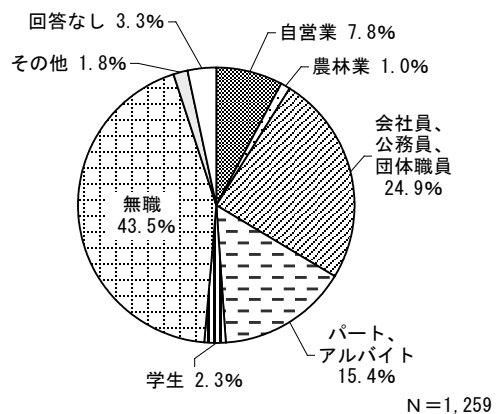
問5 あなたの同居家族には18歳以下のお子さんがいますか（あてはまるものすべてに○）
 ・18歳以下の子どもがいるのは34.4%で、いないのが62.7%である。子どもは、0～6歳が最も多い。

【 全 体 】



問6 あなたのご職業は何ですか。複数のご職業をお持ちの方は、主なものに○をつけて下さい（1つに○）
 ・「無職」が、43.5%で最も多く、次いで、「会社員、公務員、団体職員」で24.9%である。回答者の年齢が反映していると推察される。

【 全 体 】

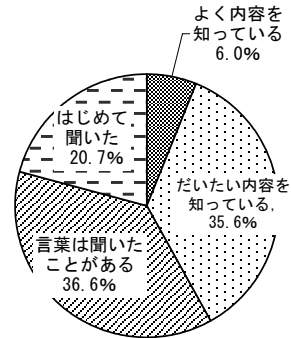


2. 食育について

問7 あなたは、「食育」という言葉やその意味を知っていましたか（1つに○）

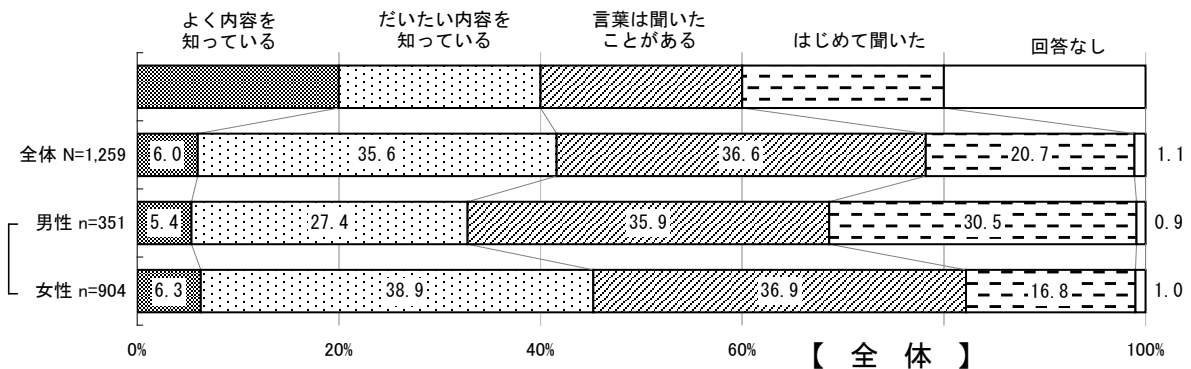
- ・「よく内容を知っている」、「言葉は聞いたことがある」、「だいたい内容を知っている」を合わせると78.2%が食育の言葉を耳にしている。
- ・性別にみると、女性の方が言葉を知っており、「はじめて聞いた」の回答は16.8%と男性の約半数である。

【 全体 】



N=1,259

【 全体・性別 】

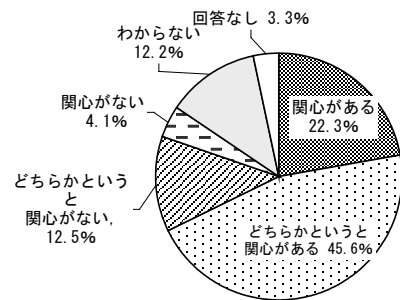


【 全体 】

問8 あなたは、「食育」に関心がありますか

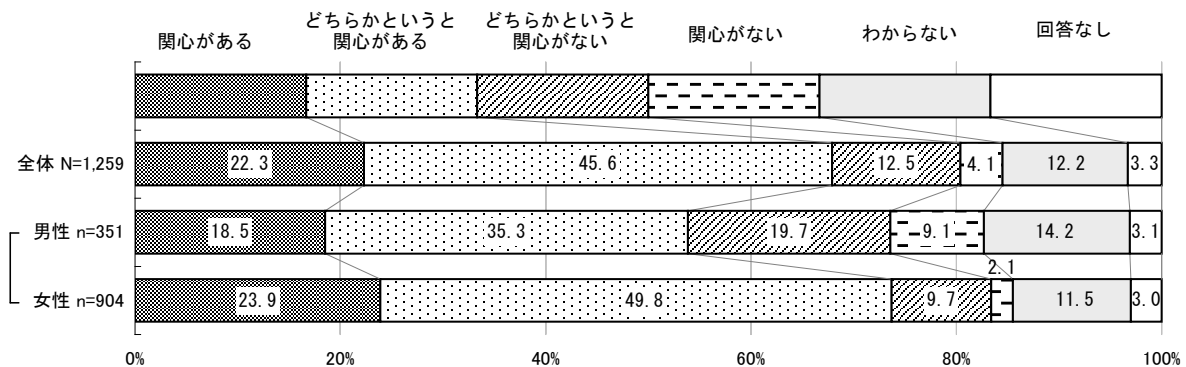
（1つに○）

- ・「どちらかというに関心がある」が、45.6%と多く、「関心がある」の22.3%を加えて、67.9%の人が食育に関心がある。
- ・性別にみると、女性の方が関心が高く、「どちらかというに関心がある」と「関心がある」を合せて、73.7%の人が関心があり、男性の53.8%より、19.9%ポイントが高い。



N=1,259

【 全体・性別 】

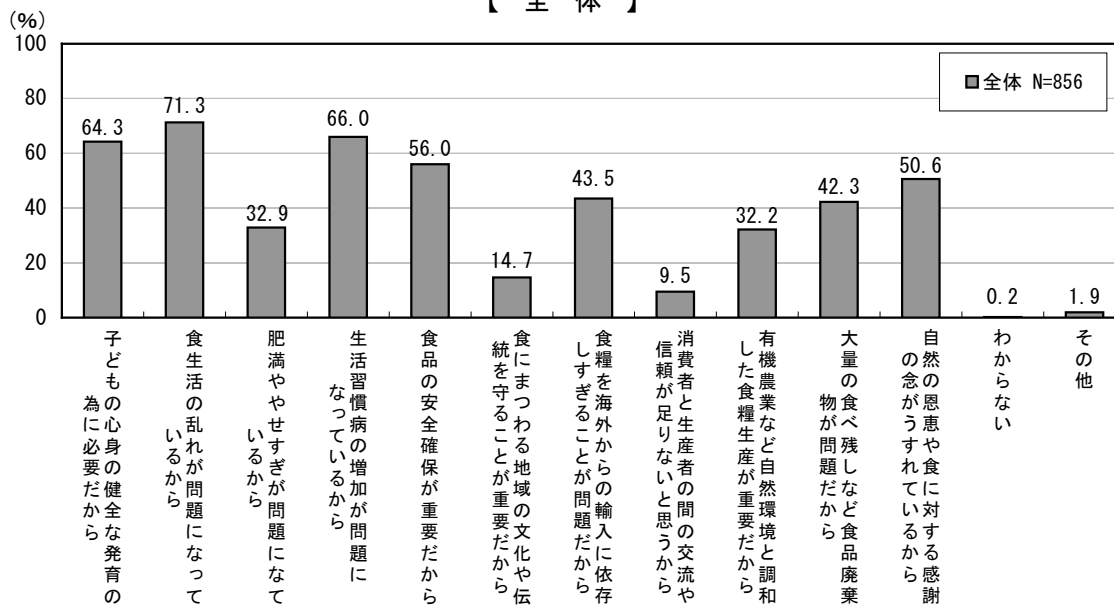


《問8で「1. 関心がある」「2. どちらかというに関心がある」と答えた方におたずねします》

問8-1 あなたが食育に関心がある理由は何ですか（あてはまるものすべてに○）

・食育に関心がある理由は、「食生活の乱れが問題になっているから」が71.3%と最も多く、次いで、「生活習慣病の増加が問題になっているから」（66.0%）、「子どもの心身の健全な発育の為に必要だから」（64.3%）が多い。

【 全 体 】

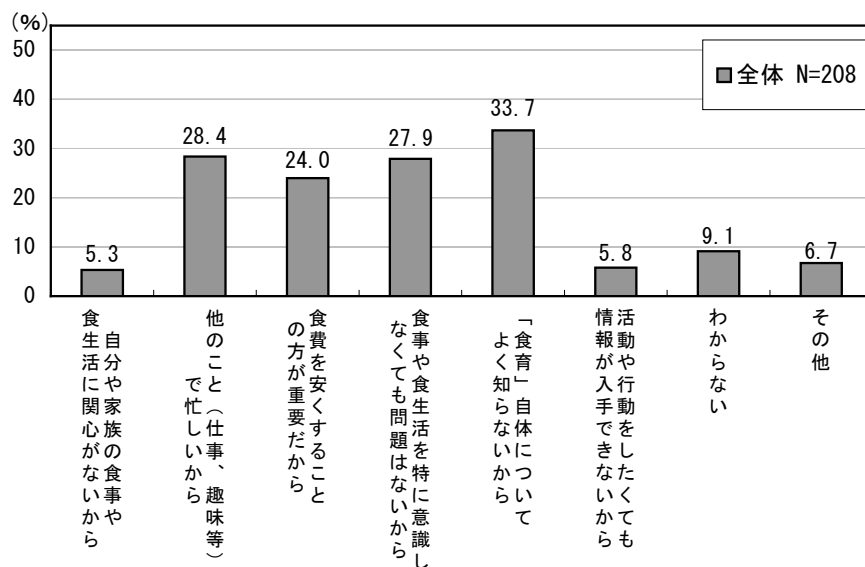


《問8で「3. どちらかというに関心がない」「4. 関心がない」と答えた方におたずねします》

問8-2 あなたが食育に関心がない理由は何ですか（あてはまるものすべてに○）

・食育に関心がない理由は、「食育」自体についてよく知らないから」が33.7%と最も多く、次いで「他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから」（28.4%）、「食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから」（27.9%）が多い。

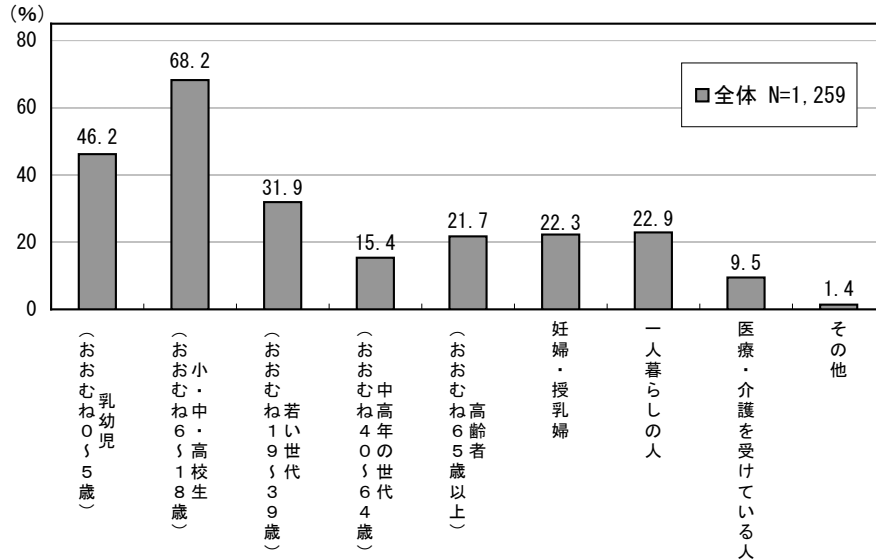
【 全 体 】



問9 あなたは、「食育」をすすめる上で、どのような対象者について取り組むことが大切だと思いますか。特に大切だと思う対象者を選んでください（〇は3つまで）

・対象者は、「小・中・高校生」が最も多く、68.2%の人があげている。次いで、「乳幼児」（46.2%）が多く、成人は、9.5%前後から22.9%までである。

【 全体 】

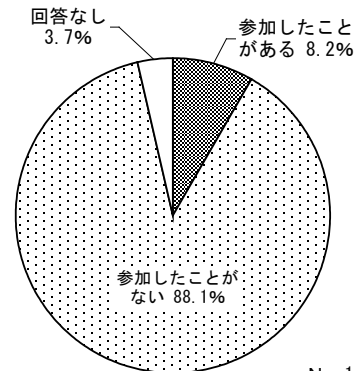


【 全体 】

問10 あなたは、公民館や保健センターなどが行う「食育」に関する事業に参加したことがありますか

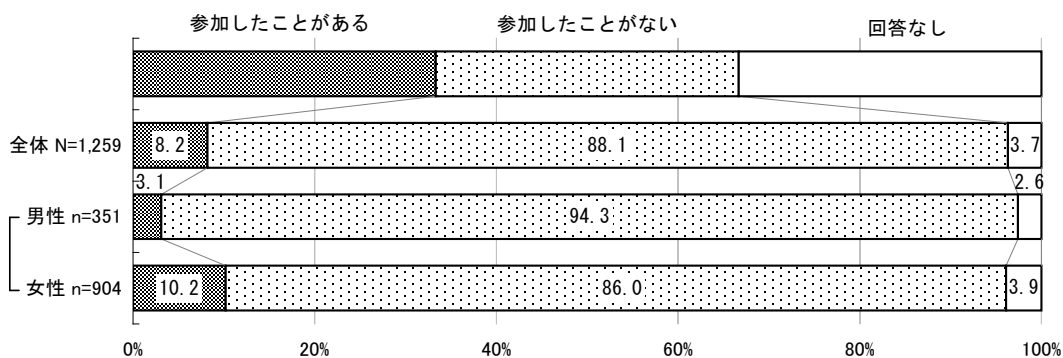
・「参加したことがない」が88.1%と9割近い人が参加したことがない。「参加したことがある」のは8.2%である。

・性別では、「参加したことがある」のは女性が10.2%で、男性は3.1%で差は少ない。



N = 1,259

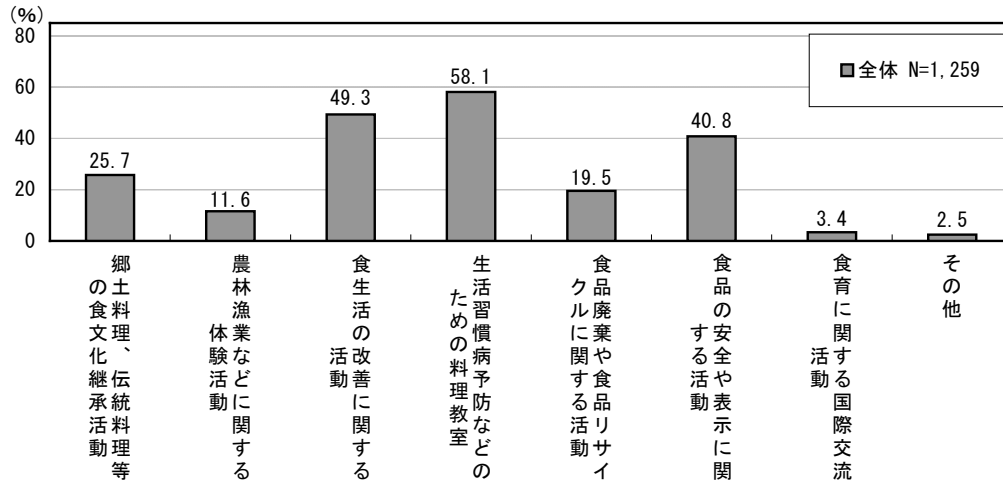
【 全体・性別 】



問11 あなたが「食育」の取り組みとして実践するとしたら何に関心がありますか（〇は3つまで）

・「生活習慣病予防などのための料理教室」が58.1%と最も多く、次いで、「食生活の改善に関する活動」（49.3%）、「食品の安全や表示に関する活動」（40.8%）が多い。

【 全 体 】



3. 食生活について

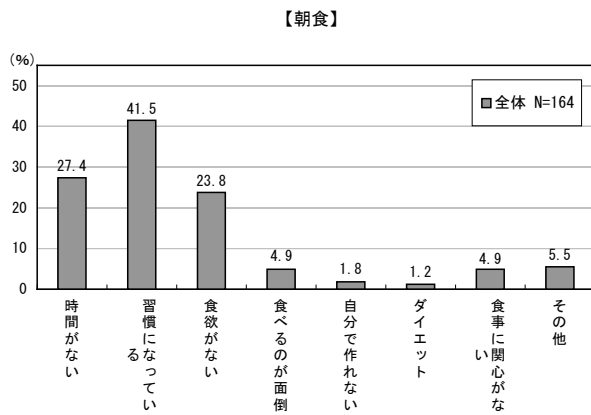
問12 あなたの平日の食事をお聞きします（朝食、昼食、夕食について、あてはまるものすべてに○）

- ・朝食は、「必ず食べる」が69.9%で、7割の人が食べている。一方で「食べない」人が4.5%いる。昼食を「食べない」人は、0.9%で少ない。
- ・食べない理由は、朝食は、「習慣になっている」が41.5%と最も多く、次いで「時間がない」が27.4%である。昼食も、「習慣になっている」が最も多い。夕食は、「食欲がない」が28.6%と最も多い。
- ・食事時間は、一定であるか朝食、昼食、夕食とも70%台である。
- ・食事をつくるのは、朝食、夕食で「自分」が66.1%である。次いで家族であり、夕食は31.4%の人が「家族」につくってもらっている。外食は、昼食が最も多いが、9.5%にとどまり、購入の方が14.4%と多い。
- ・つくる人を性別でみると、朝食は女性の80.2%が自分でつくり、男性は、29.6%、夕食は女性が82.0%、男性が24.8%であり、女性が食事をつくる割合が高い。
- ・食事を「一人で」食べる人が、朝食で、34.9%、昼食で36.9%、夕食で21.0%いる。
- ・楽しく食事ができている人は、夕食で74.5%と多いが、できていない人が、2.7%いる。
- ・食事の準備時間は、朝食は「10分～30分」が、45.1%で最も多く、ついで「10分以内」で31.7%、昼食も朝食と同様な傾向にあり、夕食は、「30分～1時間」が45.4%と、最も多い。

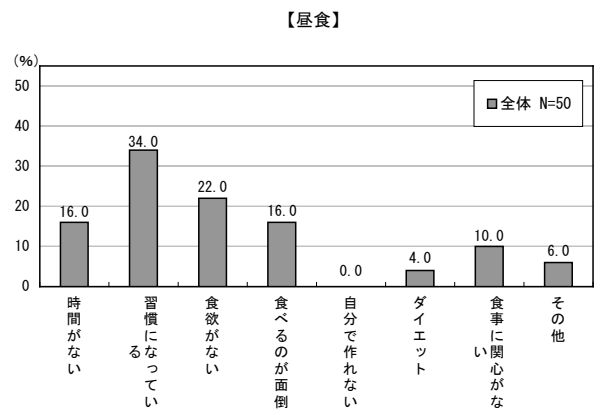
単位 (%)

	朝 食		昼 食		夕 食	
食べていますか	1. 必ず食べる	69.9	1. 必ず食べる	78.5	1. 必ず食べる	88.2
	2. たいてい食べる	16.1	2. たいてい食べる	16.5	2. たいてい食べる	9.6
	3. 食べないことが多い	8.5	3. 食べないことが多い	3.1	3. 食べないことが多い	1.0
	4. 食べない	4.5	4. 食べない	0.9	4. 食べない	0.1
	無回答	1.0	無回答	1.0	無回答	1.1
食事時間は一定ですか	1. はい	77.0	1. はい	73.6	1. はい	73.8
	2. いいえ	17.6	2. いいえ	23.4	2. いいえ	24.1
	無回答	5.4	無回答	3.0	無回答	2.1
誰が作りますか	1. 自分	66.1	1. 自分	59.8	1. 自分	66.1
	2. 家族	24.0	2. 家族	19.4	2. 家族	31.4
	3. 購入	4.1	3. 購入	14.4	3. 購入	6.7
	4. 外食	0.5	4. 外食	9.5	4. 外食	6.7
	5. その他	3.6	5. その他	7.5	5. その他	3.3
誰と食べますか	1. 家族	56.6	1. 家族	34.6	1. 家族	74.7
	2. 友人	0.9	2. 友人	9.8	2. 友人	4.2
	3. 一人で	34.9	3. 一人で	36.9	3. 一人で	21.0
	4. その他	2.9	4. その他	21.8	4. その他	3.3
楽しく食事ができていますか	1. はい	59.1	1. はい	63.3	1. はい	74.5
	2. いいえ	4.8	2. いいえ	4.2	2. いいえ	2.7
	3. どちらでもない	28.6	3. どちらでもない	28.1	3. どちらでもない	19.1
	無回答	7.5	無回答	4.4	無回答	3.7

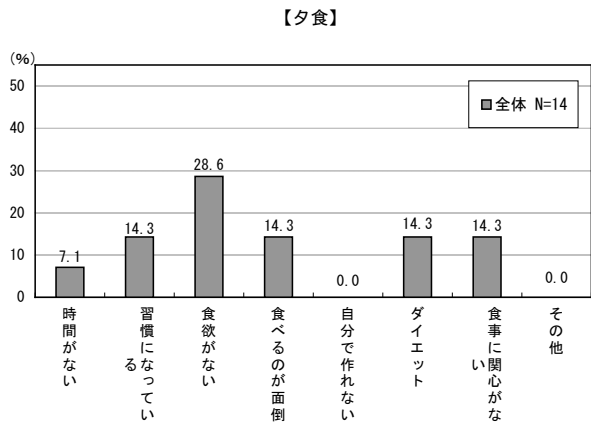
■ 食べない理由（朝食）



■ 食べない理由（昼食）



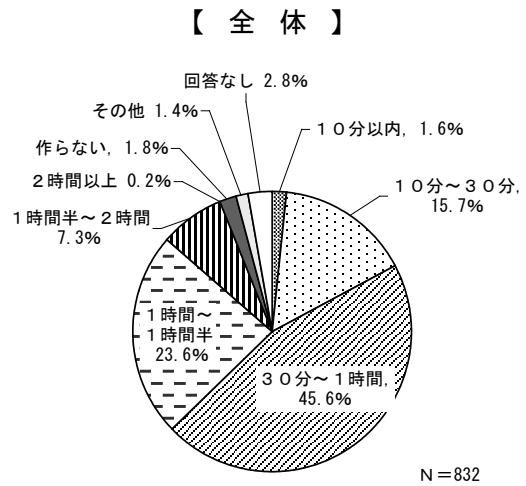
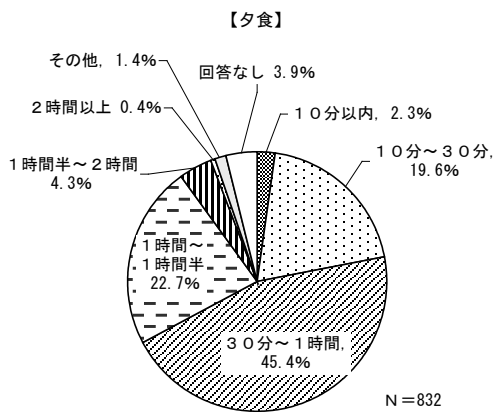
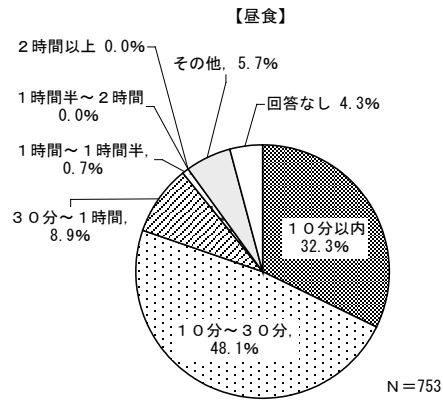
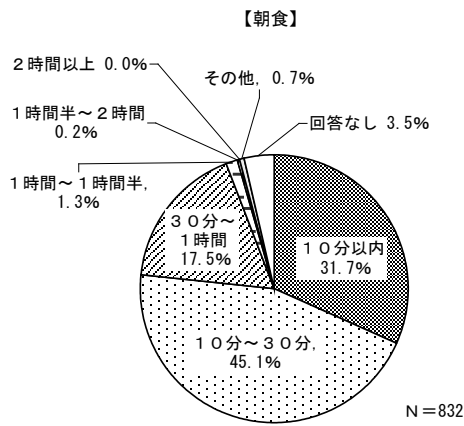
■ 食べない理由（夕食）



■ 誰が作りますか

構成比 (%)		サンプル数 (人)	1. 自分	2. 家族	3. 購入	4. 外食	5. その他	
朝食	合計	(人) 1,259	832	302	52	6	45	
		(%) -	66.1	24.0	4.1	0.5	3.6	
	性別	男性	351	29.6	50.7	7.4	1.4	6.3
		女性	904	80.2	13.7	2.9	0.1	2.5
	回答なし	4	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
昼食	合計	(人) 1,259	753	244	181	120	94	
		(%) -	59.8	19.4	14.4	9.5	7.5	
	性別	男性	351	20.8	41.3	18.8	18.5	10.5
		女性	904	74.9	11.0	12.7	6.0	6.3
	回答なし	4	75.0	0.0	0.0	25.0	0.0	
夕食	合計	(人) 1,259	832	395	84	84	42	
		(%) -	66.1	31.4	6.7	6.7	3.3	
	性別	男性	351	24.8	62.7	9.1	10.8	4.8
		女性	904	82.0	19.4	5.8	5.1	2.8
	回答なし	4	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

■ 食事の準備時間はどれくらいですか

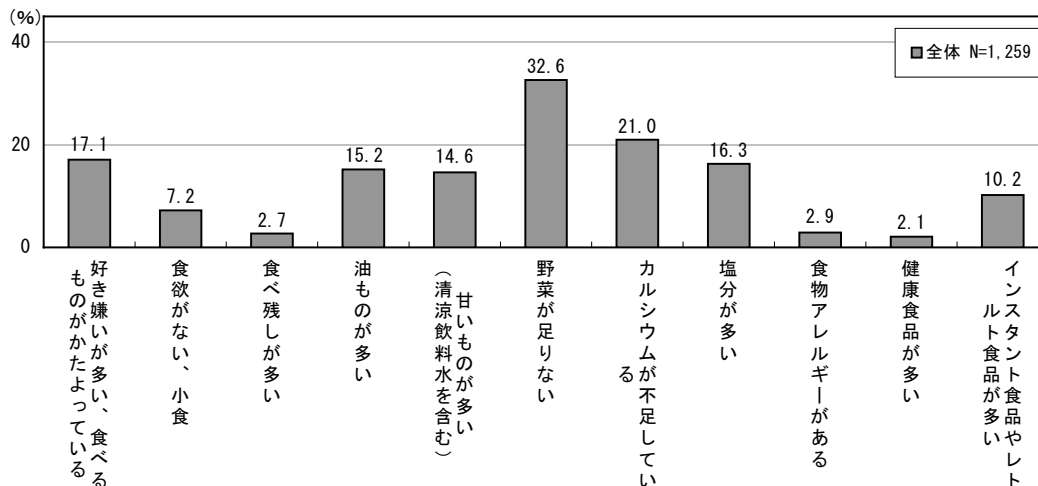


《問 12 で夕食を自分で作ると答えた人におたずねします》
 問 12-1 休日の夕食の準備時間はどれくらいですか（1つに〇）
 ・休日の夕食の準備時間は「30分～1時間」が45.6%と最も多い。次いで、「1時間～1時間半」で23.6%である。

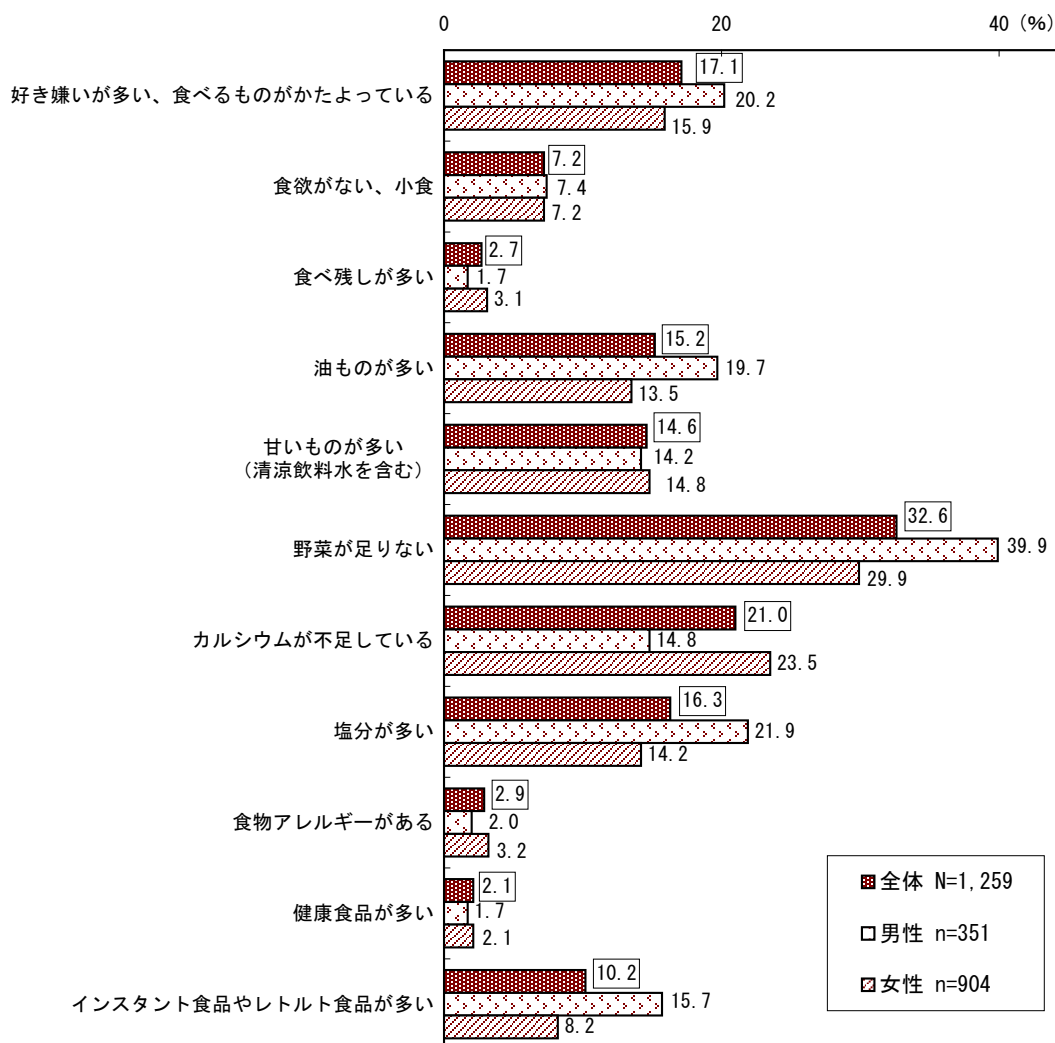
問13 あなたは、自分自身の食生活で気になることはありますか（あてはまるものすべてに○）

- ・食生活で気になることは、「野菜が足りない」が32.6%と最も多い。次いで、「カルシウムが不足している」が21.0%、「好き嫌いが多く、食べるものがかたよっている」が17.1%と多い。
- ・性別では、「野菜が足りない」、「塩分が多い」、「好き嫌いが多く、食べるものがかたよっている」は男性の方が多く、「カルシウムが不足している」は女性の方が多い。

【 全 体 】

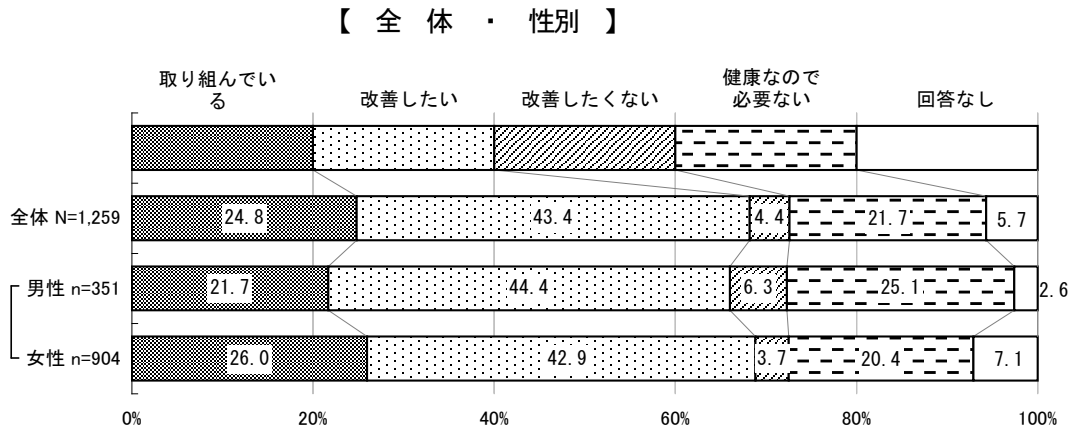
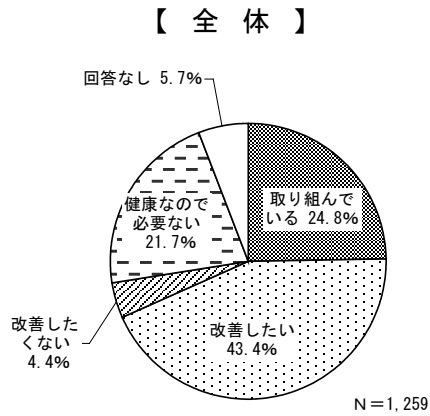


【 全 体 】



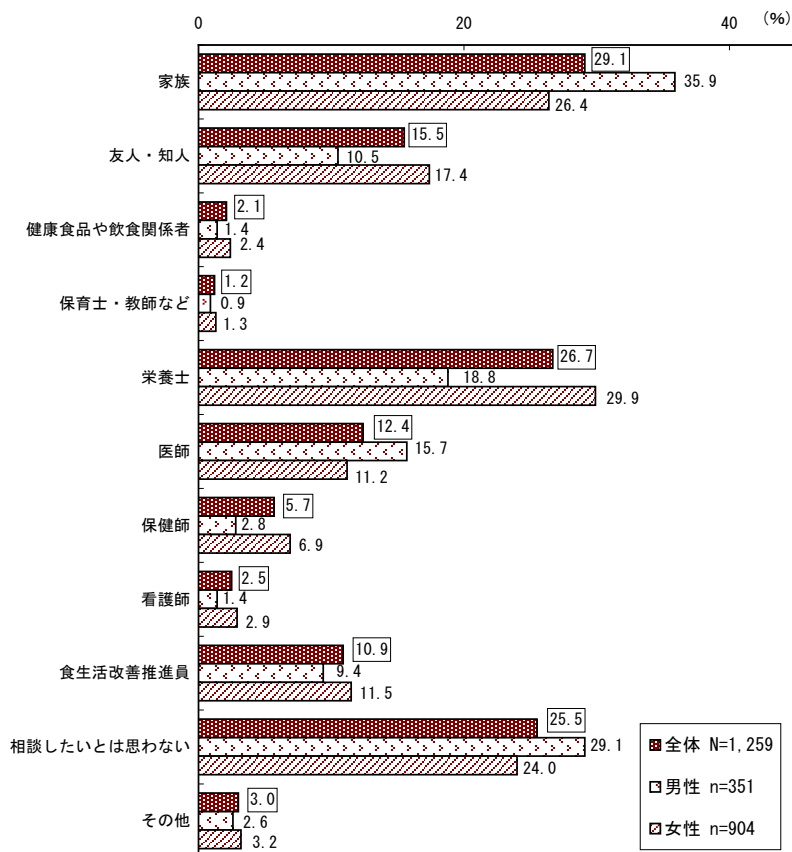
問14 あなたは、食生活を改善したいと思いますか（1つに○）

- ・食生活を「改善したい」が43.4%と最も多く、次いで、「取り組んでいる」が24.8%と多い。
- ・性別では、「改善したい」、「取り組んでいる」とも女性の方が多い。



問15 あなたは、自分や家族の食生活について、誰に相談したいですか（あてはまるものすべてに○）

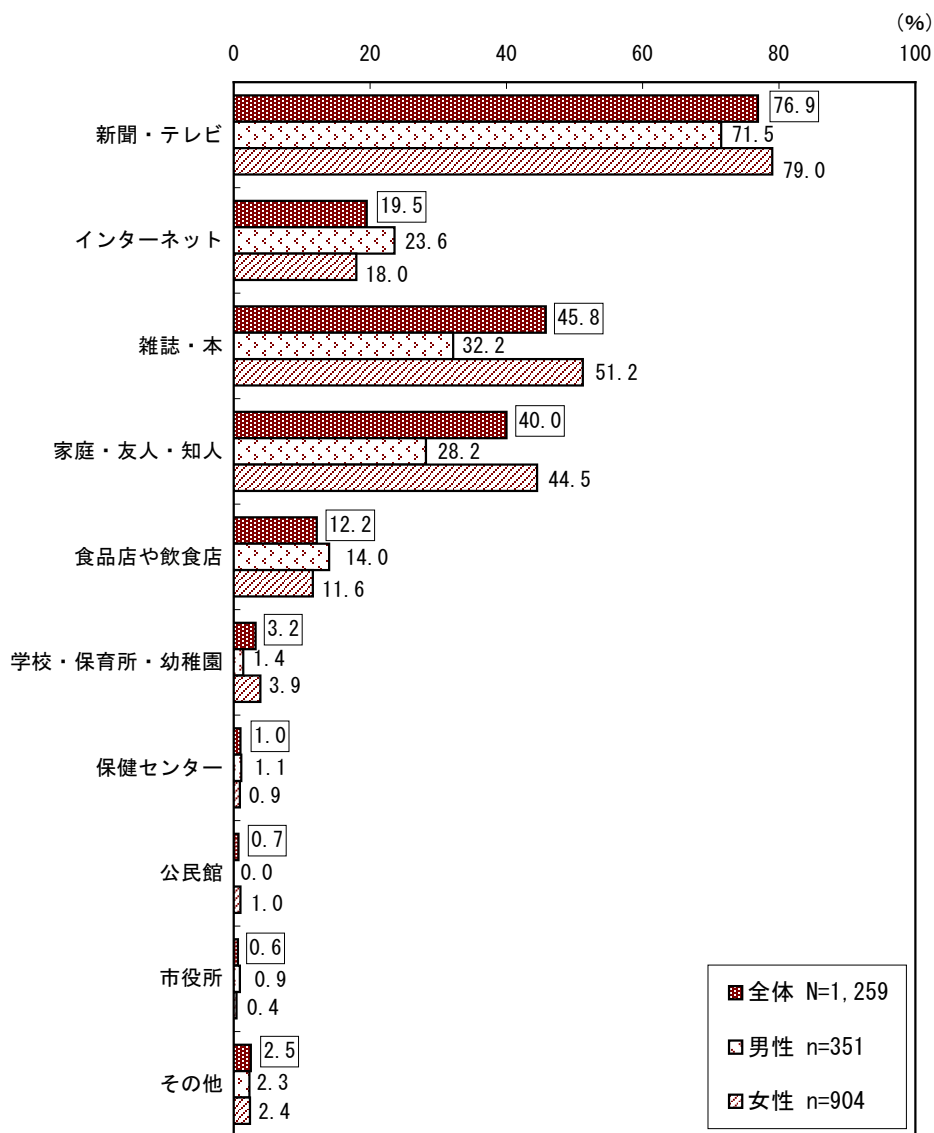
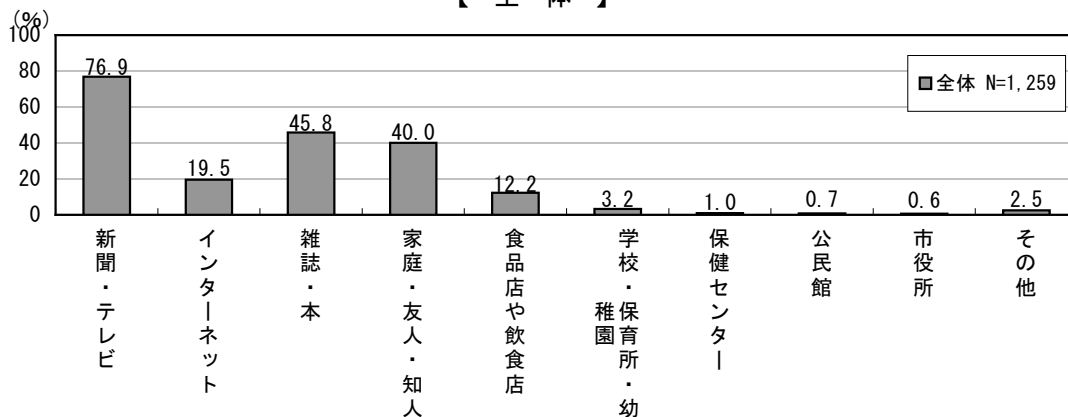
- ・相談したい人は、「家族」29.1%、「栄養士」26.7%と多いが、「相談したいと思わない」が25.5%いる。
- ・性別では「家族」が男性に多く、「栄養士」は女性に多い。「相談したいと思わない」は、男性の方が多い。



問16 あなたは、普段食に関する情報をどこから得ていますか（あてはまるものすべてに○）

・情報は、「新聞・テレビ」が76.9%と最も多く、次いで、「雑誌・本」45.8%、「家庭・友人・知人」は40.0%と、マスコミからの情報が多い。一方で、「保健センター」等の公的機関は1.0%程度と低い。

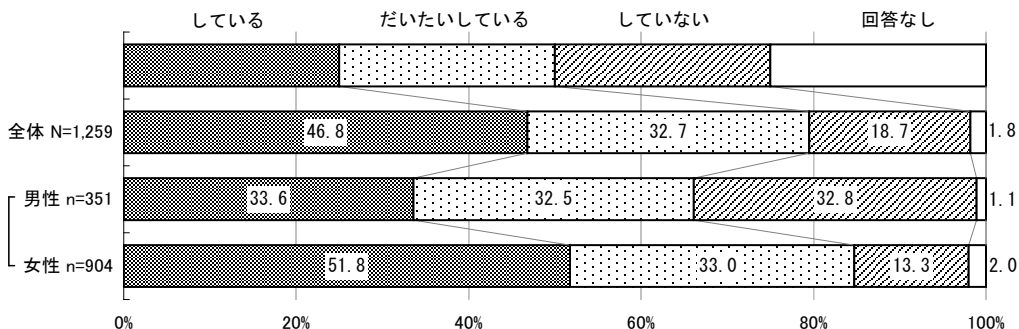
【 全体 】



問17 あなたは、食事の際に「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをしていますか（1つに○）

- ・食事のあいさつは、「している」が46.8%、「だいたいしている」が32.7%で、合わせて79.5%がしている。「していない」のは、18.7%である。
- ・性別では、女性の方が多く食事のあいさつをしており、男性は32.8%の人が「していない」のに対し、女性は13.3%と少ない。

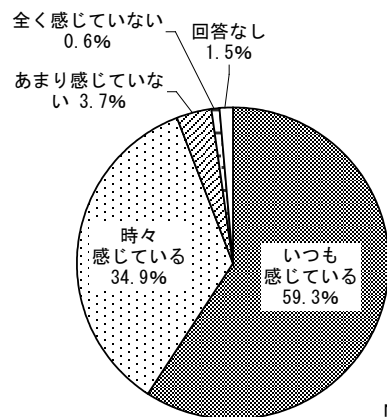
【 全 体 】



問18 あなたは、食品産業や家庭において食べ残しや食品の廃棄が発生していることに関して、日頃から「もったいない」と感じることがありますか（1つに○）

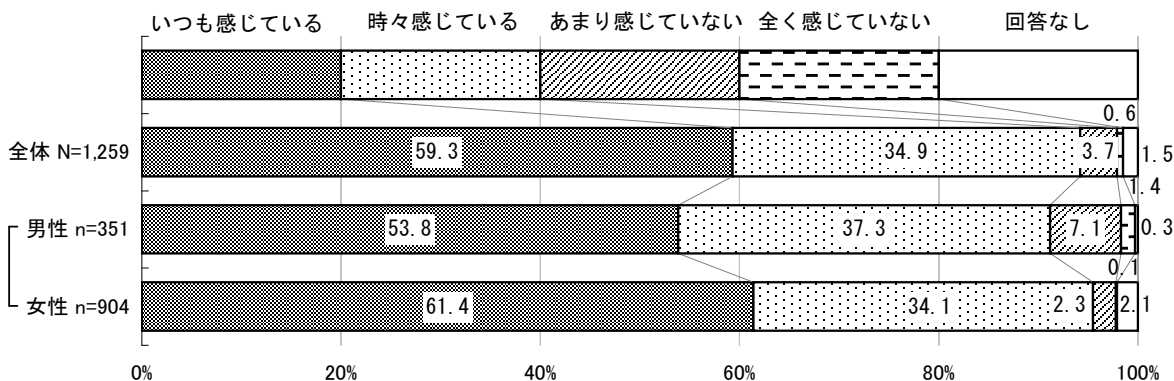
- ・もったいないと「いつも感じている」のは、59.3%、「時々感じている」のは、34.9%である。合わせて94.2%の人がもったいないと感じている。
- ・性別では、女性が合わせて95.5%の人が感じているのに対し、男性は、91.1%と若干少なく、女性の方がもったいないと感じている。

【 全 体 】



N=1,259

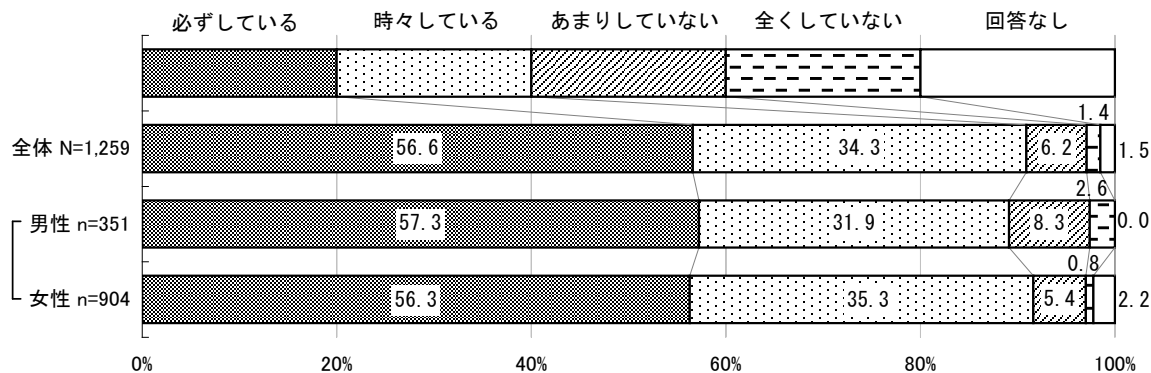
【 全 体 ・ 性 別 】



問19 あなたは、食べ残しを減らす努力をしていますか（1つに〇）

- ・食べ残しを減らす努力を「必ずしている」人は、56.6%「時々している」のは、34.3%と90.9%の人がしている。
- ・性別では、「必ずしている」人は男性の方が57.3%で、「時々している」を合わせると、89.2であるが女性は91.6%で、若干女性が多い。

【 全 体 ・ 性 別 】

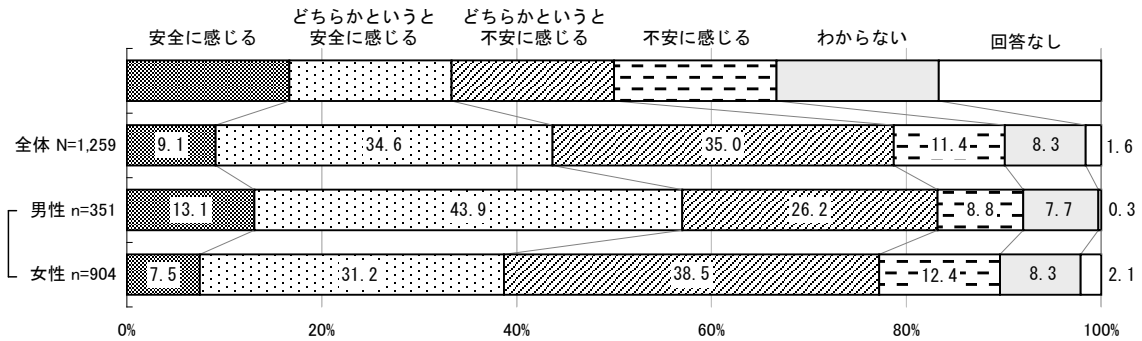


4. 食の安全・安心について

問20 あなたは、「食の安全性」についてどのように感じていますか（1つに○）

- ・「不安を感じる」は11.4%で、「どちらかという不安を感じる」の35.0%を合わせると46.4%である。
- ・性別でみると、女性は「不安を感じる」（12.4%）、「どちらかという不安を感じる」（38.5%）を合わせると50.9%であり、男性の35.0%より不安を感じていることがわかる。

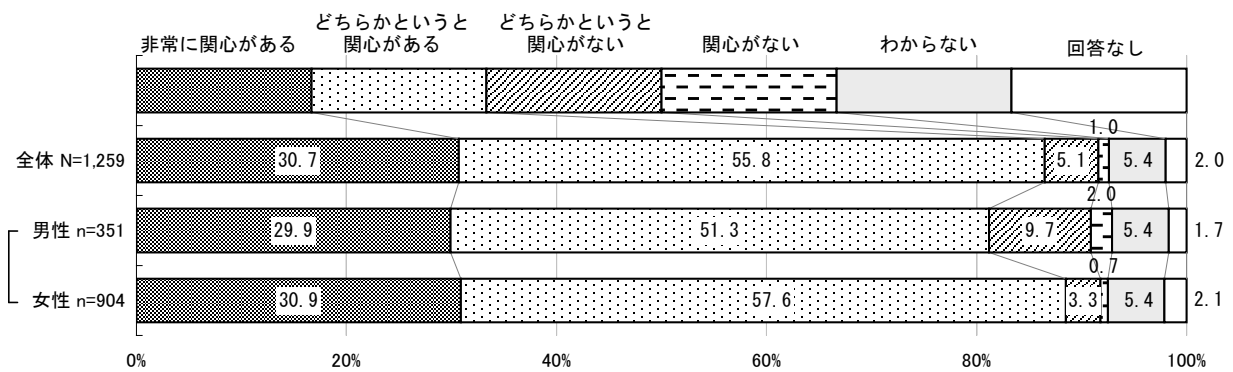
【全体・性別】



問21 あなたは、「食の安全性」について関心がありますか（1つに○）

- ・「非常に関心がある」が30.7%。「どちらかという関心がある」が55.8%で、合せて86.5%で関心は高い。
- ・性別では、女性が「非常に関心がある」、「どちらかという関心がある」を合せて、88.5%で、男性の81.2%より関心がある人が多い。

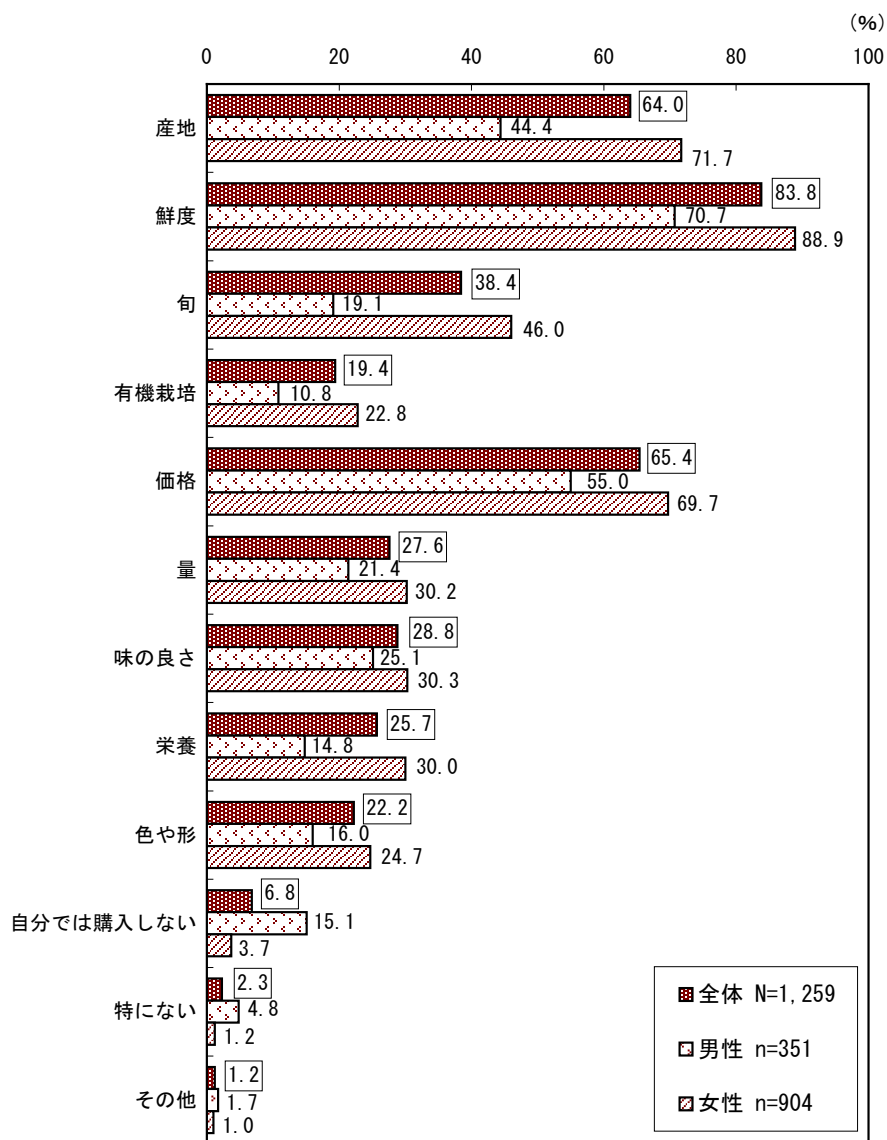
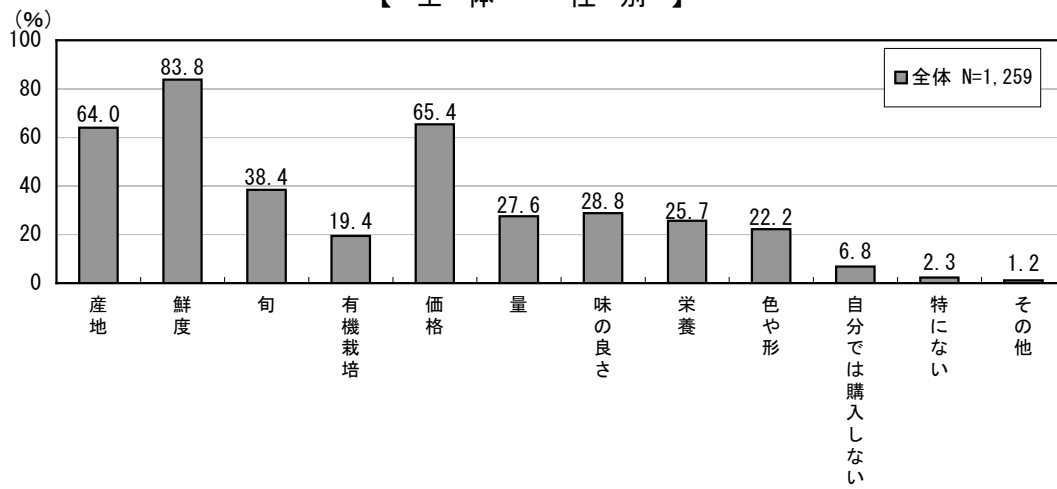
【全体・性別】



問22 あなたは、野菜や肉・魚などの食材を購入するときに気をつけていることはありますか（あてはまるものすべてに○）

- ・気をつけていることは、「鮮度」（83.8%）、「価格」（65.4%）、「産地」（64.0%）の順で多い。
- ・性別でみると、気をつけている全ての事項について、女性の方が多い。

【全体・性別】

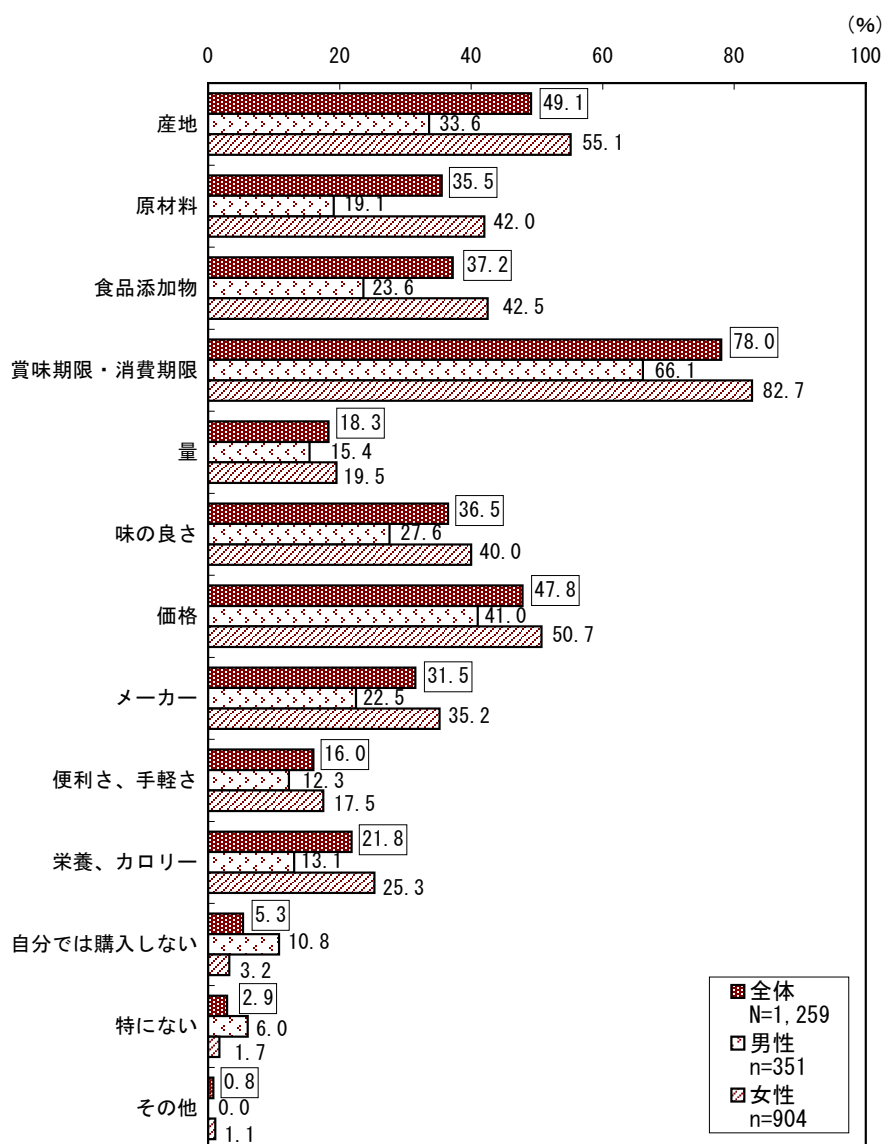
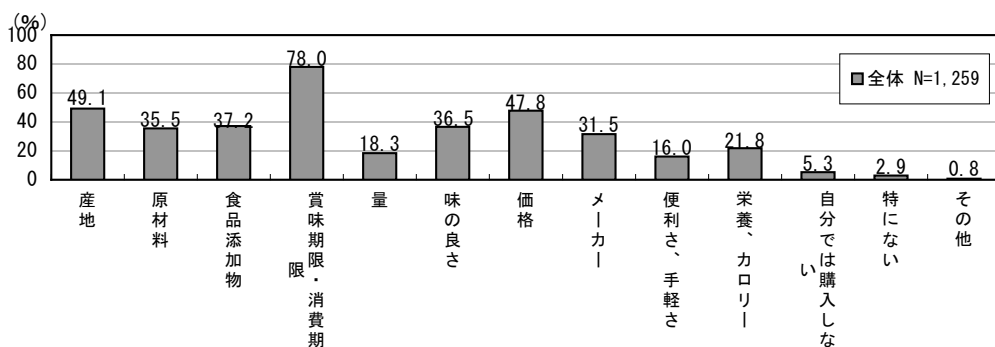


問23 あなたは、牛乳やハム、パンや麺、冷凍食品やレトルト食品などの加工食品を購入するときに気をつけていることはありますか（あてはまるものすべてに○）

・「賞味期限・消費期限」について78.0%の人が気をつけている。次いで、「産地」(49.1%)、「価格」(47.8%)である。

・性別では、全ての事項について、女性の方が気をつけている。

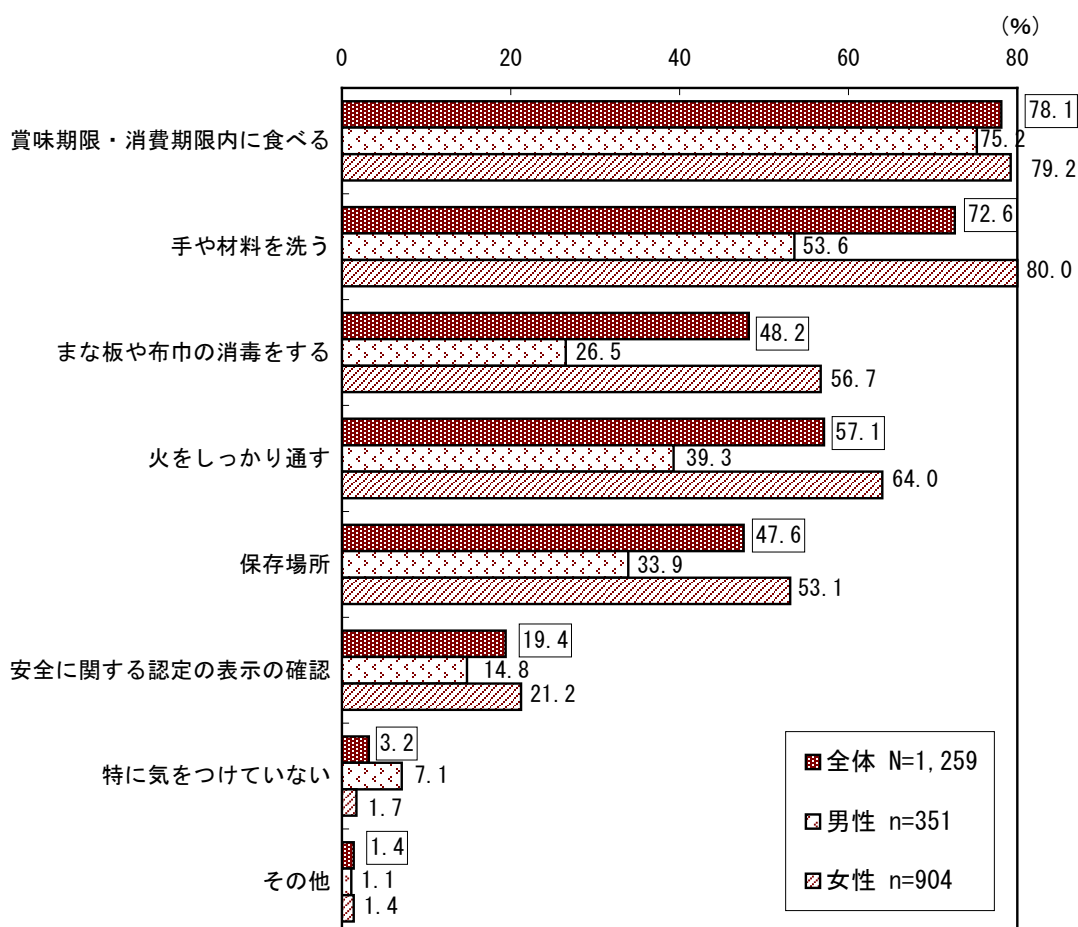
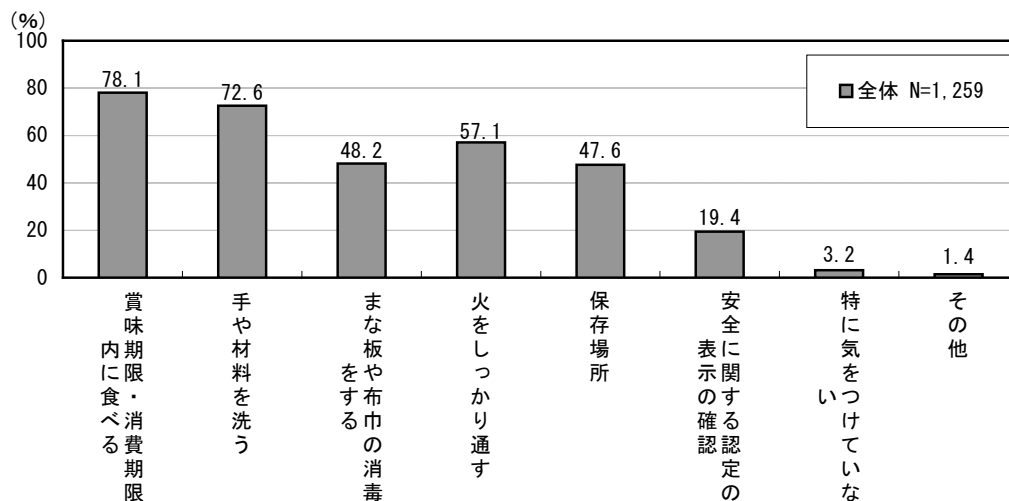
【全体・性別】



問24 あなたは、食の安全に関して気をつけていることがありますか（あてはまるものすべてに○）

- ・「賞味期限・消費期限内に食べる」（78.1%）、「手や材料を洗う」（72.6%）、「火をしっかりと通す」（57.1%）の順が多い。
- ・性別では、女性の方が気にしており、「賞味期限・消費期限内に食べる」が男女の差は少ないが、他の事項は、女性と男性のポイントの差が大きい。

【 全 体 ・ 性 別 】

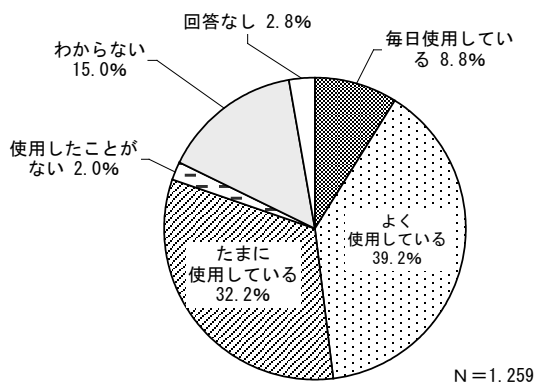


5. 地産地消について

問25 あなたの家庭では、地元でとれた農畜産物を使用していますか（1つに○）

- ・「毎日使用している」、「よく使用している」、「たまに使用している」を合わせると、80.2%が使用している。
- 一方で、「わからない」が15.0%あり、使用しているかどうか自覚がない人がいる。

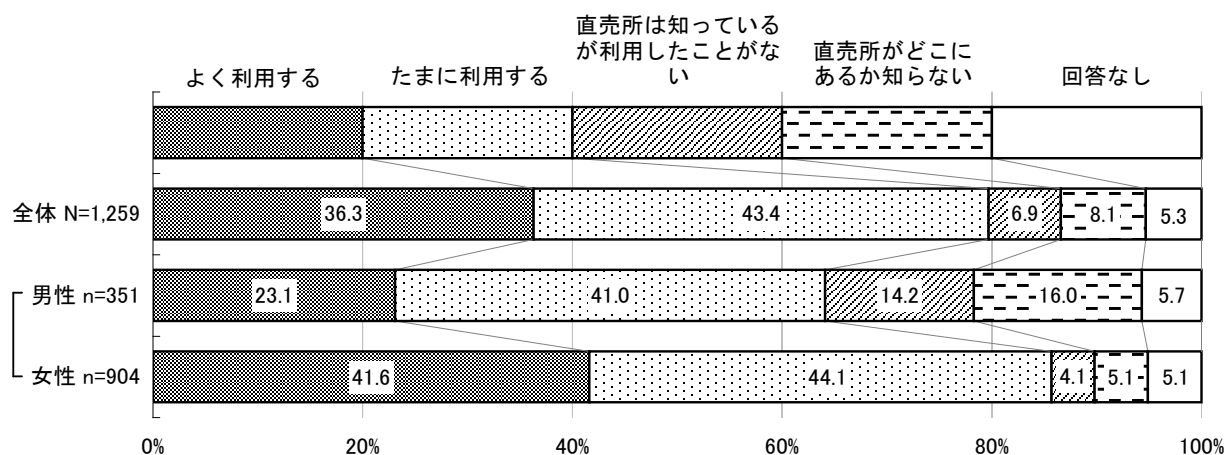
【 全 体 ・ 性 別 】



問26 あなたは、市内の農畜産物直売所（スーパー内産直コーナーを含む）を利用していますか（1つに○）

- ・「よく利用する」（36.3%）、「たまに利用する」（43.4%）で利用する人が、合せて 79.7%おり、利用されている状況にある。
- ・性別では、「よく利用する」が女性が 41.6%、男性が 23.1%で、買物の機会が多い女性の方がよく利用している。

【 全 体 ・ 性 別 】

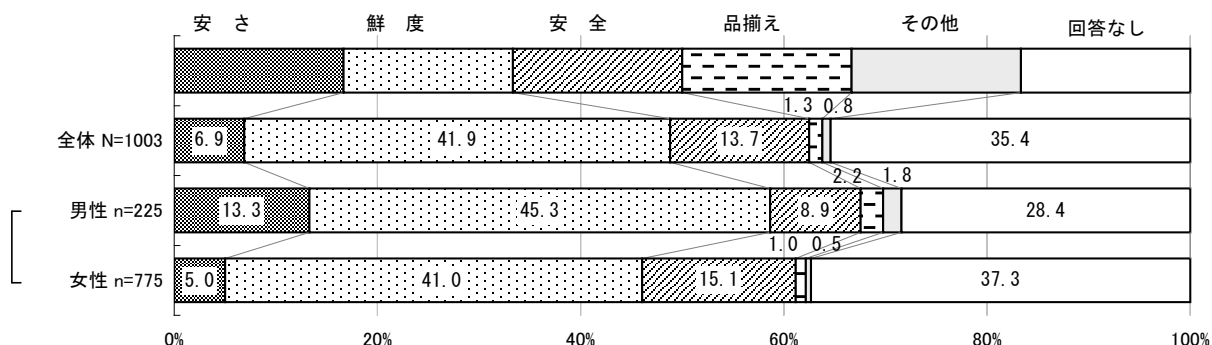


《問26で「1. よく利用する」「2. たまに利用する」と答えた人におたずねします》

問26-1 あなたが農産物直売所等を利用している理由はなんですか（1つに○）

- ・利用している理由は、「鮮度」が41.9%と最も多く、次いで「安全」の13.7%である。「品揃え」は、1.3%と低い。
- ・性別でみると、「安全」は、女性が15.1%、男性が8.9%、「鮮度」は女性が41.0%、男性が45.3%となっており、女性は「安全」、男性は「鮮度」を理由としている人が多いことがわかる。

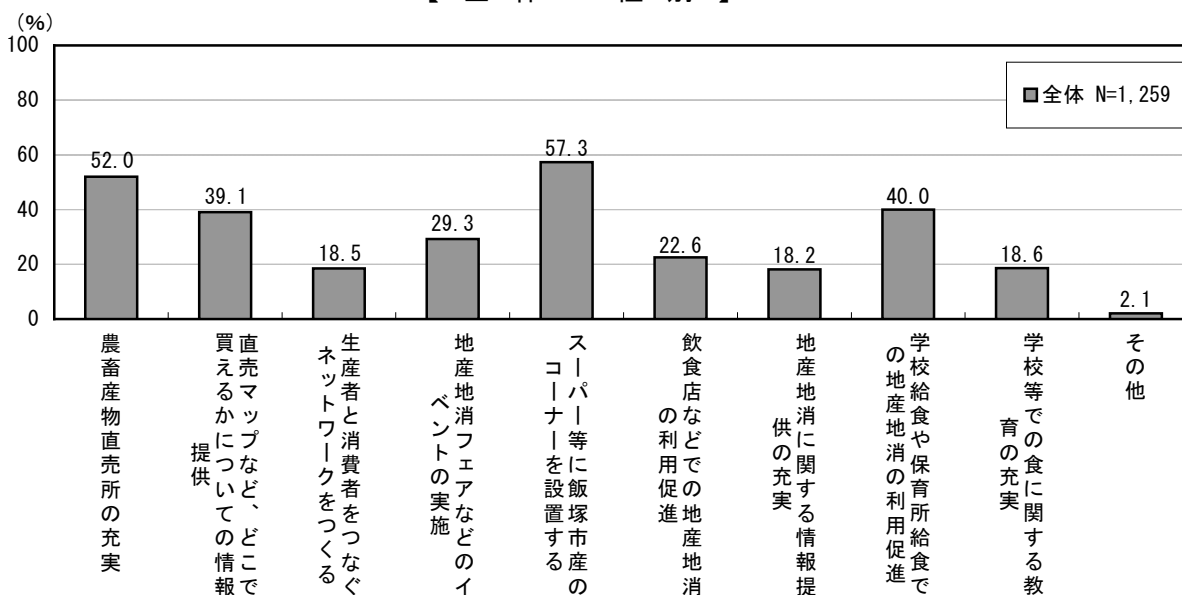
【 全 体 ・ 性 別 】



問27 あなたは、地産地消を推進のためにどのような方策が効果的だと思いますか（あてはまるものすべてに○）

- ・「スーパー等に飯塚市産のコーナーを設置する」が57.3%、「農畜産物直売所の充実」が52.0%と販売の機会を拡充することが効果的と考えている人が多い。次いで、「学校給食や保育所給食での地産地消の利用促進」(40.0%)をあげている。

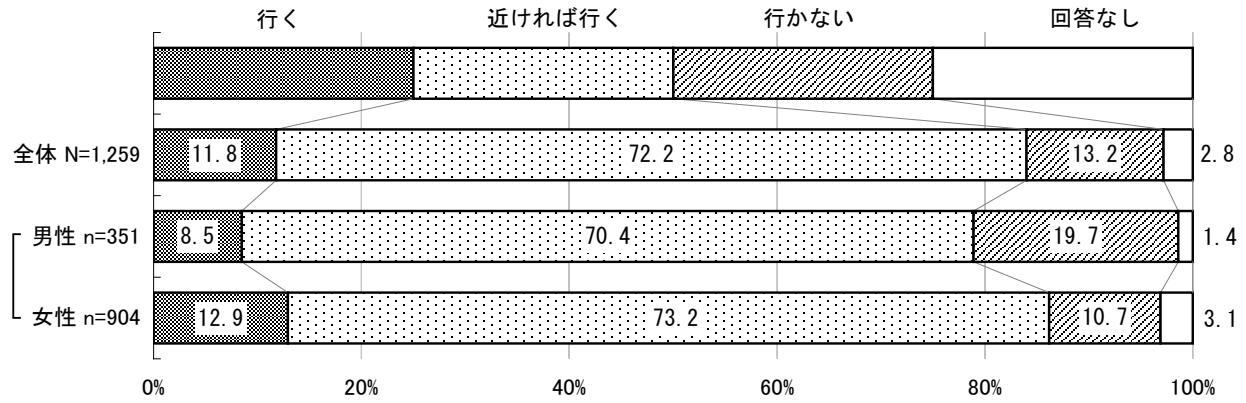
【 全 体 ・ 性 別 】



問28 あなたは、地元農畜産物を紹介するイベントがあったら行こうと思いますか（1つに○）

- ・「行く」人が11.8%、「近ければ行く」が72.2%と合せて84%の人が行く意向にある。
- ・性別では、女性の方が、「行く」（12.9%）、「近ければ行く」（73.2%）で合せて86.1%と男性の78.9%より多い。

【 全 体 ・ 性 別 】

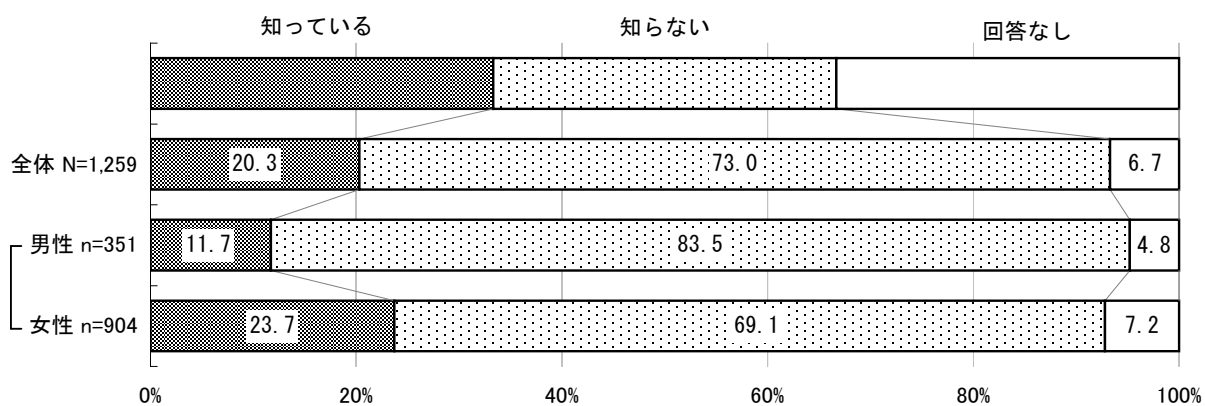


6. 食文化・伝統料理について

問29 あなたは、地元の郷土料理・伝統料理にはどんなものがあるか知っていますか（どちらかに○）

- ・「知っている」が20.3%、「知らない」が73.0%で、知っている人が五分の一程度である。
- ・性別では、「知っている」が男性 11.7%、女性 23.7%と男性は女性の約半数である。

【 全 体 ・ 性 別 】

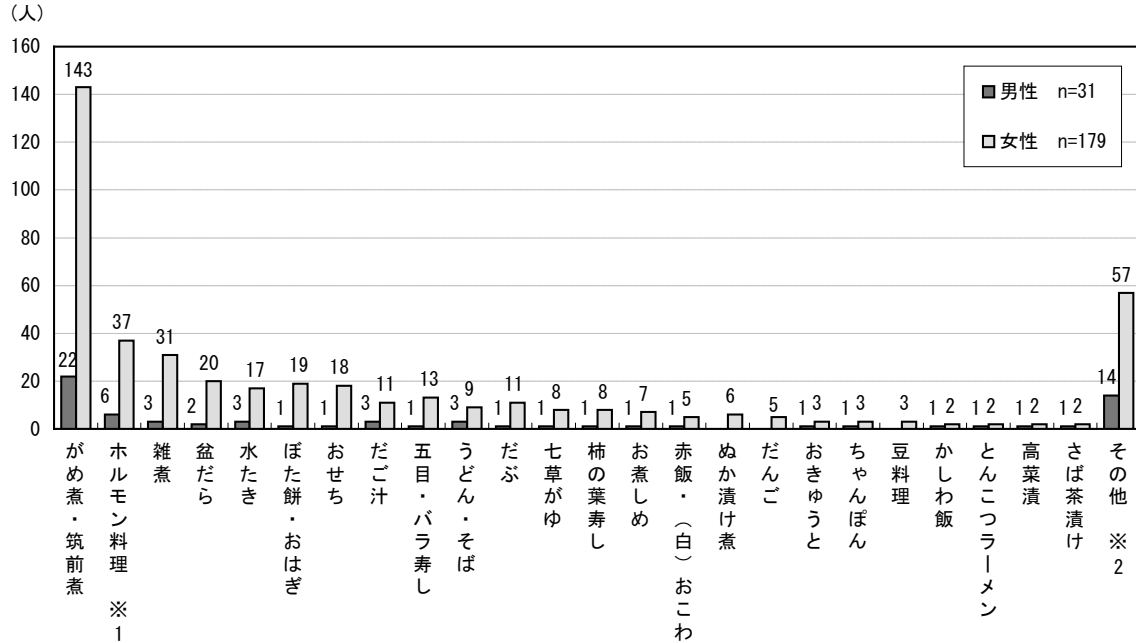


《問29で「知っている」と答えた人におたずねします》

問29-1 地元の郷土料理・伝統料理で知っているものをあげてください。

・最も多いのは、「がめ煮・筑前煮」であり、143人の回答があった。次いで、「ホルモン料理」、「雑煮」である。

知っている地元の郷土料理・伝統料理



※1・もつ鍋、ホルモン焼き、ホルモン煮、トンチン 等

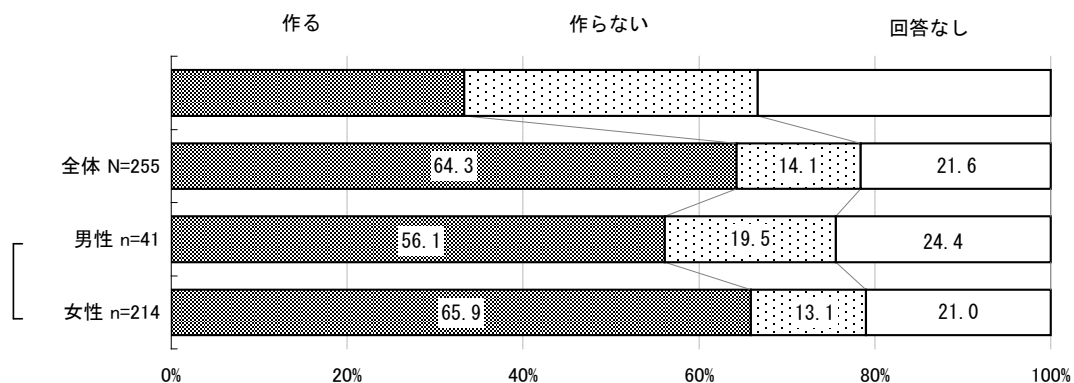
※2・筍料理、かぼちゃ料理、ふきの煮付、いも煮、しらえ、みそ汁・豚汁、かしわもち、甘酒、呉汁、ハマグリ・鯛の吸い物、かしわ雑炊、里芋ごはん、炊き込みご飯、栗ごはん、あじごはん、いなり、巻き寿し、そば寿し、めん類、田舎煮、手羽先の煮物、川魚の干物の甘辛煮、はちくの煮物、切干大根、ずいき(芋の茎)、つくしの卵とじ、おから、ごまめ、酢物、しめサバ、ぬた、青大大根の酒かす漬、らっきょ漬、ぬか漬、白菜漬、梅干し、明太子、渋柿の塩漬、精進料理、鍋料理、おでん、地鶏、うなぎ、くじら料理、さくらもち、ちまき、ぜんざい、梅酒、こうや豆腐の煮付、ポタ山をイメージした料理、かわ草の酢の物(おすいもの)、つとどうふ煮、やせうま、冷汁、がね、チキン南蛮、とり天 等

《問29で「知っている」と答えた人におたずねします》

問29-2 あなたの家庭では、地元の郷土料理・伝統料理を作りますか(どちらかに○)

・「作る」が64.3%と6割程度である。「作る」は男性(56.1%)より女性(65.9%)の方が多い。

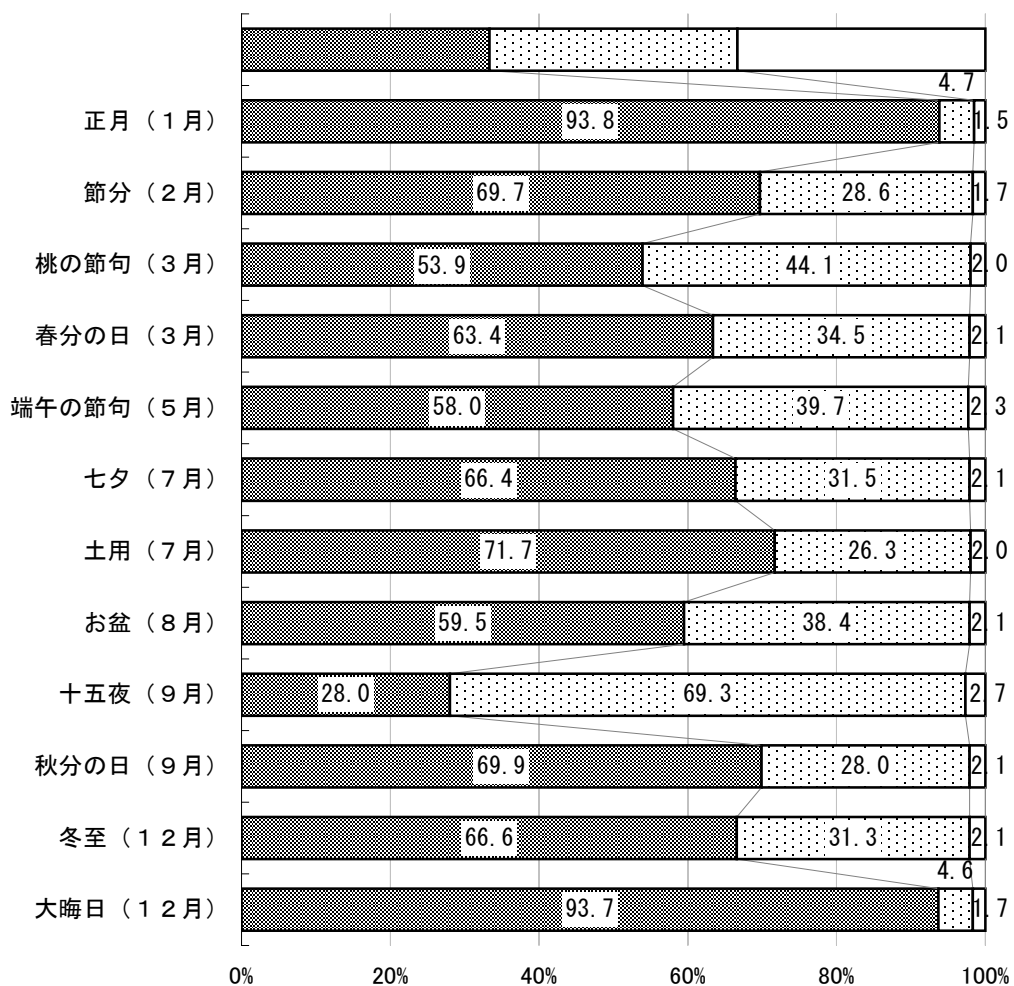
【全体・性別】



問30 あなたの家庭では、次のような日本の伝統的な行事食を食べていますか（それぞれ、どちらかに○）

正月（1月：おせち、おぞうに、七草がゆ等）	・9割の人が食べている。
節分（2月：まめ等）	・7割近くの人が食べている。
桃の節句（3月：ひな菓子、五目すし等）	・5割の人が食べている。
春分の日（3月：ぼたもち等）	・6割の人が食べている。
端午の節句（5月：ちまき、かしわもち等）	・6割近くの人が食べている。
七夕（7月：そうめん等）	・7割近くの人が食べている。
土用（7月：うなぎ等）	・7割の人が食べている。
お盆（8月：盆だら（たらの煮物）、団子等）	・6割近くの人が食べている。
十五夜（9月：月見団子等）	・3割近くの人が食べている。
秋分の日（9月：おはぎ等）	・7割近くの人が食べている。
冬至（12月：かぼちゃ料理等）	・6割の人が食べている。
大晦日（12月：そば等）	・9割の人が食べている。

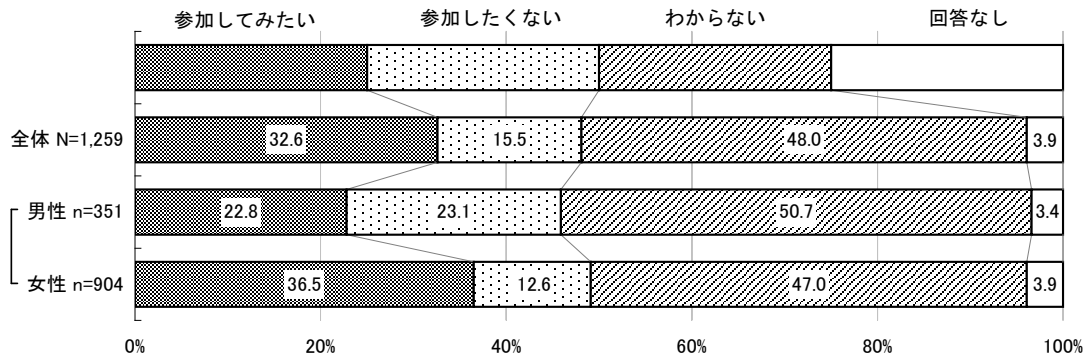
【 全 体 】



問31 あなたは、郷土料理や伝統料理を習う機会があれば参加してみたいと思いますか（1つに○）

- ・「参加してみたい」人が、32.6%で、「参加したくない」が15.5%で、3割の人が参加の意向にある。
- ・「参加してみたい」は、男性（22.8%）より女性（36.5%）の方が多。

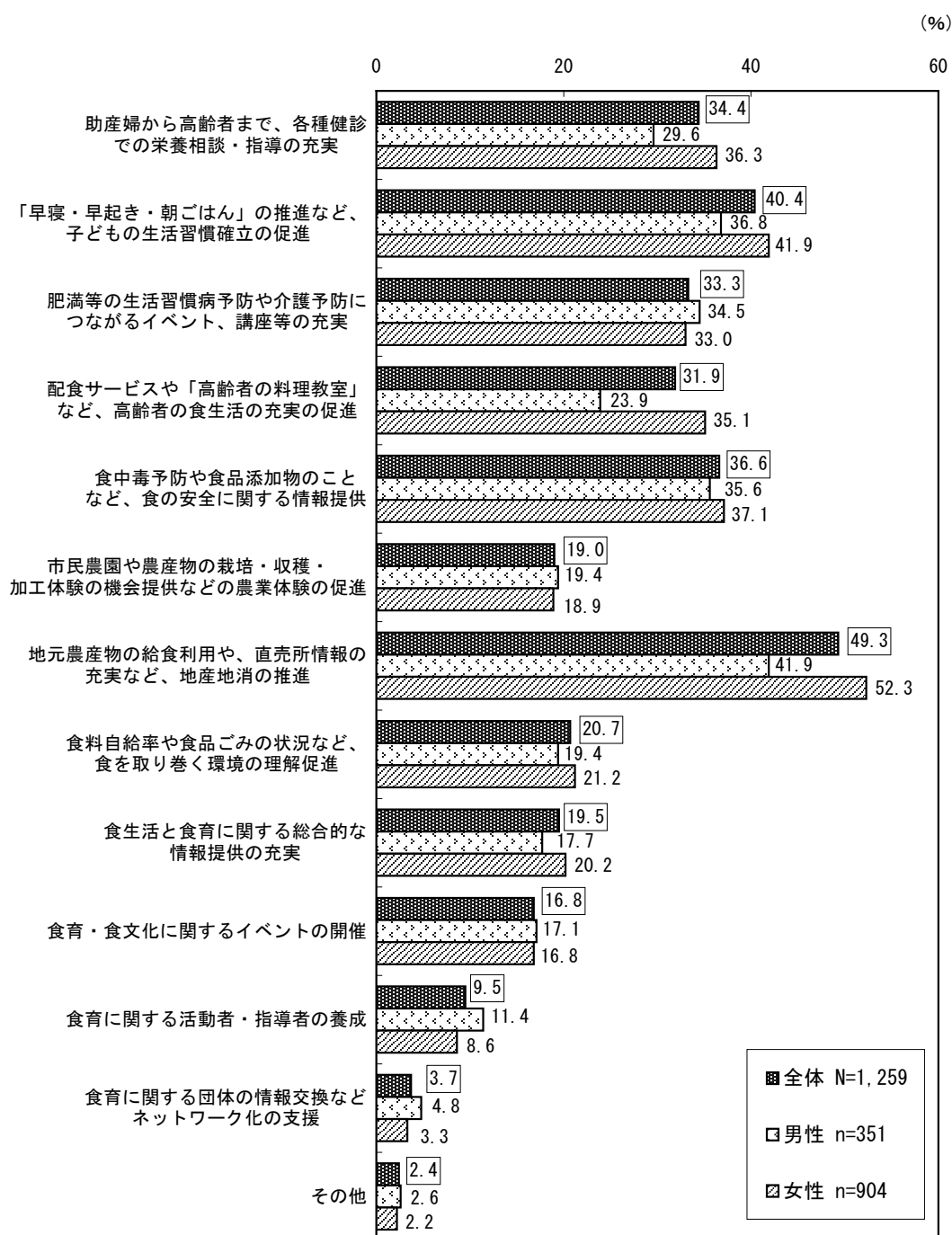
【 全 体 ・ 性 別 】



7. 市への提案

問 32 あなたは、健全で豊かな食生活の実現に向けて、食育を推進するために、市にどのようなことに重点的に取り組んでほしいですか（〇は5つまで）

- ・「地元農産物の給食利用や、直売所情報の充実など、地産地消の推進」が全体で、49.3%と最も多く、次いで、「早寝・早起き・朝ごはん」の推進など、子どもの生活習慣確立の促進（40.4%）、「食中毒予防や食品添加物のことなど、食の安全に関する情報提供」（36.6%）が多い。
- ・性別では、上記の回答については、女性の構成比の方が多いが、「肥満等の生活習慣予防や介護予防につながるイベント、講座等の充実」、「食育・食文化に関するイベントの開催」等は、男性の方が多い。



Ⅲ. 総括

■小・中学生

○食事について

朝食については、文部科学省の調査により、毎日朝食を食べる子どもほど、学力や体力において優れている傾向にあることが明らかになっており、きちんととる事は子どもの心身の発達にとって重要である。本市においては、8割程度の小・中学生が毎日食べていると答えている。また、朝ごはんを食べない一番大きな理由としては、「時間がない」、「食欲がない」といった理由の割合が高くなっている。

朝食をとる事の重要性について啓発するとともに、「早寝、早起き、朝ごはん」運動のさらなる推進などにより、朝食を食べる生活リズムをつくる必要がある。

夕食については、小・中学生ともに7～8時に夕食を食べている人が最も多く、半数以上は8時ごろまでに食べている。夕食時間が8時以降になる理由としては、小学生は学校外のスポーツクラブが特に男子で多いが、中学生になると、学習塾、学校のクラブ活動で夕食時間が遅くなる子どもが増え、子ども自身の活動が食事時間に大きく影響していることがわかる。

食事を誰ととるかについては、朝食と夕食で状況に差がある。夕食は家族の誰かと一緒や、家族揃って食べるという子どもが合わせて9割をこえているが、一方で、朝は一人で食べる子どもも多く、小学生では2割強、中学生では3割強が一人で食べている。その間大人は家事をしたり、仕事に行ったりしている場合が多いようである。

家族が多忙なために、子どもが一人で食べる「孤食」になってしまっている状況があることが伺え、社会環境が子どもの生活にまで影響していることがわかる。こういったことから、食育は家庭だけでなく社会全体の問題として取り組む必要があるといえよう。子どもが一人で食べることは、自分の好きなものしか食べない「固食」につながったり、食事のマナーが身につかなかったりすることが懸念され、大人もできる限り子どもと同じテーブルについて食事をとるような工夫が求められる。

○間食について

おやつを週に何回食べるかという頻度については、「毎日食べる」子どもは中学生に比べて小学生が3割強で多くなっているが、子どもにより差があることが分かる。よく食べられているおやつとしては、「スナック菓子」、「アイスクリーム」、「ジュース」の割合が高い。

夕食後のいわゆる“夜食”については、「ほとんど食べない」が小・中学生ともに4割程度で最も割合が高いが、逆に5割程度の方は週に2～3回以上は夜食をとっているといえる。よく食べられている夜食としては、「アイスクリーム」、「ジュース」の割合が特に高く、「スナック菓子」、「くだもの」、「牛乳・チーズ・ヨーグルト」などの割合も高い。

ジュース類については、「ほとんど飲まない」が小学生で3割弱、中学生が2割弱で、中学生が小学生に比べて飲んでいる傾向にある。

間食については、子どもの楽しみでもあろうが、糖類を過剰に摂取してしまうと、低血糖症で脳がうまく機能しなくなることもあり、集中力や落ち着かなくなるなどの症状が出るとされている。また、夜食については、とりすぎが朝食の欠食につながったり、肥満や虫歯の原因にもなる。塾通いなどで夜食をとる場合には、「アイスクリーム」、「ジュース」、「スナック菓子」などは避

け、「くだもの」、「ヨーグルト」などの消化のよいものをとること、就寝の2時間前までにとることなど、健康への配慮についての情報提供や啓発が必要とされている。

○どんな食事が楽しいか

小学生と中学生を比べると、楽しいと感じる食事に違いがあり、小学生では「家族と外食したとき」が最も割合が高いが、中学生では「友だちと食べる時」が最も割合が高くなっている。

また、小学生では「いつも楽しい」が5割程度であるが、中学生では約3割と割合が低く、「学校での昼食」については小学生で3割弱、中学生が2割弱とともに割合が低めとなっている。

食事を楽しむことは精神的な豊かさをもたらす。特に中学生では、食事の場面で楽しいと感じられるようにするために必要なことについて検討する必要がある。

○食事作りの手伝いや料理の経験について

食事の準備や食事づくりの手伝いについては、「ときどき手伝う」が小・中学生の半数程度で、「よく手伝う」については、小学生が4割弱、中学生が約3割となっている。性別で手伝いの状況に差があり、女子が男子に比べ手伝いをしている傾向にある。

自分だけで料理を作ったことがあるかについては、小学生で8割程度、中学生で6割強が「作ったことがある」と回答している。食事の手伝いと同様、この回答では男子より女子の割合が高くなっている。

食事作りをすることで、素材についての関心や命に対する感謝など、食についての関心を高めることにつながる。食事作りは家庭の重要な仕事の一つであるが、役割が女性に偏っている傾向にある。男女共同参画の視点からみると、今回の結果が“料理は女性がするもの”という性別による固定的な意識が関係している可能性もあるため、男女がともに食事作りに積極的に参加できるような教育を展開していく必要がある。

○食事のときの「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつについて

あいさつを「している」、「だいたいしている」を合わせた『している人』は小学生で9割をこえ、中学生でも9割弱で割合が高い。しかしながら、「給食のときだけしている」、「していない」といった回答も1割程度みられる。

あいさつやマナーなどの基本的な所作については、この時期にしっかりと習得させることで、食を通じた豊かな人間形成ができる。家庭や学校などが連携し、共通認識をもって取り組むことが重要である。

○「食育」、「地産地消」の言葉の認知、農畜産物や農業への関心について

「食育」、「地産地消」という言葉に関して、内容を知っている人よりも、「食育」は「聞いたことがある」、「地産地消」は「はじめて聞いた」という人がそれぞれ最も多い。両方の言葉については、小学生に比べて中学生の認知度が高い傾向にある。

また、地元の農畜産物を家庭で使用しているかについては、「わからない」が小学生では5割強、中学生では7割強と割合が高くなっており、関心が薄い傾向にある。「食育」や「地産地消」という言葉の理解をしていない子どもが多いことから、食材についての関心を高めるような学習の工夫が必要であろう。

学校や地域での農業体験については、「参加したい」については中学生に比べて小学生の関心

が高い。特に小学生の女子が約7割で割合が高い。

農業体験などを通し、生産者との交流によって感謝の念や自然の恩恵を体験的に学ぶことができる。このような機会を持つことは、あまり農業体験に積極的でない中学生に対しても、興味・関心を高める上で重要であり、今後の更なる推進が期待される。

○行事食、郷土料理について

行事食については、家庭で食べられているものも多く、特に「正月」、「節分」、「桃の節句」、「七夕」、「大晦日」の割合が高い。逆に、「十五夜」については食べている家庭は3割程度と他に比べて少なめである。

郷土料理や伝統料理を習いたいかについては、中学生では「わからない」が最も多く、小学生では「習いたい」が5割強で関心が高い。特に男子では、小学生のうち「習いたい」が多数派であるが、中学生になると「習いたくない」と思う人のほうが多くなっているため、興味・関心がある小学生の段階で体験する機会をもつことが、食の伝統や文化を伝える上で有効であると思われる。

○食べ残しなどがもったいないと思うか

小・中学生ともに「いつも感じている」と「ときどき感じている」を合わせて9割をこえ、食や命を大切にする気持ちが育っているといえる。

○食品表示、食物アレルギーについて

食品表示を見るかについては、男子より女子の方が見ている傾向にある。関心の高い小学生女子では「見る」が8割をこえるが、中学生の男子については「見ない」が4割強で、関心のない人も多い。見る人のうち、9割以上が「賞味（消費）期限」を見ており、次いで、小学生で「産地・生産者名」、中学生では「内容量」がそれぞれ4割程度で割合が高い。

食の安全性についてや栄養のバランスなど食に関する知識については、学校給食などを活用し、まずは興味・関心を抱かせるような教育が必要である。

食物アレルギーについて、「知っている」が7割程度であり、特に「卵」の認知度が高い。小学生では、「えび」、「ピーナッツ」について6割程度の認知があるが、中学生では加えて、「小麦粉」、「そば」も6割程度の認知がある。アレルギーは持たない人が約7割である。

■高校生

○食事について

朝食については、8割程度の高校生が毎日食べていると答えている。また、朝ごはんを食べない一番大きな理由としては、「時間がない」、「食欲がない」といった理由の割合が高くなっている。特に「時間がない」については女子の割合が高く、身だしなみにかける時間等が影響している可能性もある。

朝食をとる事の重要性について啓発するとともに、「早寝、早起き、朝ごはん」運動を高校生まで広げるなど、一貫した教育を行っていく必要がある。

夕食については、過半数が8時以降に食べており、10時以降という生徒も約1割いる。夕食時間が8時以降になる理由としては、学校のクラブ活動が5割強で最も割合が高い。また、食事の準備ができていないという回答も1割程度で、子ども自身の活動だけでなく、共働きなどで親の食事の準備が遅くなっていることなども考えられる。

食事を誰ととるかについては、朝食と夕食で状況に差がある。夕食は家族の誰かと一緒や、家族揃って食べるという子どもが多いが、一人で食べる子どもについては朝食、夕食ともに小・中学生と比べて割合がぐっと増える。特に朝は一人で食べる子どもが4割弱いる。その間大人は家事をしている場合が多いようである。

子どもが成長すると食事の手助けは必要でなくなるが、思春期の只中にある高校生だからこそ、家族のだんらんやコミュニケーションの時間は必要であり、大人が意識して食事をともにすることも大切である。

平日の昼食については、弁当を食べている高校生が9割弱で多い。

○間食について

おやつを週に何回食べるかという頻度については、子どもにより差があることが分かる。よく食べられているおやつとしては、「ジュース」、「菓子パン」、「スナック菓子」の順に割合が高い。また、小・中学生の嗜好と比べ、「菓子パン」、「食パン・おにぎり」などエネルギーになるようなものが好まれるようになっている。

夕食後の“夜食”は、半数以上は週に2～3回以上とっている。よく食べられている夜食としては、「ジュース」、「アイスクリーム」の割合が特に高く、「牛乳・チーズ・ヨーグルト」、「スナック菓子」などの割合も高い。

ジュース類については、「ほとんど飲まない」が2割弱で、飲んでいる人が多い傾向にある。特に男子が女子に比べ、一週間に飲む量が多い。ジュース類については糖分が非常に多いため、摂り方などについての指導や情報提供をする必要がある。

○どんな食事が楽しいか

「友だちと食べる時」が4割強で最も割合が高く、「いつも楽しい」は3割強である。また、「家族と外食したとき」については、小学生で5割程度であるが、高校生では2割強まで割合が下がり、成長とともに割合が低くなっている。自立していく年代になり、親よりも友だちの方が食事を楽しめる存在になっているという人間関係の変化が感じられる。

○食事作りの手伝いや料理の経験について

食事の準備や食事づくりの手伝いについては、「ときどき手伝う」が2人に1人、「よく手伝う」が5人に1人、「手伝わない」が4人に1人となっている。小・中学生と比べ「よく手伝う」が減り、「手伝わない」が増えているが、学校のクラブ活動などを行っている生徒も多いことから、生活の変化も一因であると考えられる。性別で手伝いの状況に差があり、女子が男子に比べ手伝いをしている傾向にある。

自分だけで料理を作ったことがあるかについては「作ったことがある」が男子で5割弱、女子で7割弱となっている。食事の手伝いと同様、この回答では男子より女子の割合が高くなっている。

食事作りをすることで、素材についての関心や命に対する感謝など、食についての関心を高めることにつながる。また、“料理は女性がするもの”という性別による固定的な意識が結果に関係している可能性があるため、高校生においても、男女がともに食事作りに積極的に参加できるような機会づくりに取り組む必要がある。

○食事のときの「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつについて

あいさつを「している」、「だいたいしている」を合わせた『している人』は9割弱で割合が高い。しかしながら、「していない」といった回答も全体で1割強みられ、特に男子で割合が高めである。

あいさつやマナーなどの基本的な所作についての指導を行う必要がある。

○「食育」、「地産地消」の言葉の認知、農畜産物や農業への関心について

「食育」、「地産地消」という言葉については小・中学生に比べ認知度が高い。内容を理解している人は「食育」については4割程度、「地産地消」については6割程度いる。

また、地元の農畜産物を家庭で使用しているかについては、「わからない」が男子で7割弱、女子が5割弱で、男子の関心が薄い傾向にある。食材についての関心を高めるような学習の工夫が必要であろう。

学校や地域での農業体験については「参加したい」が4割弱で、特に女子が積極的である。体験活動を行うことは、食に対する関心の高まりが見込まれるだけでなく、“職業としての農業”の魅力を伝える機会にもなり得る。後継者の育成という面からも、地元の生産者など地域も積極的に協力することが望まれる。

○行事食、郷土料理について

行事食については、家庭で食べられているものも多く、特に「正月」、「節分」、「桃の節句」、「七夕」、「土用」、「大晦日」の割合が高い。逆に、「十五夜」については食べている家庭は約2割と他に比べて少なめである。

郷土料理や伝統料理を習いたいかについては、「習いたい」が女子で約6割、男子が3割強で性別により差がある。食の伝統や文化を伝えるためにも、男女ともに体験できる機会を持つことが重要といえる。

○食べ残しなどがもったいないと思うか

ほぼ全員が「いつも感じている」又は「ときどき感じている」と答え、食や命を大切にする気持ちが育っているといえる。

○食品表示、食物アレルギーについて

食品表示を見るかについては、男子より女子の方が見ている傾向にある。女子では「見る」が約8割であるが、男子については「見ない」が約4割で、関心のない人も多い。

どのような表示を見るかについては、9割以上が「賞味（消費）期限」を見ており、「内容量」、「原材料名」、「栄養成分表示」の割合が高い。また、小・中学生に比べ、全体的に表示の項目の関心度が高くなっている。

食の安全性や栄養のバランスなど食に関する知識を得ることと合わせ、選択力を身につけられるような教育も高校生の段階では必要であろう。

食物アレルギーについては、「知っている」が8割強であり、特に「卵」、「そば」、「えび」、「ピーナッツ」の認知度が高く、小・中学生に比べてアレルギー食品の認知度は上がっている。

アレルギーは持たない人が8割弱である。

○食育について

「食育」という言葉について、「はじめて聞いた」という人は全体の約2割で、それ以外の人は言葉を耳にしたことがあるとこたえている。また、特に女性で認知度が高く、「食育」への関心も女性が高い結果となっている。今後は特に男性に向けた啓発を意識的に行うことが求められている。

食育に関心がある理由は、「食生活の乱れが問題になっているから」が約7割と最も多く、生活習慣病の増加や子どもの心身の健全な発育の為という意見も多い。逆に、食育に関心がない理由としては、「食育」自体についてよく知らないから」が3割強と最も多く、次いで「他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから」、「食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから」となっている。

関心がない人に対しては、まずはその意義に関して周知が必要である。また、健康や食事に関心が薄い人こそ、栄養バランスの偏った食事や不規則な食事になりがちであるため、啓発の工夫が求められる。

一方で「食育」を取り組む上で特に大切と考えられている対象者は、「小・中・高校生」が7割程度で最も多く、次いで、「乳幼児」が5割弱である。「食育」の対象は、子どもなど年少者と考えられているようだが、食は誰にでも関わりがあり、人間の生活の基本である。子どもへ伝えていくためにも、大人が積極的に学ぶことは重要である。

食育に関する事業については、参加したことがある人は全体で1割に満たない。関心がある取組として、「生活習慣病予防などのための料理教室」、「食生活の改善に関する活動」、「食品の安全や表示に関する活動」などの割合が高く、今後の取組が求められる。

○食生活について

朝食、昼食、夕食を食べているかについては、ほとんどの人が食べる傾向にあるが、朝食については食べない傾向にある人も1割程度おり、食べないことが習慣になっていたり、時間や食欲がなかったりすることが理由となっている。また、食事時間は、一定である人が7割をこえているが、逆にそうでない人も2割程度いることがわかる。

食生活が不規則になると、肥満など生活習慣病を起す要因となる。特に単身者など食生活が乱れがちな人に注意を促すような啓発が必要と考えられる。

食事の準備時間は朝食、昼食は30分までの準備時間の割合が高いが、夕食では30分以上かけて作る人が多くなっており、この夕食の準備時間については、休日も平日とほぼ同じである。食事づくりについては女性が分担している割合が高く、男性の分担についても啓発していく必要がある。

食生活で気になることについては、「野菜が足りない」、「カルシウムが不足している」、「好き嫌いが多く、食べるものがかたよっている」が多くあがっている。女性と男性では、気遣っている点に違いがあり、自分の食生活や性別での病気のかかりやすさなどを意識しているとも考えられる。

さらに、健康維持に関連して、実際に食生活の改善に取り組んでいる人は2割強、食生活の改善を望む人は4割強で割合が高い結果となっている。近年増加し、全国的に問題となっているメタボリックシンドローム等の生活習慣病リスクを根本的に改善するには、食生活を見直すことが不可欠であり、講習会の開催等の支援が求められている。

また、食生活について相談したい人は、性別では男性は「家族」が多く、女性は「栄養士」、「家族」が特に多いが、「相談したいと思わない」人が全体で3割いる。マスコミなどから食に関する情報を得ている人も多いが、たくさんの情報がある中で、自分に有益な情報や正しい情報を選択することも必要とされ、市においても、食に関する正しい知識の普及や専門的な相談窓口の周知を図るなどの支援を行う必要がある。

食事の際のあいさつについては、あいさつを「している」、「だいたいしている」を合わせた『している人』は約8割で割合が高いが、「していない」といった回答も全体で2割程度みられ、特に男性で割合が高めである。生産者との交流などを通じた食への感謝を感じられる機会をもつことも有効であると思われる。

食べ残しの食品の廃棄については、男女とも「いつも感じている」又は「ときどき感じている」と9割以上が答えており、食べ残しを減らす努力をしている人も多い。

○食の安全・安心について

食の安全性については、男女とも関心が高いが、不安に感じているかでは男性で3割程度、女性では約5割となっており、男女の意識の差がある。

実際に食材の購入において気をつけている点については、全体的に意識している割合は女性が高く、特に「鮮度」、「価格」、「産地」に気をつけている割合が高い。加工食品では「賞味期限・消費期限」、「産地」、「価格」に特に気をつけている割合は高いが、それに比べると「原材料」や「食品添加物」、「栄養、カロリー」についての関心は低めである。

食の安全に関して気をつけている点についても、性別で意識に差があり、「賞味期限・消費期限内に食べる」は男女ともに最も割合が高く差は少ないが、他の事項は女性の関心が高い。

食品に含まれる有害な微生物や化学物質等の危険要因を摂取することにより、健康に悪影響を及ぼす恐れもある。食の安全性に関する知識や情報を得て自ら選び取ることは、健康維持のためにも重要であり、情報提供や啓発を行う必要がある。

○地産地消について

家庭で地元の農畜産物を使用しているかについては、8割程度が使用しているが、使用しているかの自覚がない人もいる。

市内の直売所については、約8割の人が利用するところとされており、特に買物の機会が多い女性の利用が多い。利用する理由は、「鮮度」が4割程度で最も多く、次いで「安全」であり、「品揃え」を理由とする割合は低い。鮮度や安全についての信頼確保のため、消費者の期待にこたえる供給体制の整備が重要であるとともに、今後は出品の拡大に向けた取組を行うことも考えられる。

地産地消のために効果的な方策としては、「スーパー等に飯塚市産のコーナーを設置する」、「農畜産物直売所の充実」と販売の機会を拡充することが効果的と考えている人が多い。次いで、「学校給食や保育所給食での地産地消の利用促進」、「直販マップなど買える場所の情報提要」となっている。地元農産物を紹介するイベントについては、「近ければいく」という割合が高く、関心は高いといえる。

○食文化・伝統料理について

地元の郷土料理・伝統料理について、知っている人が5分の1程度で、そのうち家庭で郷土料理・伝統料理を作るとこたえた人は6割強である。今後の更なる認知度の向上のためには、レシ

ピの提供などを積極的に行う必要がある。

日本の伝統的な行事食については、食べられているものが多いことがわかり、特に「正月」、「大晦日」の割合が高い。逆に、「十五夜」については食べている家庭は3割程度と他に比べて少なめである。

郷土料理や伝統料理を習う機会があれば参加したいかについては、3割の人が参加の意向にある。

食生活改善推進会等と協力しながら、地場食材を利用した料理教室などに取り組み、食文化の継承を支援していくことが考えられる。

○市への提案

「地元農産物の給食利用や、直売所情報の充実など、地産地消の推進」が全体で約5割と最も多く、次いで、「早寝・早起き・朝ごはん」の推進など、子どもの生活習慣確立の促進、「食中毒予防や食品添加物のことなど、食の安全に関する情報提供」が多い。

性別では、上記の回答については、女性の構成比の方が多いが、「肥満等の生活習慣予防や介護予防につながるイベント、講座等の充実」、「食育・食文化に関するイベントの開催」等は、男性の方が多い。

今後も市民の要望を取り入れることで、興味・関心のある分野を特に尊重し、食育を推進していくことが重要である。